

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
1	① 2 次	② 第一次大極殿院北方官衙地区 6ABO NZ 590910	③	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径6.0 硯面径4.5 残高1.2	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1962『平城報告Ⅱ』（学報15）PL. 54-8		⑧ PL. 1 Ph. 1	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数20。硯部内外面ロクロナデ。硯面摩滅、墨痕著しい。猿投窯産。			
2	① 5 次	② 第一次大極殿院北方官衙地区 6ABO IE84 601227	③	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径14.0 残高3.8	⑥ 正置（脚台部上面に降灰）	
	⑦ 奈文研1962『平城報告Ⅱ』（学報15）		⑧ PL. 1 Ph. 1	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数7。脚柱部上端に沈線1条。			
3	① 5 次	② 第一次大極殿院北方官衙地区 6ABO I 区 630725	③ SK238	SK238
	④ 圈足円面硯 c	⑤ 外堤径6.9 硯面径5.8 脚部径10.1 器高3.9	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1967『平城報告Ⅳ』（学報17）fig. 9-1 PL. 40-272		⑧ PL. 1 Ph. 1	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数8。透孔間に縦沈線と竹管文。脚下端外反。猿投窯産。			
4	① 6 次	② 第一次大極殿院北方官衙地区 6ABO JN88 610526	③ 床土	包含層
	④ 円形硯（双脚）	⑤ 復原長14.4 復原幅16.0 残高3.2	⑥ 正置（硯面降灰、円形重焼痕）	
	⑦ 奈文研1967『平城報告Ⅳ』（学報17）fig. 9-2 PL. 40-271、奈文研1962『1962年度年報』p. 2~8		⑧ PL. 1 Ph. 1	
	⑨ 長方形板状脚2個。外縁～裏面ヘラケズリ。硯面に径6.9cmの円形重焼痕。硯裏面にも重焼痕。			
5	① 7 次	② 第一次大極殿院北方官衙地区 6ABO DQ53 610907	③ 床土下部	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径16.4 硯面径10.2 脚部径19.7 残高5.2	⑥ 倒置？	
	⑦ 奈文研1967『平城報告Ⅳ』（学報17）不掲載、奈文研1962『1962年度年報』p. 2~8		⑧ PL. 1 Ph. 1	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数8。脚下端外反。脚端ゆがむ。脚部内面に土器片付着。			
6	① 7 次	② 第一次大極殿院北方官衙地区 6ABO GT77 610731	③	包含層
	④ 風字硯（円頭）	⑤ 残存長11.4 復原幅11.4 残高3.0	⑥ 倒置（硯裏面に降灰）	
	⑦ 奈文研1967『平城報告Ⅳ』（学報17）不掲載、奈文研1962『1962年度年報』p. 2~8		⑧ PL. 1 Ph. 1	
	⑨ 復原脚数2。硯部裏面長軸方向ヘラケズリ。陶邑窯産か。			
7	① 8 次	② 第一次大極殿院北方官衙地区 6ABO AN55 620302	③ 床土下	包含層
	④ 圈足円面硯 c	⑤ 外堤径7.9 硯面径5.0 残高2.4	⑥ 正置（硯面～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1967『平城報告Ⅳ』（学報17）不掲載		⑧ PL. 1 Ph. 1	
	⑨ 円頭長方形透孔。復原透孔数4。幅広脚柱の中央に縦沈線1条。低い外堤。硯部内面に爪形痕。			
8	① 10次	② 内裏北外郭地区 6AAO QC74・QB72 620811・620903	③ 溝状土器溜	SD536
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径23.0 残高4.1	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 55-13		⑧ PL. 1 Ph. 2	
	⑨ 2片接合。復原脚数12。脚部内面横削り、脚内面取り。蹄脚円面硯Bの技法明瞭。陶邑窯産。			
9	① 10次	② 内裏北外郭地区 6ABB CI89・CH87 620804・620806	③ □□・盛土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径13.4 硯面径9.0 脚部径17.0 器高5.4	⑥ 正置（硯面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 55-2、奈文研1963『1963年度年報』p. 2~9		⑧ PL. 1 Ph. 2	
	⑨ 2片接合。長方形透孔。復原透孔数10。透孔間に縦沈線3条。透孔下に縦沈線1条。脚端外反肥厚。			
10	① 10次	② 内裏北外郭地区 6AAO RF71 620803	③ 溝	SD487
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.6	⑥ 正置（脚部外面に降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）不掲載、奈文研1963『1963年度年報』p. 2~9		⑧ Ph. 2	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。脚数不明。側面切りママ。SD487は内裏北外郭南築地の南を流れる溝。報告では平安時代初頭。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
11	① 11次	② 内裏北外郭地区 6ABB AC83 630215	③ 溝	SD557
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径18.0 残高3.4	⑥ 倒置（硯部内面）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）、奈文研1963『1963年度年報』p. 2～9		⑧ PL. 1 Ph. 2	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数7。外堤端部内肥厚。内外面ロクロナデ。12に類似するが焼成法が異なる別個体。			
12	① 11次	② 内裏北外郭地区 6ABB AC83 630215	③ 溝	SD557
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径18.3 残高3.4	⑥ 正置（外堤上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）、奈文研1963『1963年度年報』p. 2～9		⑧ PL. 1 Ph. 2	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数8。外堤端部内肥厚。内外面ロクロナデ。11に類似するが焼成法が異なる別個体。			
13	① 13次	② 内裏北外郭地区 6AAO DQ19 630808	③ 含炭土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 硯面径18.0	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 55-11の硯部、写真12		⑧ Ph. 2	
	⑨ 脚頭1個。復原脚数20。硯部内面横ケズリ。報告PL. 55-11の図はこの硯部と15の脚部とで合成。			
14	① 13次	② 内裏北外郭地区 6AAO DL21～23 630808	③ 床土下	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径22.0 残高3.1	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）不掲載		⑧ Ph. 2	
	⑨ 脚柱1本。復原脚数不明。脚台外端突出。脚柱内面縦方向ケズリ、脚台内面横方向ケズリ。			
15	① 13次	② 内裏北外郭地区 6AAB UM14 630809	③ 含炭土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径24.6 残高5.2	⑥ 正置（脚台上面～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1973『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 55-11脚部		⑧ PL. 1 Ph. 2	
	⑨ 脚柱2本。復原脚数20。脚柱内側幅広く面取り。脚台内端突出。報告PL. 55-11の図はこの脚部と、13の硯部とで合成。			
16	① 13次	② 内裏北外郭地区 6AAB UN49 630807	③	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径11.2 硯面径8.8 残高3.3	⑥ 正置（硯面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 55-4		⑧ PL. 1 Ph. 3	
	⑨ 十字形透孔、復原透孔数8。硯面外周に突帯がめぐる。透孔上部に突帯2条。			
17	① 13次	② 内裏北外郭地区 6AAB UK49 630807	③	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径13.3 硯面径8.8 残高2.4	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 55-1		⑧ PL. 1 Ph. 3	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数24。海部幅広。硯面外周隆起。透孔上部に突帯1条。猿投窯産。			
18	① 13次	② 内裏北外郭地区 6AAB UP49・UP48 630808	③ 含炭土	包含層
	④ 圈足円面硯 c	⑤ 外堤径20.2 硯面径16.0 残高3.8	⑥ 倒置（硯部内面・外堤外面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 55-5		⑧ PL. 1 Ph. 3	
	⑨ 2片接合。長方形透孔。復原脚数18。写真の脚部は279等を参考にした復原。			
19	① 13次	② 内裏北外郭地区 6AAB UP33 630820	③ 褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径18.8 残高5.1	⑥ 倒置（脚部内外面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 55-10写真		⑧ PL. 1 Ph. 3	
	⑩ 脚柱1本。長方形透孔。復原脚数18。脚柱中央に縦沈線1条。透孔下部に突帯1条。透孔側面切りママ。			
20	① 13次	② 内裏北外郭地区 6AAB UR48 630809	③	包含層
	④ 円形（風字）硯	⑤ 復原直径18.0 復原高2.3	⑥ 倒置（硯部裏面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 56-17		⑧ PL. 2 Ph. 4	
	⑨ 楕円形凹みで海部をつくる。硯面に径約9cmの重焼痕。裏面中央部にヘラ切り痕残る。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
21	① 13次	② 内裏北外郭地区 6AAB UZ	③	包含層
	④ 宝珠硯	⑤ 長径15.4 短径13.7 復原高2.8	⑥ 倒置（硯部裏面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 56-16			⑧ PL. 2 Ph. 4
	⑨ 8角柱の脚4本。硯部型作り。硯面外周に突帯凸帯。範傷（長軸方向の木目）から、66（22南次）と同範。猿投窯産。			
22	① 13次	② 内裏北外郭地区 6AAB UO47 630807	③	包含層
	④ 形象硯（鳥形硯）	⑤ 長径15.7 短径9.8 復原高5.4	⑥ 倒置（硯部裏面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 56-15			⑧ PL. 2 Ph. 4
	⑨ 円柱状脚3本残存。楕円形の鳥体部の前寄りに土手を設けて海部をつくる。裏面はヘラケズリ調整。			
23	① 15次	② 宮西面南門（玉手門）地区 6ADF TO89 640305・640401	③ 土坑・西北上面	SK1623
	④ 鳳字硯（黒色土器B類）	⑤ 復原長17.4 復原幅15.0 復原高3.6	⑥	
	⑦ 奈文研1982『平城報告ⅩⅡ』（学報42）PL. 65-323			⑧ PL. 2 Ph. 4
	⑨ 黒色土器B類。非接合の2片で復原。8角柱形脚1本残存。内外面とも密なヘラミガキ調整。内面外周に沈線。			
24	① 16次	② 宮南面中門（朱雀門）地区 6ABY EE39 640624	③ 灰褐色土	包含層
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 外堤径24.6 硯面径19.4 残高4.5	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『平城報告Ⅶ』（学報34）PL. 46-202			⑧ PL. 2 Ph. 4
	⑨ 復原脚数40。密接した脚頭。硯面に径20cmの重焼痕。硯部火膨れあり。脚頭が細身で節が無く獣脚の可能性あり。			
25	① 16次	② 南面中門（朱雀門）地区 6ABY DS43 640711	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯c	⑤ 外堤径13.6 残高2.4	⑥ 正置（海部～硯部外面に降灰）	
	⑦ 奈文研1978『平城報告Ⅶ』（学報34）不掲載、奈文研1965『昭和39年度平城概報』			⑧ PL. 2 Ph. 4
	⑨ 細長方形透孔。復原透孔数不明。透孔の間隔が広い。外堤が低く、突帯が太い。小片からの復原。			
26	① 20次	② 内裏北外郭地区 6AAO MM52 640731	③ 暗灰褐色砂土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径10.4 硯面径7.6 残高1.1	⑥ 正置（硯面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）、奈文研1965『昭和39年平城概報』			⑧ PL. 2 Ph. 5
	⑨ 透孔不明。低い外堤。硯部内面ロクロナデ。			
27	① 20次	② 内裏北外郭地区 6AAO GV28 640901	③ 暗褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径15.2 硯面径9.4 残高2.0	⑥ 倒置（硯部内面・突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）、奈文研1965『昭和39年平城概報』			⑧ PL. 2 Ph. 5
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数10。硯面外周隆起。外堤剝離痕明瞭。透孔上部突帯1条。硯部内面ロクロナデ。			
28	① 20次	② 内裏北外郭地区 6AAO GT29・GT28 640930・640831	③ 畦畔下土・暗褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径12.2 硯面径9.2 残高2.2	⑥ 倒置（硯部内面・突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）、奈文研1965『昭和39年平城概報』			⑧ PL. 2 Ph. 5
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数10。硯面外周突帯状。硯部内面ロクロナデ。外堤の一部押圧変形。陶器産か。			
29	① 20次	② 内裏北外郭地区 6AAO GD30 640813	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径19.0 硯面径13.6 残高2.7	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）、奈文研1965『昭和39年平城概報』			⑧ PL. 2 Ph. 5
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数17。硯面外周浅沈線。硯部内面ロクロナデ。器壁肉厚。			
30	① 20次	② 内裏北外郭地区 6AAO GH27 640820	③ 暗褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径15.8 硯面径15.3 残高3.6	⑥ 正置倒置不明	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 55-3、奈文研1965『昭和39年平城概報』			⑧ PL. 2 Ph. 5
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数13。透孔間縦沈線1条。二次加熱を受け全体に摩滅。報告図を変更。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
31	① 20次	② 内裏北外郭地区 6AAO MP52 640730	③ 土器溜	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径7.8 残高2.1	⑥ 正置 (脚部外面降灰)	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』(学報26) PL. 55-6、奈文研1965『昭和39年平城概報』		⑧ PL. 2 Ph. 5	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数30。脚端外反。写真の硯部は復原。			
32	① 21東次	② 内裏東方官衙地区 6AAC BH04・BG04 650107・650106	③ 灰褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径15.0 硯面径9.2 残高6.0	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『昭和39年平城概報』、奈文研1965『1965年度年報』 p. 34~37		⑧ PL. 2 Ph. 5	
	⑨ ト字形透孔。復原透孔数4。硯部内面不定方向ナデ。硯面に径11.1cmの重焼痕と火襷き。陶呂窯産?			
33	① 21東次	② 内裏東方官衙地区 6AAC BE12 641226	③ 褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径9.0 硯面径6.4 脚部径10.0 器高2.6	⑥ 正置 (硯面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『昭和39年平城概報』、奈文研1965『1965年度年報』 p. 34~37		⑧ PL. 3 Ph. 5	
	⑨ 脚部外面に透孔状刺突文。復原数60。刺突文状透孔は貫通しない。脚部外反、端部が内外に肥厚。			
34	① 21東次	② 内裏東方官衙地区 6AAC HS27 641215	③ 溝 黒下	SD2700
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高6.4	⑥ 正置 (脚柱外面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1965『昭和39年平城概報』、奈文研1965『1965年度年報』 p. 34~37		⑧ Ph. 6	
	⑨ 脚柱1本。脚柱内面横ケズリ。脚柱外面に削り残し。透孔側面切りママ。脚台外面横ケズリ。脚台内端突出。			
35	① 21東次	② 内裏東方官衙地区 6AAC BG03 650113	③ 灰褐色砂質土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径15.5 硯面径12.9 残高2.5	⑥ 正置 (硯面~突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『昭和39年平城概報』、奈文研1965『1965年度年報』 p. 34~37		⑧ PL. 3 Ph. 6	
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数16。低い外堤で溝状の海部。透孔斜向き。硯部内面ロクロナデ、中央肥厚気味。陶呂窯産?			
36	① 21東次	② 内裏東方官衙地区 6AAC HU27 641215	③ 溝 黒下	SD2700
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径10.6 硯面径7.0 残高3.0	⑥ 倒置 (硯部内面・突帯下面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『昭和39年平城概報』、奈文研1965『1965年度年報』 p. 34~37		⑧ PL. 3 Ph. 6	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数8。薄い突帯。硯面凹凸あり。硯面裏不定方向ナデ。重焼痕あり。透孔側面切りママ。			
37	① 21東次	② 内裏東方官衙地区 6AAC BE05 650109	③ 灰褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径18.4 残高4.8	⑥ 正置 (外面~突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『昭和39年平城概報』、奈文研1965『1965年度年報』 p. 34~37		⑧ PL. 3 Ph. 6	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数14。透孔下に突帯。内屈する脚部。脚端内外に小さく肥厚。透かし側面切りママ。陶呂窯産?			
38	① 21東次	② 内裏東方官衙地区 6AAC HL27 650116	③ 溝 I 砂	SD2700
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径18.0 残高5.0	⑥ 倒置 (脚柱内面・突帯下面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『昭和39年平城概報』、奈文研1965『1965年度年報』 p. 34~37		⑧ PL. 3 Ph. 6	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数17。脚柱中央縦沈線1条。透孔下に突帯1条。内湾気味の脚台。脚部内面ロクロナデ。			
39	① 21東次	② 内裏東方官衙地区 6AAC HW27 641215	③ 溝 黒下	SD2700
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径11.5 残高2.6	⑥ 倒置 (脚端下面~内面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『昭和39年平城概報』、奈文研1965『1965年度年報』 p. 34~37		⑧ Ph. 6	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数8。短めの脚。外反する脚の端部肥厚。脚部内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			
40	① 21東次	② 内裏東方官衙地区 6AAC HR27 641215	③ 溝 黒下	SD2700
	④ 風字硯 (二面)	⑤ 残存長10.0 復原幅19.2 残高2.0	⑥ 正置 (硯面わずかに降灰)	
	⑦ 奈文研1965『昭和39年平城概報』、奈文研1965『1965年度年報』 p. 34~37		⑧ PL. 3 Ph. 6	
	⑨ 硯尻裏面に五角柱脚剝離痕。側縁上面と硯尻端ヘラケズリ。硯面縦突帯で2面に区分。左面不使用。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
41	① 21西次	② 内裏東方官衙地区 6AAC IV34 641201	③ 整地層	包含層
	④ 円形硯	⑤ 外堤径15.0 硯面径13.0 残高3.2	⑥ 倒置 (硯側面わずかに降灰)	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』(学報26)、奈文研1965『1965年度年報』p. 34～37		⑧ PL. 3 Ph. 6	
	⑨ 7角脚柱1残存。3脚の可能性あり。硯面裏周縁ヘラケズリ、中央板目圧痕。硯面の磨耗著しい。			
42	① 21西次	② 内裏東方官衙地区 6AAC NO41 641127	③ 盛土中	包含層
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 外堤径32.6 脚部径36.0 復原高12.1	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』(学報26) fig. 42、奈文研1965『1965年度年報』p. 34～37		⑧ PL. 3 Ph. 7	
	⑨ 復原脚数24。硯面欠。長大な外堤。縦長気味脚頭の上面に範の木目痕。板状脚台内面横ケズリ。大型蹄脚円面硯Aの典型。			
43	① 21西次	② 内裏東方官衙地区 6AAC ND42 641215	③ 柱穴3	SB2420
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 脚部径26.4 残高4.3	⑥ 正置 (脚台上面降灰)	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』(学報26)、奈文研1965『1965年度年報』p. 34～37		⑧ Ph. 7	
	⑨ 脚柱2本残存。復原脚数19。脚台外・内面横ケズリ。脚柱内面横ミガキ、外面シャープな縦ケズリ。			
44	① 21西次	② 内裏東方官衙地区 6AAC ND43 641211	③ 東西溝	SD2350
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径9.0 硯面径6.2 残高2.4	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』(学報26)、奈文研1965『1965年度年報』p. 34～37		⑧ PL. 3 Ph. 7	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数19。硯部内面ロクロナデ中央隆起。硯面肉厚。			
45	① 21西次	② 内裏東方官衙地区 6AAC NJ36 641216	③ 築地西 褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径12.4 硯面径9.0 残高2.4	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』(学報26)、奈文研1965『1965年度年報』p. 34～37		⑧ PL. 3 Ph. 7	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数17。海と陸の境を沈線で区分。高台形外堤。硯面内面ロクロナデ。			
46	① 21西次	② 内裏東方官衙地区 6AAC NM39 641128	③ 整地層	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径10.0 硯面径7.0 残高1.6	⑥ 正置 (突帯上面かすかに降灰)	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』(学報26)、奈文研1965『1965年度年報』p. 34～37		⑧ PL. 3 Ph. 7	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24。外堤側面に櫛描き波状文。硯面ロクロケズリ。硯部内面ロクロナデ。硯面覆い焼。猿投窯系。			
47	① 22南次	② 東方官衙地区 6AAF BP～BS52 650610	③ 溝 3砂	SD3410
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径24.2 硯面径18.8 残高3.9	⑥ 正置か (海部降灰)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』(史料8)		⑧ Ph. 7	
	⑨ 脚頭1剝離痕。復原脚数不明。硯部内面の横ケズリからみて蹄脚円面硯Bと推定。			
48	① 22南次	② 東方官衙地区 6AAF BN52 650609	③ 茶褐色粘土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径24.2 残高4.9	⑥ 正置 (脚台外面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』(史料8)		⑧ Ph. 7	
	⑨ 脚柱1本。復原脚数不明。脚柱脚台内面横ケズリ、外面削り残しあり。脚台内端突出。脚部49、硯部47に類似。			
49	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF JC32 650406	③ 暗灰砂質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径25.4 残高5.7	⑥ 正置 (脚台外面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』(史料8)		⑧ Ph. 7	
	⑨ 脚柱1本。復原脚数不明。脚柱脚台内面横ケズリ。透孔側面切りママ。脚台内端突出。硯部47、脚部48に類似。			
50	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF PO46 650419	③ 南北溝 下	SD3236
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径22.8 硯面径17.6 残高5.9	⑥ 正置 (硯部側面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』(史料8)		⑧ PL. 3 Ph. 8	
	⑨ 球形脚柱3個。復原脚数24。硯面外端円弧状。突帯3条。硯部内面ロクロナデ。硯面が外堤より高い。外堤上端凹線状。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
51	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF JJ32 650322	③ 暗褐土	包含層
	④ 円面硯	⑤ 硯面径17.2 残高1.2	⑥ 正置（硯面に薄く降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』（史料8）		⑧ Ph. 8	
	⑨ 硯面部のみ。透孔形状、脚数不明。硯面外縁突起周囲。広く平坦な海部。圈足円面硯A？			
52	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAE LP31 650505	③ 東柱穴	SA3178
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 硯面径13.9 残高2.3	⑥ 正置（海部～外側面降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』（史料8）		⑧ PL. 3 Ph. 8	
	⑨ 硯部のみ。外堤欠損。硯面覆い焼。裏面も硯として使用。尾北篠岡窯産か。			
53	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF JK33 650326	③ 灰褐色砂質土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径20.4 硯面径14.4 残高2.8	⑥ 正置（硯部外縁わずかに降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』（史料8）		⑧ PL. 3 Ph. 8	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数15。硯面外縁に沈線、硯部側面ミガキ。硯面磨耗。硯部～外堤に墨付着、硯面破断面に及ぶ。			
54	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF JE31 640403	③ 青灰色砂質土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径19.7 硯面径14.8 脚部径25.1 器高9.6	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』（史料8）		⑧ PL. 3 Ph. 8	
	⑨ 硯部と脚部は非接合。長方形透孔。復原脚数27。脚柱内側面取り。透孔下に突帯。128・129次の267・279等と同系。			
55	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF JL35 650327 6AAF JG34 650402	③ 褐色砂質土 暗褐土	包含層 包含層
	④ 圈足円面硯 c	⑤ 外堤径13.8 残高3.0	⑥ 倒置（突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』（史料8）		⑧ PL. 4 Ph. 9	
	⑨ 2片接合。透孔不明。脚柱に深い縦沈線多数。低い外堤、長い突帯。硯面外周部に凹線。硯部内面ロクロナデ。			
56	① 22南次	② 東方官衙地区 6AAF BQ52 650610	③ 溝 3 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.6	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』（史料8）		⑧ Ph. 9	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数不明。幅狭い脚柱の中央に縦沈線1条。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			
57	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF NO37 650415	③ 暗褐バラス土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径14.6 残高5.0	⑥ 正置（海部～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』（史料8）		⑧ PL. 4 Ph. 9	
	⑨ 長方形透孔？ 復原脚数19。外堤端部内肥厚。外堤側面に櫛描き波状文。全体に磨耗。			
58	① 22南次	② 東方官衙地区 6AAF BR52 650615	③ 溝 3 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径17.0 残高3.5	⑥ 正置？（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』（史料8）		⑧ PL. 4 Ph. 9	
	⑨ 長方形透孔と四弁花形透孔。それぞれ6個。透孔下端に横沈線1条。脚端外反上肥厚。外面から脚端に墨痕。			
59	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF JG31 650403	③ 暗灰砂質土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径22.0 残高2.3	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』（史料8）		⑧ Ph. 9	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数19。透孔下に突帯1条。脚部は壺の高台状に内外肥厚。60と同一個体。			
60	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF JG31 650403	③ 暗灰砂質土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径22.0 残高4.6	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡2』（史料8）		⑧ PL. 4 Ph. 9	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数19。透孔下に突帯1条。脚部は壺の高台状に内外肥厚。内外面ロクロナデ。59と同一個体。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
61	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF JE34 650326	③ 土器溜	
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径12.6 残高1.1	⑥ 倒置 (内面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡 2』(史料 8)		⑧ PL. 4 Ph. 9	
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数23。脚端外反。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。猿投窯産。			
62	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF NN38 650306	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径19.2 残高5.1	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡 2』(史料 8)		⑧ PL. 4 Ph. 9	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数14。脚柱中央上位に双円形小穴。透孔の上下に横沈線各 1 条。脚端外反、壺口縁状に肥厚。			
63	① 22南次	② 東方官衙地区 6AAF AO52 650611	③ 南北溝 3 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径20.4 残高4.2	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡 2』(史料 8)		⑧ PL. 4 Ph. 9	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24。透孔下端に沈線1条。脚端が壺脚状に内外肥厚。内外面ロクロナデ。			
64	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF KN36 650402	③ 土坑	
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径9.8 硯面径8.0 残高1.9	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡 2』(史料 8)		⑧ PL. 4 Ph. 10	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数25。硯面分厚い。硯部内面ロクロナデ、径 6 cmの重焼痕。			
65	① 22南次	② 東方官衙地区 6AAF EN52 650619	③ 南北溝 3 砂	SD3410
	④ 風字硯	⑤ 残存長5.2 残存幅5.4 厚さ1.1	⑥ 正置? (外堤付近一部降灰)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡 2』(史料 8)		⑧ PL. 4 Ph. 10	
	⑨ 脚の有無形状不明。外堤側面～裏面外周ヘラケズリのちナデ。中央部押さえ。硯面中央部に重焼痕。			
66	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF KN35 650329	③ 土坑上面	包含層
	④ 宝珠硯	⑤ 長径15.4 短径8.7 器高3.5	⑥ 倒置 (硯部裏～外縁降灰)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡 2』(史料 8)		⑧ PL. 4 Ph. 10	
	⑨ 八花硯。八角柱形の脚。4 本? 硯面外縁の突帯と外縁の宝珠形は型作り。長軸方向に木目、範キズあり。猿投窯産。13次の21と同範、32次の144とは異範。			
67	① 22南次	② 東方官衙地区 6AAF AD52 650611	③ 溝 3 砂	SD3410
	④ 多角形硯	⑤ 復原対角30.0 底面円形部径28.4 残高1.2	⑥ 倒置 (硯部裏面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡 2』(史料 8)		⑧ PL. 4 Ph. 10	
	⑨ 扁平無脚・復原12角形。外側面ヘラ削り、外縁面取り。硯面中央部ロクロナデのちミガキ、墨痕著しい。陶邑窯産?			
68	① 22南次	② 東方官衙地区 6AAF AG52・AB52 650607・650611	③ 溝 1 砂・4 砂	SD3410
	④ 形象硯(鳥形硯蓋)	⑤ 残長7.8 残幅11.0 器高2.3	⑥ 正置 (上面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1973『平城報告Ⅶ』(学報26) p. 102 fig. 43-2		⑧ PL. 4 Ph. 11	
	⑨ V 字形と直線で羽毛を表現。U 字形挟り部で頭部をうける。内面長軸方向ヘラケズリ。外側縁ヘラケズリ。猿投窯産。			
69	① 22南次	② 東院西辺地区 6AAF OG46 650420	③ 南北溝 砂	SD3236
	④ 形象硯(鳥形硯蓋)	⑤ 残存長9.8 残存幅7.2 残高3.0	⑥ 正置 (上面降灰釉状、硯部に被せる)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1975『平城宮木簡 2』(史料 8)		⑧ PL. 4 Ph. 11	
	⑨ 上面に V 字形のヘラガキで羽毛を表現。頭部を受ける挟りが一部残存。内面に細布目が微かに残る。			
70	① 22北次	② 内裏東方官衙地区 (造酒司) 6AAC VS15 650412 6AAC VU14 650329	③ 砂Ⅱ 砂上黒褐色バラス内	SD3035 SD3031
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径22.0 残高3.4	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1965『昭和40年度平城概報』		⑧ PL. 4 Ph. 11	
	⑨ 2 片接合。脚不明。突帯 3 条で同径の蹄脚円面硯 B 110 と類似。硯側内面ロクロナデ。外堤より内側を覆い焼?			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
71	① 22北次	② 内裏東方官衙地区（造酒司） 6AAC VX18 641226	③ バラス上	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径16.2 硯面径10.8 残高3.8	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40、奈文研1965『昭和40年度平城概報』		⑧ PL. 4 Ph. 11	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数12。外堤側面と突帯下に櫛描き波状文。硯面裏口クロナデ。77・134とは同工別個体。			
72	① 22北・13次	② 内裏北外郭地区 6AAO CM18 630730 内裏東方官衙地区（造酒司） 6AAC VZ 650428	③	包含層 包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径21.9 硯面径17.0 残高3.5	⑥ 正置（外堤～海部に降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告Ⅶ』（学報26）PL. 55-7、奈文研1965『1965年度年報』p. 38～40		⑧ PL. 5 Ph. 11	
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数18。硯面に重焼痕。硯部内面指頭痕のちナデ。透孔上端は挟り状。複合口縁形外堤。			
73	① 25次	② 宮西面南門（佐伯門）地区 6ADE KL41 650715	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径11.7 硯面径7.0 残高2.1	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『平城報告Ⅶ』（学報34）、奈文研1966『1966年度年報』p. 32～34		⑧ PL. 5 Ph. 11	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数14。硯部内外面口クロナデ。猿投窯産。			
74	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABE KP13 650827	③ 褐色土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径31.0 残高1.5	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』（学報40）p. 185 tab. 33-8		⑧ Ph. 12	
	⑨ 復原脚数32。透孔内側面取り。脚端が壺口縁状に外反。貼付けた蹄脚飾りの胎土、色調が異なる。75と同一個体。			
75	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABE KN09 650916	③ 溝 バラス	SD3715
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径30.8 残高3.9	⑥ 正置（脚部外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』（学報40）p. 185 tab. 33-8		⑧ PL. 5 Ph. 12	
	⑨ 復原脚数32。透孔内側面取り。脚端が壺口縁状に外反。貼付けた蹄脚飾りの胎土、色調が異なる。74と同一個体。			
76	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABE KQ13 650327	③ 褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径17.4 硯面径12.6 残高2.7	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』（学報40）p. 185 tab. 33-13		⑧ PL. 5 Ph. 12	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数16（広狭あり）。硯面外縁有稜。海部に重焼痕。外堤内まで降灰。			
77	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABE KG12 650827	③ 褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径16.1 硯面径11.0 残高3.4	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』（学報40）fig. 90-11		⑧ PL. 5 Ph. 12	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数12。突帯上下に櫛描き波状文。硯部内面口クロナデ。71・134とは別個体。報告は口径14.8cm。			
78	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABD DC09 651018	③ 暗褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径15.6 硯面径11.6 残高3.2	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1966『1966年度年報』p. 34～36		⑧ PL. 5 Ph. 12	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数11。脚柱中央に縦沈線1条。硯面多方向ケズリ、硯部内面多方向ナデ。			
79	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABE KJ17 650831	③ 褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径25.0 硯面径20.1 残高4.0	⑥ 正置（突帯上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1966『1966年度年報』p. 34～36		⑧ Ph. 12	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数不明。外堤端部内側肥厚。硯部側面突帯2条。全体に摩滅著しい。			
80	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABD DB09 651020	③ 南北溝	SD3715
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高10.5	⑥ 正置（突帯上面わずかに降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1966『1966年度年報』p. 34～36		⑧ Ph. 12	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数6。脚柱中央に縦沈線1条。大型。硯部内寄りから脚が伸びる。81と同一個体。			

番号	① 次数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
81	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABD DB09 651020	③ 南北溝上砂	SD3715
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径31.2 残高11.2	⑥ 正置（突帯上面わずかに降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1966『1966年度年報』p. 34～36		⑧ PL. 5 Ph. 12	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数6。脚柱中央に縦沈線1条。大型。硯部内寄りから脚が伸びる。80と同一個体。			
82	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABE KK09 650916	③ 溝 底上	SD3715
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径18.8 残高1.5	⑥ 正置（脚端上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1966『1966年度年報』p. 34～36		⑧ Ph. 12	
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数21。脚下端突帯1条。端部外反。			
83	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABE KS08 650823	③ 南北溝バラス	SD3715上
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径18.7 脚部径21.4 器高8.1	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』（学報40）fig. 90-12 PL. 137-12		⑧ PL. 5 Ph. 13	
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数20。脚柱中央に縦沈線1条、脚中央に横凹線1条。内外ロクロナデ。猿投窯産。			
84	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABE KE09 671024	③ 溝 1砂	SD3715
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.2	⑥ 倒置（内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1966『1966年度年報』p. 34～36		⑧ Ph. 13	
	⑨ 脚柱1本。細長方形透孔。復原脚数不明。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。外面に墨書あり。猿投窯産。			
85	① 27・140次	② 第一次大極殿院地区 6ABD DI03 651020 中央区朝堂院地区 6ABH AI46 821112	③ 溝 上砂 床土	SD3715 包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径17.9 硯面径13.2 残高3.2	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』（学報40）fig. 90-3		⑧ PL. 5 Ph. 13	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数30。硯面周縁突帯。側面突帯2条。硯部内面中央ナデ。東海地方産。約320m離れた2片が接合。			
86	① 27次	② 第一次大極殿院地区 6ABD DC09 651021	③ 溝 中砂	SD3715
	④ 円面硯（無脚）	⑤ 外堤径14.3 硯面径9.8 脚部径13.3 器高2.8	⑥ 正置（硯面降灰釉状、円形重焼痕）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1966『1966年度年報』p. 34～36		⑧ PL. 5 Ph. 13	
	⑨ 硯部下端を削り落し無脚。硯面ヘラミガキ。硯部裏面に径8.5cmの重焼痕。硯面にも重焼痕。猿投窯産。			
87	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAH CI05 660707	③ 溝 1砂	SD3410
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 残高4.5	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』p. 35～36		⑧ Ph. 13	
	⑨ 脚頭1残存。脚頭上部突帯1条。硯部内面横ヘラケズリ。			
88	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAH CL05 660715	③ 溝 2砂	SD3410
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径23.0 硯面径19.0 残高3.3	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』p. 35～36		⑧ Ph. 13	
	⑨ 復原脚数不明。突帯2条で内面の横ケズリが72・109等と類似。外堤より内側に覆い焼痕。内外面に墨付着。			
89	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MR05 660726	③ 溝 1砂	SD3410
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 残高5.9	⑥ 正置（脚外面～脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』p. 35～36		⑧ Ph. 13	
	⑨ 脚柱1本。脚台外面ケズリ。脚台内端突出。脚柱側面面取り。脚柱削り残しあり。脚柱内面横ケズリ。90と酷似。			
90	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MS05 660722	③ 灰褐バラス	SD3410
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径24.5 残高5.6	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』p. 35～36		⑧ PL. 5 Ph. 13	
	⑨ 脚柱2本。復原脚数22。脚台内端突出。脚柱内面横ケズリ。側面面取り。89と酷似。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
91	① 29・32次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MG05 660728 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI OK51 660202	③ 溝 1 砂 東西溝 砂	SD3410 SD4006
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径20.4 残高4.9	⑥ 正置 (脚台上面～外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36		⑧ PL. 5 Ph. 13	
	⑨ 約260m離れた異次数片接合。脚柱 3 本。復原脚数15。脚台内端突出。透孔内側広く面取り。脚柱内面横ケズリ後ナデ。			
92	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MR05 660726	③ 溝 1 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径16.0 硯面径11.2 残高3.3	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36		⑧ PL. 5 Ph. 14	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数12。脚柱中央に縦沈線 2 条。外堤下に突帯 2 条。硯面外縁に小突帯。硯面に重焼痕 (径11.8cm)。			
93	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAH CD05 660703	③ 溝 2 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径11.0 硯面径7.2 残高2.6	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36		⑧ PL. 5 Ph. 14	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24 (広狭あり)。硯部側面突帯 1 条。内外口クロナデ。硯面に径 7 cmの重焼痕。			
94	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MF05 660801	③ 溝 2 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径17.2 硯面径10.5 残高2.9	⑥ 倒置 (硯部内面・外側面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36		⑧ PL. 5 Ph. 14	
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数15。硯面部のみ肉厚。口クロナデ。硯部内面に径10cmの重焼痕。			
95	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MG08 660810	③ 整地層	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径16.9 硯面径13.3 脚部径18.0 器高5.6	⑥ 倒置 (内面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36		⑧ PL. 5 Ph. 14	
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数12。小片からの復原。外堤下に突帯 1 条。脚端玉縁状。内外口クロナデ。			
96	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MG05 660801	③ 溝 2 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径11.5 硯面9.4 残高1.6	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36		⑧ Ph. 14	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数32。硯面部のみ肉厚。硯面に火樺き。約360m上流出土の334と同一個体 (非接合)。			
97	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MH05 660728	③ 溝 1 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径10.0 硯面径7.4 残高2.1	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36		⑧ PL. 5 Ph. 14	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数28。薄手、内外面口クロナデ。透孔側面切りママ。猿投窯産。			
98	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MC05 660730	③ 溝 2 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.1	⑥ 倒置 (内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36		⑧ Ph. 14	
	⑨ 脚柱 1 本。細長方形透孔。内外面口クロナデ顕著。透孔側面切りママ。猿投窯産。99と同一個体か。			
99	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MM05 660701	③ 溝 2 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径15.6 残高1.4	⑥ 倒置 (脚端内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36		⑧ PL. 5 Ph. 14	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数28。壺口縁状脚端。薄手で内外面口クロナデ。透孔側面切りママ。猿投窯産。98と同一個体か。			
100	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAH CG12 660728	③ 灰バラス	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 硯面径17.2 残長4.4	⑥ 倒置 (外堤下面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36		⑧ PL. 5 Ph. 14	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数11。複合口縁状の外堤上半欠損。内外面口クロナデ。全面摩滅。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
101	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAC MC05 660730	③ 溝 1 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 硯面径12.1 残高2.1	⑥ 倒置（硯部内面、突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36			⑧ PL. 5 Ph. 15
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数17。硯面外端を引き出して受け口状の突帯とする。外堤剥離。			
102	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAH CE05 660713	③ 溝 1 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 硯面径10.1 残高4.0	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36			⑧ Ph. 15
	⑨ 長方形透孔。復原脚数17。細い外堤。硯面に小さな段。外堤外を覆い焼か。103と同一個体。			
103	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MH05 660728	③ 灰褐バラス土	包含層
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径14.8 硯面径10.4 残高2.5	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36			⑧ PL. 5 Ph. 15
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数17。細い外堤。厚い突帯。硯部内面口ロナデ。外堤外を覆い焼か。102と同一個体。			
104	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MR05 660726	③ 溝 1 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径14.5 硯面径10.5 残高2.5	⑥ 倒置（硯部内面・突帯下面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36			⑧ PL. 5 Ph. 15
	⑨ 幅広長方形透孔。復原脚数14。硯部内面に径11cmの重焼痕。外堤左回り口ロナデ。硯部内面一方向ナデ。東海地方産。			
105	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAH CH18 660805	③ 灰バラス	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径27.4 硯面径21.4 残高4.0	⑥ 正置（外堤～突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36			⑧ PL. 5 Ph. 15
	⑨ 長方形透孔。復原脚数15。脚部肉厚。硯面薄手。外堤上端外肥厚。外堤下部に突帯 1 条。106・166等と形状・胎土類似。			
106	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAH CD14 660801	③ 穴	SK4362
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径26.0 残高4.6	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36			⑧ Ph. 15
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数23。脚部肉厚、硯面薄手。外堤内覆い焼。105・107・166等と胎土・焼成類似。			
107	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAH CD11 660726	③ 灰バラス	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径26.0 残高4.5	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36			⑧ Ph. 15
	⑨ 長方形透孔。復原脚数23。脚部肉厚、硯面薄手。外堤内覆い焼。105・106・166等と胎土・焼成類似。全面摩滅。			
108	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAH CL18 660806	③ 灰バラス	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 残高5.3	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36			⑧ PL. 6 Ph. 15
	⑨ 幅広長方形透孔。透孔下に突帯 2 条。脚端小さく外肥厚。106・107・166等と胎土・焼成類似。			
109	① 29次	② 東面大垣入隅・東方官衙地区 6AAG MR03 660726	③ 溝 1 砂	SD3410
	④ 円形硯（輪状高台）	⑤ 外堤径18.6 脚部径15.6 器高1.8	⑥ 倒置（外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』 p. 35～36			⑧ PL. 6 Ph. 15
	⑨ 外堤・高台は杯蓋端部・杯B高台と類似。硯面の一部を強く凹めて海部とする。硯面使用痕著しい。			
110	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI ND50 660219 6AAI PF53 660128	③ 溝 1 砂下 溝 砂 1	SD3410 SD3410
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径22.5 残高5.6	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡 3』			⑧ PL. 6 Ph. 16
	⑨ 2片接合。脚頭 5 個残存。復原脚数22。外堤下部に深い凹線 3 条。硯部内面横ケズリ。外堤内覆い焼。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
111	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI ND50 660219	③ 溝 1 砂下	SD3410
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径25.0 残高5.4	⑥ 正置 (脚台上面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 16	
	⑨ 復原脚数22。脚柱内面横ケズリ、外面削り残しあり。透孔側面深い面取り。脚台内端突出。貼付法明瞭。			
112	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI LG36 660110	③ 灰褐砂土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径25.7 残高6.1	⑥ 正置 (脚台上面・外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 16	
	⑨ 復原脚数21。脚柱内面横ケズリ、外面削り残し。脚台下端ナデ、内端突出。透孔側面切りママ。左京三条二坊に近い。			
113	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NC45 660207	③ 溝 2 砂	SD4951
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高5.7	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 16	
	⑨ 脚柱2本。復原脚数不明。脚柱内面横ケズリ。脚台下端ナデ、内端突出。透孔側面切りママ。貼付部大型。			
114	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI PF53 660128	③ 溝 砂 I	SD3410下層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高5.4	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 16	
	⑨ 脚柱2本。脚柱内面横ケズリ。脚台下端ナデ、内端小さく突出。脚柱飾りの貼付法明瞭。			
115	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI ND45 660209	③ 溝 底	SD4951
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高6.0	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 16	
	⑨ 脚柱内面横ケズリ、外面削り残し。透孔側面切りママ。脚台内端小さく突出。貼付法明瞭。朱墨転用硯 (杯蓋) 伴出。			
116	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NE46 660209	③ 溝 底	SD4951
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高5.7	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 16	
	⑨ 脚柱内面横ケズリ、外面削り残しあり。脚台下面ナデ、内端突出。貼付部大型、脚台小型。朱墨転用硯 (杯蓋) 伴出。			
117	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI OM45 660209 6AAI OM58 660128	③ 溝 暗灰土 灰白砂土	SD4951 包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径39.9 残高10.1	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 16	
	⑨ 復原脚数32。脚内面縦方向ケズリ、下端は横ケズリ。透孔面取り無し。脚台外面に凹線2条。118と同一個体。			
118	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI QK59 660129	③ 東西溝	SD4006
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径39.9 残高6.4	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 16	
	⑨ 復原脚数32。脚内面縦方向ケズリ、下端のみ横ケズリ。透孔面取り無し。脚台外面に凹線2条。117と同一個体。			
119	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI CN57 650509	③ 黄褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径28.5 残高2.3	⑥ 正置 (脚台上面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 17	
	⑨ 復原脚数22。幅広で低い脚柱を板状脚台の外寄りに接合。脚台内面・下面ロクロケズリのちナデ。脚台上面凹凸あり。			
120	① 32・222次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI CJ54 660623 南辺官衙・式部省地区 6AAI AN44 910407	③ 溝 灰黒砂 瓦堆積	SD4100 包含層
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径19.8 残高3.8	⑥ 倒置 (脚台下外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 17	
	⑨ 復原脚数18。脚柱内面縦ケズリ。脚台内面横ケズリ、外面ロクロナデ。下面に重焼痕 (径16.8cm)。南面築地北側溝。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
121	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI MI46 660216	③ 溝 2 砂	SD4951
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 残高2.5	⑥ 正置（脚台外面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 17	
	⑨ 復原脚数不明。幅広薄手の脚柱内面縦ケズリ。脚台内外面横ケズリ。下面ナデ。猿投窯産。			
122	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI OJ46 660208	③ 南北溝 1 砂	SD4951
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 突帯径25.6 残高4.5	⑥ 正置（海部降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 17	
	⑨ 脚頭2個剥離。復原脚数22。外堤・硯面ともに欠損。硯部内面に補充粘土痕。左京三条一坊十六坪に近い地点。			
123	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI ND46 660209	③ 溝 底	SD4951
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径23.4 残高6.4	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 17	
	⑨ 脚1本残存。復原脚数18。短い脚柱の内側を面取り。脚台下面ケズリ、内端小さく突出。SD3410との合流点出土。			
124	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NE45 660208	③ 溝 2 砂	SD4951
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高4.0	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 17	
	⑨ 復原脚数不明。低い脚柱。脚台内下面ロクロケズリのちナデ。突帯状に突出する外端で接地。SD3410との合流点出土。			
125	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI MI46 660216	③ 溝 2 砂	SD4951
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.7	⑥ 倒置（内外面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 17	
	⑨ 脚柱1本。脚柱外面に横沈線1条。内面ロクロナデ。脚柱四隅面取り。363と類似。複合口縁状外堤の圈足円面硯 a か。			
126	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NA46 660212	③ 溝 2 砂	SD4951
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.7	⑥ 倒置（内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 17	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。内面ロクロナデ。脚柱四隅面取り。脚柱細め。複合口縁状外堤の圈足円面硯 a か。猿投窯産。			
127	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI OD46 660211	③ 溝 2 砂	SD4951
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.7	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 17	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。脚端部外反。内外面ロクロナデ。			
128	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NC56 660219	③ 溝 1 砂下	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.8	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 17	
	⑨ 長方形透孔。透孔下部に突帯1条。脚端部外反厚手。内外面ロクロナデ。胎土は107・139・324などに類似。			
129	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI ND48 660214	③ 溝 2 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高2.0	⑥ 倒置（突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 17	
	⑨ 脚端部の小片。長方形透孔。脚数不明。透孔下に突帯1条。溝2砂は溝SD3410の底。			
130	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NC49 660221	③ 溝 1 砂	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径12.2 残高3.4	⑥ 正置（脚部上・外面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 17	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数不明。外反する脚端上下肥厚。脚部上面に細突帯1条。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
131	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI LI34 660204 6AAI LK34 650611	③ 暗褐色 第2次溝	包含層 SD3905B
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径32.0 残高3.3	⑥ 正置 (内外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 17	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数32。脚柱外面小さく面取り。脚下端外屈上肥厚。左京三条二坊一坪近くの二条大路南側溝。			
132	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI CJ61 660727 6AAI CJ58 660901	③ 溝 2砂 溝 2砂	SD4100 SD4100
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径22.6 残高3.8	⑥ 倒置 (内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 17	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数29。脚端外反上下肥厚。内外面ロクロナデ。透孔下部に浅凹線2条。猿投窯産。奈良時代末の木簡伴出。			
133	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI OH46 660218	③ 溝 2砂	SD4951
	④ 圈足円面硯 a ?	⑤ 外堤径19.2 残高4.0	⑥ 正置 (海部～外堤上面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 18	
	⑨ 長方形透孔。脚数不明。外堤側面にヘラ描き唐草文、突帯2条。脚部にヘラ描き樹木状文。左京三条一坊十六坪に近い。			
134	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NC49 660221	③ 溝 1砂	SD3410下層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径16.0 硯面径11.0 残高3.3	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 18	
	⑨ 長方形透孔。脚数不明。1条の突帯の上下に櫛描き波状文。77と同一個体。同文様の71と類似。SD4951との合流部出土。			
135	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NE51 660223	③ 溝 2砂	SD3410底
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径16.4 残高2.9	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 18	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数13? 透孔上部の突帯が段状をなす。脚柱中央に縦沈線1条。硯部平坦気味。外堤上端まで墨痕。			
136	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI OO46 660212	③ 溝 2砂	SD4951
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径15.4 硯面径10.8 残高2.5	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 18	
	⑨ 長方形透孔? 脚柱断面が三角形を呈する。復原脚数20。外堤下に大きな突帯2条。内外ロクロナデ。外堤内覆い焼。			
137	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NE46 660208	③ 南北溝 2砂	SD4951
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径19.8 硯面径16.0 残高2.4	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 18	
	⑨ 透孔の形状個数不明。硯面平滑、硯面裏ロクロナデ。硯面部円盤状。細突帯1条。外堤内覆い焼。SD3410との合流部出土。			
138	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI ND51 660223	③ 溝 2砂	SD3410
	④ 蹄脚円面硯 B ?	⑤ 外堤径26.3 硯面径22.4 残高3.4	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 18	
	⑨ 脚数不明。突帯2条? 硯面裏ヘラケズリ。硯部外側の形状が蹄脚円面硯Bの110に類似。硯面部に墨痕。			
139	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI OO46 660216	③ 溝 2砂	SD4951
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径30.0 残高3.0	⑥ 正置 (透孔上面降灰)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 18	
	⑨ 長方形透孔。脚数不明。透孔下部に突帯1条。脚端部外肥厚厚手。透孔内側面切りママ。107・324等に胎土・形状が類似。			
140	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NC49 660223	③ 溝 2砂	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径14.9 残高1.1	⑥ 倒置 (脚部内外面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 6 Ph. 18	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数19。脚端外反下肥厚。透孔下端に細沈線1条。内外面ロクロナデ。猿投窯産。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
141	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NC49 660222	③ 溝 2 砂	SD3410
	④ 風字硯（円頭）	⑤ 長径13.6 幅12.2 器高2.5	⑥ 倒置（硯部外面釉状）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 7 Ph. 19	
	⑨ 略完形。外堤端部・側面ヘラケズリ。硯面中央部円形に磨耗、周縁部ナデ。8角柱形脚2残存。猿投窯産。			
142	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NC50 660219	③ 溝 1 砂	SD3410
	④ 風字硯（黒色土器A類）	⑤ 残存長19.0 残存幅15.0 器高3.6	⑥ 伏せ燻し	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 7 Ph. 19	
	⑨ 黒色土器A類 硯頭部を欠く。裏面に隅丸方形脚の剥離痕。側縁部下半の弧状挟り部のほか側縁端部全てヘラケズリ。全面ヘラミガキ。硯面裏には凹凸が残る。硯部内面表層のみ黒色。143・171と同質同工。			
143	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI OL46 660210	③ 溝 1 砂	SD4951
	④ 風字硯（黒色土器A類）	⑤ 残存長7.5 残存幅5.0 残高2.0	⑥ 伏せ燻し	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 19	
	⑨ 硯尻左半、脚剥離。外縁部ヘラケズリ。硯部全面ヘラミガキ。硯部内面の表層のみ漆黒色。142・171と同質同工。			
144	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NC49 660222	③ 溝 2 砂	SD3410
	④ 宝珠硯	⑤ 残存長11.2 残存幅3.7 器高3.5	⑥ 倒置（硯部外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 7 Ph. 19	
	⑨ 異称：八花硯。硯面側は外堤まで型作り。宝珠の長軸方向に木目が通る。21・66とは異範。面取り方形の脚。猿投窯産。			
145	① 32次	② 宮城東南隅・二条大路地区 6AAI NC49 660222	③ 溝 2 砂	SD3410
	④ 円形硯（輪状高台）	⑤ 外堤径18.9 高台径16.0 器高2.5	⑥ 正置（硯面外周にわずかな降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 7 Ph. 19	
	⑨ 外堤硯面の全面に暗文状の密なヘラミガキ。高台端部内傾面。外堤端部丸い。硯面に重焼痕（径16cm）。			
146	① 32次	② 宮城東南隅式部省・二条大路地区 6AAI OD39 660212	③ 土器溜り	SX3913
	④ 円面硯（無脚）	⑤ 硯面径9.8 最大径16.9 器高2.0	⑥ 倒置（硯部裏面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第27・32次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 7 Ph. 19	
	⑨ 硯面の外周に高い三角突帯。外堤剥離。硯部裏中央部をロクロナデ。外縁を丸くヘラケズリし低い高台状の脚を作る。幅広い海部に重焼痕。遺構は報告に不掲載。左京三条二坊一坪に近い。			
147	① 33・70北次	② 内裏東外郭地区 6AAD IK46・GO35 660607・710129	③ 灰褐土・黒溝	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径24.4 硯面径18.6 脚部径29.2 器高10.3	⑥ 正置（脚・突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』p. 37～38		⑧ PL. 8 Ph. 20	
	⑨ 復原脚数23。硯部下半内面横ケズリ。透孔内側面取り。脚台内面ロクロナデ、下面ヘラケズリ。206と同一個体。			
148	① 33次	② 内裏東外郭地区 6AAD IH41 660705	③ 溝	SD4240
	④ 円形硯	⑤ 残存長10.2 残存幅8.5 残高3.0	⑥ 倒置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1966『第28・29・33次平城概報』、奈文研1967『1967年度年報』p. 37～38		⑧ PL. 7 Ph. 20	
	⑨ 円頭風字硯？ 杵形の脚1残存。脚数不明。略円形の外周に低い外堤。周縁外面ヘラケズリ。脚の長軸方向に使用痕。			
149	① 35次	② 内裏東外郭東南隅地区 6AAE NF37 690401	③ 褐色土Ⅱ	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径24.4 硯面径18.4 残高3.7	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1970『1970年度年報』p. 34～35		⑧ PL. 8 Ph. 20	
	⑨ 脚数不明。硯部内面有段ロクロナデ。硯部下半内面横ケズリ。直立気味の外堤下に突帯2条。外堤上面以内覆い焼。			
150	① 35次	② 内裏東外郭東南隅地区 6AAE NA37 690331 6AAE NB36 690421	③ 褐色土Ⅱ 褐色土Ⅱ	包含層 包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径35.8 残高6.0	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1970『1970年度年報』p. 34～35		⑧ PL. 8 Ph. 20	
	⑨ 復原脚数24。脚柱内面横ケズリ。透孔内側面大きく面取り。逆台形脚台内面横ケズリのちナデ、下・外面ロクロナデ。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
151	① 35次	② 内裏東外郭東南隅（宮内省） 6AAE SN41 690507	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径25.3 硯面径19.8 残高3.0	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1970『1970年度年報』p. 34～35		⑧ PL. 8 Ph. 20	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数19。複合口縁状の外堤。硯面外周突帯状に隆起。硯面の墨痕顕著。内外面ロクロナデ。			
152	① 35次	② 内裏東外郭東南隅（宮内省） 6AAE KB32 690515	③ 灰色バラス	包含層
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径11.8 硯面径7.2 残高2.4	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1970『1970年度年報』p. 34～35		⑧ PL. 8 Ph. 20	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数18。硯部上面に高い内堤を設けて硯面とする。細い外堤。内外面ロクロナデ。猿投窯産か。			
153	① 38次	② 内裏東方官衙（磚積官衙）地区 6AAD AP19 661105	③ 暗褐土下層	包含層
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径25.6 残高1.8	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1967『第36・38次平城概報』p. 6～9、奈文研1967『1967年度年報』p. 40～42		⑧ PL. 8 Ph. 21	
	⑨ 復原脚数33。丸みのある三角形脚柱を脚台内側に補強粘土を足して密に貼り付け。脚台内外面ナデ、下面に板目圧痕。			
154	① 38次	② 内裏東方官衙（磚積官衙）地区 6AAD AA09 661121	③ 褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径16.2 硯面径11.4 残高4.4	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1967『第36・38次平城概報』p. 6～9、奈文研1967『1967年度年報』p. 40～42		⑧ PL. 8 Ph. 21	
	⑨ 細長方形透孔。幅広脚柱 6 残存。復原脚数21。太い突帯 2 条。脚柱上の突帯間と外堤側面に竹管文。155と同一個体。			
155	① 38次	② 内裏東方官衙（磚積官衙）地区 6AAD AA09 661121	③ 褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径16.4 硯面径11.4 残高4.5	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1967『第36・38次平城概報』p. 6～9、奈文研1967『1967年度年報』p. 40～42		⑧ Ph. 21	
	⑨ 細長方形透孔。幅広脚柱 3 残存。復原脚数21。太い突帯2条。脚柱上の突帯間と外堤側面に竹管文。154と同一個体。			
156	① 38次	② 内裏東方官衙（磚積官衙）地区 6AAD AC10 661101	③ 暗褐土下層	包含層
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径16.2 残高3.0	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1967『第36・38次平城概報』p. 6～9、奈文研1967『1967年度年報』p. 40～42		⑧ PL. 8 Ph. 21	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数16。端部内傾面の外堤。海部極めて薄い。幅広脚柱。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			
157	① 38次	② 内裏東方官衙（磚積官衙）地区 6AAD AD22 661110	③ 暗褐土下層	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径15.2 硯面径12.6 脚部径18.4 残高6.7	⑥ 正置（硯部上面～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1967『第36・38次平城概報』p. 6～9、奈文研1967『1967年度年報』p. 40～42		⑧ PL. 8 Ph. 21	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数15。低高台状外堤。透孔上下に突帯各 1 条。脚部内屈、端部内傾小さく肥厚。透孔内側面取り。			
158	① 38次	② 内裏東方官衙（磚積官衙）地区 6AAD AA09 661121	③ 褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.9	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1967『第36・38次平城概報』p. 6～9、奈文研1967『1967年度年報』p. 40～42		⑧ Ph. 21	
	⑨ 長方形透孔。透孔側面切りママ。脚柱内外面ロクロナデ。			
159	① 38次	② 内裏東方官衙（磚積官衙）地区 6AAD AP03 661215	③ 暗褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径15.8 硯面径11.2 残高4.4	⑥ 倒置（透孔上端・内面降灰）	
	⑦ 奈文研1967『第36・38次平城概報』p. 6～9、奈文研1967『1967年度年報』p. 40～42		⑧ PL. 8 Ph. 21	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数 8。硯部下端が内屈し脚部に至る杯形硯に通じる形態。幅広脚柱。丸みのある硯面中央にヒビ。外傾する薄い外堤。内外面ロクロナデ。			
160	① 38次	② 内裏東方官衙（磚積官衙）地区 6AAD AQ19 661107	③ 暗褐土下層	包含層
	④ 風字硯	⑤ 残存長5.0 残存幅5.5 残高2.9	⑥ 正置（硯部上面降灰）	
	⑦ 奈文研1967『第36・38次平城概報』p. 6～9、奈文研1967『1967年度年報』p. 40～42		⑧ Ph. 21	
	⑨ 硯尻左半の破片。6 角形板状脚 1 残存。外堤の下部をヘラケズリ。白色粘土の縞が特徴的な胎土。147に類似、別個体。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
161	① 39次	② 宮域東南入隅 (小子門) 地区 6AAH TL46 670116	③ 暗褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径22.9 硯面径17.3 残高4.8	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p. 42～45		⑧ PL. 8 Ph. 22	
	⑨ 脚頭3 残存。復原脚数20。外堤端部内肥厚。外堤下に突帯2条。硯部下半内面横ケズリ。外堤以内覆い焼。			
162	① 39次	② 宮域東南入隅 (小子門) 地区 6AAG DP30 661215	③ 床土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径32.0 残高4.6	⑥ 倒置 (脚台下面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p. 42～45		⑧ PL. 8 Ph. 22	
	⑨ 復原脚数28。脚台内寄りの円柱状脚柱を粘土で補強。脚台外縁ロクロケズリ。他はロクロナデ。504・497・262と類似。			
163	① 39次	② 宮域東南入隅 (小子門) 地区 6AAG IG46 670306	③ 褐色土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径33.8 残高3.7	⑥ 倒置 (脚台下面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p. 42～45		⑧ PL. 8 Ph. 22	
	⑨ 復原脚数27。幅広脚柱。内側に補強粘土。脚柱内面縦ヘラケズリ。脚台内外面ロクロナデ。硯部164・182と同一個体。			
164	① 39・43次	② 宮域東南入隅 (小子門) 地区 6AAG JA46 670224 東院西辺地区 6ALS IO44 680125	③ 溝 2 砂 下層溝 砂	SD4951 SD4951
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 外堤径23.6 硯面径18.7 残高4.7	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p. 42～45		⑧ Ph. 22	
	⑨ 復原脚数27。直立する高い外堤。硯部内面不定方向ナデ、他はロクロナデ。胎土精良厚手。182・163と同一個体。			
165	① 39次	② 宮域東南入隅 (小子門) 地区 6AAG JS47 670217	③ 南北溝 1 黒	SD5100上層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径28.4 硯面径22.0 残高3.5	⑥ 正置 (外堤～外面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p. 42～45		⑧ PL. 8 Ph. 22	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数21。脚部肉厚。外堤下に突帯1条。外堤～硯面に墨痕。白砂粒の多い胎土。106・166と胎土形状類似。			
166	① 39次	② 宮域東南入隅 (小子門) 地区 6AAG IG46 670306	③ 褐色砂	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径28.3 硯面径22.1 残高4.7	⑥ 正置 (硯面～外面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p. 42～45		⑧ PL. 8 Ph. 23	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数20。脚部肉厚。外堤～硯面に墨痕。胎土・形状が106と類似するが大型で別個体。			
167	① 39次	② 宮域東南入隅 (小子門) 地区 6AAG TI46 670119	③ 溝 1 砂	SD4951
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.0	⑥ 倒置 (内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p. 42～45		⑧ Ph. 23	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数不明。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。猿投窯産。			
168	① 39次	② 宮域東南入隅 (小子門) 地区 6AAG IH45 670308	③ 46溝 1 砂	SD4951
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.7	⑥ 正置 (脚柱外面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p. 42～45		⑧ Ph. 23	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数不明。内外面ロクロナデ。側面切りママ。猿投窯産。			
169	① 39次	② 宮域東南入隅 (小子門) 地区 6AAH RH33 670202	③ 穴	
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径21.2 残高3.9	⑥ 倒置 (脚柱内面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p. 42～45		⑧ Ph. 23	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数24。脚柱中程に凹線2条。脚端外反。内外面ロクロナデ。外面に墨痕。厳密には東院南方遺跡。			
170	① 39次	② 宮域東南入隅 (小子門) 地区 6AAH TE46 670125	③ 溝 1 黒	SD4951
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.3	⑥ 倒置 (脚部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p. 42～45		⑧ PL. 8 Ph. 23	
	⑨ 十字形透孔。復原透孔数不明。脚柱中位に凹線1条。脚端に突帯2条。透孔内外面取り。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
171	① 39次	② 宮城東南入隅 (小子門) 地区 6AAG JD46 670225	③ 溝 砂	SD4951
	④ 風字硯(黒色土器A類)	⑤ 残存長7.8 残存幅6.5 残高2.2	⑥	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 3～6、奈文研1967『1967年度年報』p.42～45		⑧ PL. 8 Ph. 23	
	⑨ 硯尻右半片。六角柱脚。外堤側面ヘラケズリ、全面ヘラミガキ。内面表層漆黒色。142・143と同工。内外面に朱付着。			
172	① 40次	② 内裏東方官衙 (磚積官衙) 地区 6AAD BR20 670720	③ 床土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径23.6 残高5.6	⑥ 倒置 (内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 7～9、奈文研1968『1968年度年報』p. 37		⑧ PL. 9 Ph. 23	
	⑨ 復原脚数23。直立する高い外堤側面に8条の櫛描き波状文。外堤端部下に凹線1条。脚頭上部に太い突帯1条。			
173	① 40次	② 内裏東方官衙 (磚積官衙) 地区 6AAD BS17 670731	③ 暗褐土 凹み	SK5406直上
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径14.4 硯面径10.4 残高2.8	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 7～9、奈文研1968『1968年度年報』p. 37		⑧ PL. 9 Ph. 23	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数22。2条の突帯間に円形浮文。硯部内面不定方向ナデ。海部に杯B高台溶着。硯面に火襷き。			
174	① 40次	② 内裏東方官衙 (磚積官衙) 地区 6AAD BI24 670731	③ 東西溝	SD5480
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径16.8 硯面径11.0 残高3.9	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 7～9、奈文研1968『1968年度年報』p. 37		⑧ PL. 9 Ph. 23	
	⑨ 長方形と三日月形透孔。数不明。突帯の上下に櫛描き波状文。透孔上部に細沈線2条。硯部内面ロクロナデ。			
175	① 40次	② 内裏東方官衙 (磚積官衙) 地区 6AAD BS17 670731	③ 暗褐土 凹み	SK5406直上
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径13.0 硯面径9.1 残高3.3	⑥ 正置 (外堤・突帯～外面降灰)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 7～9、奈文研1968『1968年度年報』p. 37		⑧ PL. 9 Ph. 24	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数15。広い海部。長い突帯。外堤上端内肥厚。透孔上部に細沈線1条。脚柱中央に縦沈線1条。硯部内面不定方向ナデ。遺構は官衙内庭の磚敷舗装を壊す廃棄物土坑。			
176	① 40次	② 内裏東方官衙 (磚積官衙) 地区 6AAD BS17 670805	③ 土坑	SK5406
	④ 風字硯	⑤ 復原長14.0 復原幅11.7 復原高3.5	⑥ 倒置 (硯部裏面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 7～9、奈文研1968『1968年度年報』p. 37		⑧ PL. 9 Ph. 24	
	⑨ 六角脚柱剥離。硯面部型作り。眉状突帯で海部を仕切る。両側縁ヘラケズリ。硯面縦方向ヘラミガキ。猿投黒窯産。			
177	① 40次	② 内裏東方官衙 (磚積官衙) 地区 6AAD BA03 670904	③ 溝上 (黄色土下)	SD4850
	④ 円形硯(輪状高台)	⑤ 外堤径22.8 高台径19.8 器高3.0	⑥ 倒置 (硯部裏面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1967『第37・39・40・41次平城概報』p. 7～9、奈文研1968『1968年度年報』p. 37		⑧ PL. 9 Ph. 24	
	⑨ 端部が内傾する皿B高台が付く円形硯。丸い外堤端部。底部ロクロケズリ。硯面ロクロナデ、中央部研磨、重焼痕。			
178	① 41次	② 第一次大極殿院地区東南隅 6ABE MG17 670817	③ 茶バラ	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径13.2 残高2.7	⑥ 正置 (海部～外面降灰)	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』(学報40) tab. 33-16、奈文研1968『1968年度年報』p. 37～38		⑧ PL. 9 Ph. 24	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数14。脚柱中央縦沈線1条。細い三角形突帯1条。高い外堤、広く平坦な海部。報告は表のみ。			
179	① 41次	② 第一次大極殿院地区東南隅 6ABR QF24 670913	③ 西端南北溝	SD5573
	④ 圈足円面硯	⑤ 突帯径約24 残高4.5	⑥ 倒置 (突帯下面降灰)	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』(学報40) 遺物不掲載、奈文研1968『1968年度年報』p. 37～38		⑧ Ph. 24	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数24。突帯径約24cm。脚柱中央に縦沈線1条。全体に摩滅。遺構は不掲載。			
180	① 41次	② 第一次大極殿院地区東南隅 6ABE PE09 670904	③ 溝 1 砂	SD3715
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径15.5 残高4.0	⑥ 正置 (脚端上面降灰)	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』(学報40) fig. 90-2 PL. 137-2、奈文研1968『1968年度年報』p. 37～38		⑧ PL. 9 Ph. 24	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数13。脚柱中央縦沈線1条、透孔中位横凹線1条。脚端外反肥厚。内外面ロクロナデ。83に類似。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
181	① 41次	② 第一次大極殿院地区東南隅 6ABE PB09 670904	③ 溝 1 砂	SD3715
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径16.4 残高4.5	⑥ 正置か (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』(学報40) PL. 137-7 (写真のみ)、奈文研1968『1968年度年報』p. 37~38		⑧ Ph. 24	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数16。透孔下に突帯1条。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。外面に墨垂れ線4条。			
182	① 43次	② 東院西辺地区 6ALS WQ44 680123	③ 玉石溝	SD5645
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 外堤径23.6 硯面径18.7 残高10.1	⑥ 倒置 (硯部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1968『1968年度年報』p. 38、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 9 Ph. 24	
	⑨ 復原脚数27。硯面ヘラミガキ。硯部内面ナデ調整。厚手軟質。163・164と同一個体。			
183	① 43次	② 東院西辺地区 6ALS VS39 671122	③ バラス土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約28 残高4.2	⑥ 正置 (脚台上面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1968『1968年度年報』p. 38、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 24	
	⑨ 脚柱1本。復原脚数24。脚柱内面横ケズリ。脚台下・外面ケズリのちナデ。脚台内端突出。			
184	① 43次	② 東院西辺地区 6ALS WD42 671205	③ 南北斜溝 1 砂	SD4951
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.6	⑥ 正置 (脚柱外面降灰)	
	⑦ 奈文研1968『1968年度年報』p. 38、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ Ph. 24	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。脚数不明。内外面ロクロナデ。透孔内側面取り。			
185	① 43次	② 東院西辺地区 6ALS WC42 671215	③ 南北溝 3 砂	SD4951
	④ 圈足円面硯c	⑤ 外堤径11.0 硯面径8.4 脚部径13.0 残高4.1	⑥ 正置 (脚部外面降灰)	
	⑦ 奈文研1968『1968年度年報』p. 38、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 9 Ph. 25	
	⑨ 方形透孔。平坦な硯面を突帯で区分。低く小さな外堤。内湾気味の硯部下半に突帯1条。脚端外反。裏にも墨痕。			
186	① 43次	② 東院西辺地区 6ALS BQ39 671208	③ 南北溝 2 砂	SD4951
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径16.0 残高2.2	⑥ 倒置 (硯部内・外面降灰)	
	⑦ 奈文研1968『1968年度年報』p. 38、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 9 Ph. 25	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数28。外堤下に突帯1条。内外面ロクロナデ。同地点から朱墨転用硯(杯AⅣ内面)出土。			
187	① 43次	② 東院西辺地区 6ALS TG41 671204	③ 南北溝 2 砂	SD4951
	④ 形象硯(鳥形硯)	⑤ 残存長7.5 残存幅4.9 残高6.0	⑥ 正置 (外側面降灰)	
	⑦ 奈文研1968『1968年度年報』p. 38、奈文研1981『平城宮木簡3』		⑧ PL. 9 Ph. 25	
	⑨ 頭部下半~右前脚部。内外側面・脚側面ヘラケズリ。円柱形獣脚。海部側面上半に墨痕。海部降灰、硯面は蓋で覆う。			
188	① 44次	② 東院庭園地区 6ALG CJ59 680214	③ 溝 1 砂	SD5785
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 脚部径26.8 残高4.0	⑥ 正置 (脚台上面降灰)	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』(学報69)、奈文研1968『1968年度年報』p. 38~39		⑧ PL. 10 Ph. 25	
	⑨ 脚柱4本残存。復原脚数22。脚柱内面縦ケズリ、外面型抜き不調整。薄い脚台内面横ケズリ、下面に粘土接合痕。			
189	① 44次	② 東院庭園地区 6ALG CI62 680205	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 突帯径22.8 硯面径17.0 残高3.4	⑥ 倒置 (硯部内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』(学報69)、奈文研1968『1968年度年報』p. 38~39		⑧ PL. 10 Ph. 25	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数20。複合口縁状の外堤。硯面外周が突帯状に隆起。硯面に墨痕。内外ロクロナデ。151と同形。			
190	① 44次	② 東院庭園地区 6ALG CJ61・62 680131	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径13.6 残高4.1	⑥ 倒置 (硯部内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』(学報69)、奈文研1968『1968年度年報』p. 38~39		⑧ PL. 10 Ph. 25	
	⑨ 方形・半円形透孔。透孔数不明。脚部肉厚。薄く低い外堤。内外面ロクロナデ。焼成温度高い。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
191	① 44次	② 東院庭園地区 6ALF FB56 680112	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 c	⑤ 外堤径14.8 硯面径8.4 残高5.0	⑥ 倒置 (硯部内面・突帯下面降灰)	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』(学報69)、奈文研1968『1968年度年報』p. 38~39		⑧ PL. 10 Ph. 25	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数8。肉厚で高い外堤。脚部は肉薄。幅広い海部。硯部内面ナデの他はロクロナデ。陶邑窯産。			
192	① 47次	② 西方官衙 (馬寮) 地区 6ADD LB55 680611	③ 瓦溜	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径16.0 硯面径13.3 残高3.9	⑥ 正置 (硯面~外面降灰)	
	⑦ 奈文研1985『平城報告XII』(学報42) fig. 48-807、奈文研1969『1969年度年報』p. 34~37		⑧ PL. 10 Ph. 26	
	⑨ 長方形透孔。透孔数不明 (僅少)。外縁が弧を描く硯面。細く短い外堤。太い三角形突帯1条。内外面ロクロナデ。			
193	① 48次	② 朝集殿院地区 6AAX AR06 680712	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径23.8 残高3.4	⑥ 倒置 (硯部内面・突帯下面降灰)	
	⑦ 奈文研1968『第47・48・49次平城概報』p. 2~3、奈文研1969『1969年度年報』p. 38~40		⑧ PL. 10 Ph. 26	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数23。小片で復原。透孔側面切りママ。内外面ロクロナデ。硯面外周に爪形痕。硯部外面に墨痕。			
194	① 50次	② 西方官衙 (馬寮) 地区 6ADD MM46 680807	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径17.6 硯面径13.0 残高4.2	⑥ 正置 (硯面~外面降灰)	
	⑦ 奈文研1985『平城報告XII』(学報42) p. 104 fig. 48-808、奈文研1969『1969年度年報』p. 34~37		⑧ PL. 10 Ph. 26	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数12。硯面外斜面に小段。硯面降灰後摩滅。硯部内面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			
195	① 64次	② 東面大垣地区 6ALC WD55 700511	③ 土坑 灰色粘土	
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径9.4 脚部径11.6 器高3.7	⑥ 倒置 (硯部内面・突帯下面降灰)	
	⑦ 奈文研1970『第58~68次平城概報』p. 9、奈文研1971『1971年度年報』p. 27		⑧ PL. 10 Ph. 26	
	⑨ 方形透孔。復原脚数4。脚柱に縦沈線9条。脚端外反。硯部内面ロクロナデ、硯面中央ナデ。猿投窯産。			
196	① 70南次	② 内裏東外郭地区 6AAE NS38 701216	③ 土坑	SK6800
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径約25 残高4.8	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6~10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30~31		⑧ Ph. 26	
	⑨ 復原脚数16。外傾する外堤の端部が尖る。凹線2条による細突帯3条。透孔側面切りママ。内外面ロクロナデ。			
197	① 70南次	② 内裏東外郭地区 6AAE NT39 701215	③ 灰褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 突帯径約23 残高4.8	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6~10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30~31		⑧ Ph. 26	
	⑨ 脚頭2残存。脚頭にシャープな突帯2条。透孔上端折り取る。硯部内面ロクロナデ。海部に覆い焼痕。			
198	① 70南次	② 内裏東外郭地区 6AAE NS38 701216	③ 土坑	SK6800
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径約23 残高4.2	⑥ 正置か (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6~10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30~31		⑧ Ph. 26	
	⑨ 突帯2条、下に脚頭剝離痕。外堤上端平面、内肥厚。内外面ロクロナデ。			
199	① 70南次	② 内裏東外郭地区 6AAE NS38 701210	③ 土坑	SK6800
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 突帯径約21 残高4.8	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6~10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30~31		⑧ Ph. 2	
	⑨ 脚頭剝離。外傾する外堤。凹線による突帯2条。硯部外面カキメ状。内面ロクロナデ。透孔内側切りママ。海部覆い焼。			
200	① 70南次	② 内裏東外郭地区 6AAE NT39 701215	③ 灰褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径約28 残高5.5	⑥ 正置 (脚台上面降灰)	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6~10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30~31		⑧ PL. 10 Ph. 26	
	⑨ 復原脚数24。脚柱内面横ケズリ。脚台外面ロクロケズリ。脚台下面ロクロナデ。脚柱飾り剝離。脚台肉厚、内端突出。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
201	① 70南次	② 内裏東外郭地区 6AAE NS38 701216	③ 土坑	SK6800
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径23.5 残高4.9	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6～10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30～31		⑧ PL. 10 Ph. 27	
	⑨ 復原脚数17。脚柱内面横ケズリのちナデ。透孔側面切りママ。脚柱外面削り残しあり。脚台内端突出。			
202	① 70南次	② 内裏東外郭地区 6AAE NS38 701210	③ 土坑	SK6800
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径27.4 残高2.8	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6～10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30～31		⑧ Ph. 27	
	⑨ 脚柱1本剥離。復原脚数17。脚台外側面ケズリ後ナデ。脚台内端突出。			
203	① 35・70南次	② 内裏東外郭地区 6AAE NS38・NQ46 701210・701215 6AAE NB36 690311	③ 土坑・褐色土 褐色土	SK6800・包含層 包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径20.7 硯面径14.8 脚部径26.2 器高7.9	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6～10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30～31		⑧ PL. 10 Ph. 27	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数9。脚柱に縦沈線2条と横凹線4条。硯面外周に突線。外堤下突帯2条。硯部内面不定方向ナデ。他はロクロナデ。脚端外反上下肥厚。			
204	① 70南次	② 内裏東外郭地区 6AAE NS38 701219	③ 土坑	SK6800
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径17.2 硯面径11.0 残高4.6	⑥ 倒置（硯部内面・突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6～10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30～31		⑧ PL. 10 Ph. 27	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数21。硯部内面不定方向ナデ。透孔上端位置不揃い。細長い突帯1条。外堤上端内肥厚、重焼痕。			
205	① 70南次	② 内裏東外郭地区 6AAE MH36 701117	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.4	⑥ 正置か（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6～10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30～31		⑧ PL. 10 Ph. 27	
	⑨ 透孔不明。高い外堤。細長い突帯。傾斜する広い海部。全面ロクロナデ。全体に摩滅。			
206	① 70北次	② 内裏東外郭地区 6AAE GQ43 710203	③ 褐色土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径26.8 残高5.5	⑥ 正置（脚台上面外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1971『第69・70次平城概報』p. 6～10、奈文研1971『1971年度年報』p. 30～31		⑧ Ph. 27	
	⑨ 復原脚数23。透孔内側面取り。脚柱外面シャープなケズリ。脚台内面ロクロナデ、下面ヘラケズリ。147と同一個体。			
207	① 73次	② 内裏地区東南部 6AAQ BF08 710917	③ 東西溝	SC640雨落溝
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径約21 残高3.2	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1991『平城報告XIII』（学報50）PL. 108-800、奈文研1972『1972年度年報』p. 31～35		⑧ PL. 10 Ph. 27	
	⑨ 短い脚柱。脚柱外面ナデ。脚台底・内面ロクロナデ。底面に火襷き。報告本文では6AAQ地区出土の323。			
208	① 73次	② 内裏地区東南部 6AAQ BG15 710907	③ 土坑	SK7659
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径12.7 残高4.3	⑥ 正置（硯面～突帯上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1971『第71・72・73次平城概報』p. 12～13、奈文研1972『1972年度年報』p. 31～35		⑧ PL. 10 Ph. 27	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数9か。低い外堤。太い三角形突帯。脚端外反。内外面ロクロナデ。220次425と接合。距離620m。			
209	① 77次	② 第一次大極殿院（南門・東楼）地区 6ABR HD35 730322	③ 柱抜取穴	SB7802
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径22.4 硯面径18.4 脚部径23.3 器高7.8	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』（学報40）fig. 90-1 PL. 137-1、奈文研1973『1973年度年報』p. 20～25		⑧ PL. 10 Ph. 27	
	⑨ 復原脚数23。薄い外堤、突帯3条。外反し折り返す脚端に脚柱を貼付。脚外端突出。脚柱内面横ケズリ、他はロクロナデ。外面全面に墨痕。SB7802柱抜取穴出土土器は平城宮土器Ⅳの標式資料。			
210	① 78南次	② 内裏地区北東部 6AAP LE09 730522	③ 土坑	SK7915
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径24.7 硯面径20.0 残高4.7	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1991『平城報告XIII』（学報50）PL. 108-802、奈文研1974『1974年度年報』p. 22～26		⑧ PL. 10 Ph. 28	
	⑨ 復原脚数26。外傾外堤上端に凹線。側面に太い突帯2条。脚頭円筒形。硯部内面横ケズリ。透孔側面切りママ。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
211	① 78南・10次	② 内裏地区北東部 6AAP LJ10 730699 内裏北外郭地区 6AAO RF76 620820	③ 東西溝 溝	SD7863 SD487
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 外堤径約30 脚部径約34 残高9.3	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1991『平城報告XIII』（学報50）PL. 108-801、奈文研1974『1974年度年報』p. 22～26		⑧ PL. 10 Ph. 28	
	⑨ 復原脚数23。脚頭に範の板目痕。硯側内面ロクロナデ。外堤以内を覆い焼。猿投窯産か。奈良時代前半の暗渠抜取溝。			
212	① 78南次	② 内裏地区北東部 6AAP LO10 730601	③ 南北斜行溝	SD7872
	④ 八花形硯	⑤ 復原径20.0 残存長12.3 残存幅10.5 残高2.0	⑥ 倒置（硯部裏面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1991『平城報告XIII』（学報50）PL. 108-804、奈文研1974『1974年度年報』p. 22～26		⑧ PL. 11 Ph. 28	
	⑨ 花文数18か。外堤外周と裏面カキメ状ナデ。硯面ヘラミガキ。硯面に重焼痕（径11cm）。硯面表裏に火膨れ。後期の暗渠。			
213	① 78北次	② 内裏地区北東部 6AAP KS07 740727	③ 床土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 復原外堤径22.1 硯面径16.4 残高4.2	⑥ 正置（脚頭上部降灰）	
	⑦ 奈文研1991『平城報告XIII』（学報50）本文p. 144～803に相当、奈文研1975『1975年度年報』p. 11～15		⑧ PL. 11 Ph. 28	
	⑨ 復原脚数24？ 脚頭直下に2条の櫛描き直線文。上部に突帯2条。硯部内面有段。側面下半横ケズリ、他はロクロナデ。			
214	① 78北次	② 内裏地区北東部 6AAP KG04 740812	③ 築地回廊西側柱 暗黄褐砂質土	SC156
	④ 中空円面硯	⑤ 残存長6.5 外径2.1×1.6 残高3.1	⑥ 正置（上面降灰）	
	⑦ 奈文研1991『平城報告XIII』（学報50）遺物不載、奈文研1975『1975年度年報』p. 11～15		⑧ PL. 11 Ph. 28	
	⑨ 把手（亀又は鳥頭）の一部。体部側上面に方形小孔。上面ナデ、下面は細かくヘラケズリ。先端部上面ヘラケズリ。			
215	① 81東次	② 第一次大極殿北方官衙地区 6ABO EI82 730620	③ 黄褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径14.8 硯面径10.2 残高3.4	⑥ 正置（外堤上面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』（学報40）tab. 33、奈文研1974『1974年度年報』p. 26～27		⑧ PL. 11 Ph. 28	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数16。肉厚の硯部に薄い外堤。硯部内面ロクロナデ。海部側面傾斜。外堤下に三角突帯1条。			
216	① 81東次	② 第一次大極殿院北方官衙地区 6ABO EI71 730526	③ 暗褐バラス	包含層
	④ 風字硯（二面）	⑤ 残存長9.6 残存幅6.6 残高3.0	⑥ 倒置（外堤側面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』（学報40）tab. 33-19、奈文研1974『1974年度年報』p. 26～27		⑧ PL. 11 Ph. 29	
	⑨ 硯頭中央部の破片。脚の有無形状不明。高い突帯で硯面を2分する。硯面以外ヘラケズリ調整。硯裏面に重焼痕。			
217	① 81中次	② 第一次大極殿院北方官衙地区 6ABO PL36 740117	③ 暗褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径7.9 硯面径4.5 残高3.1	⑥ 倒置（硯部内面・外堤外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1982『平城報告XI』（学報40）fig. 90-18、奈文研1975『1975年度年報』p. 15～16		⑧ PL. 11 Ph. 29	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数18。硯面外縁丸い。外堤外面に櫛描き波状文。外堤上端内傾面。外堤上に重焼痕。猿投窯産。			
218	① 87南次	② 第一次大極殿院地区 6ABP BR13 760209	③ 東西溝（古）	SD6607
	④ 蹄脚円面硯 B?	⑤ 外堤径22.9 硯面径18.2 残高3.8	⑥ 正置（外堤上端～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告XI』（学報40）tab. 33-9、奈文研1976『1976年度年報』p. 19～25		⑧ PL. 11 Ph. 29	
	⑨ 外堤外反、丸い端部。外堤下に細凹線による突帯3条。硯部内面ナデ、他はロクロナデ。外堤上端に重焼痕。脚頭不明で報告では圈足円面硯。遺構・伴出土器は奈良時代末。			
219	① 87北次	② 第一次大極殿院地区 6ABC UG06 750817	③ 黄褐土（暗褐土下）	包含層
	④ 蹄脚円面硯?	⑤ 残高3.4	⑥ 倒置（突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1976『平城報告XI』（学報40）不掲載、奈文研1976『1976年度年報』p. 19～25		⑧ Ph. 29	
	⑨ 透孔不明。太い三角形突帯2条。硯面部剝離。硯部内面ナデ。			
220	① 91次	② 内裏西外郭地区 6ABE GR36 740829	③ 暗褐含礫	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 突帯径23.0 残高4.2	⑥ 正置（外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1975『昭和49年度平城概報』p. 10～16、奈文研1975『1975年度年報』p. 16～18		⑧ PL. 11 Ph. 29	
	⑨ 復原脚数24。硯部内側面横ケズリ。他はロクロナデ。突帯2条の下が細い点は210・213・221などと類似。全体に薄手。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
221	① 91次	② 内裏西外郭地区 6ABE QU39 740902	③ 暗褐色土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径23.0 残高3.9	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1975『昭和49年度平城概報』p. 10～16、奈文研1975『1975年度年報』p. 16～18			⑧ Ph. 29
	⑨ 復原脚数24。硯部内側面横ケズリ、薄手で下の突帯が細い点が210・213・220などと類似。			
222	① 91次	② 内裏西外郭地区 6ABE GS38 740902	③ 暗褐色土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 残高6.8	⑥ 正置（外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1975『昭和49年度平城概報』p. 10～16、奈文研1975『1975年度年報』p. 16～18			⑧ Ph. 29
	⑨ 太い脚柱 1本。脚柱内面横ケズリのちロクロナデ、外側面削り残しあり。脚台下面ケズリ。透孔内側面取り。			
223	① 91次	② 内裏西外郭地区 6ABE GN35 740828	③ 灰褐色質土（柱穴か）	SB8160礎石抜取
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径20.7 残高4.4	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1975『昭和49年度平城概報』p. 10～16、奈文研1975『1975年度年報』p. 16～18			⑧ PL. 11 Ph. 29
	⑨ 凸字形透孔？ 外傾する外堤。細長い突帯2条。突帯間に溶着物。硯部内面ナデ。奈良時代後半の内裏西外郭南門。			
224	① 91次	② 内裏西外郭地区 6ABE GB41 740918	③ 黄褐色土	包含層
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径13.1 硯面径9.0 残高3.3	⑥ 正置（硯面～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1975『昭和49年度平城概報』p. 10～16、奈文研1975『1975年度年報』p. 16～18			⑧ PL. 11 Ph. 29
	⑨ 長方形透孔。復原脚数6。透孔両際と脚中央2条の縦沈線。太く低い外堤。硯部内面不定方向ナデ。硯面の降灰明瞭。			
225	① 91次	② 内裏西外郭地区 6ABE GG42 740925	③ 溝 暗褐色土	
	④ 形象硯（鳥形硯）	⑤ 頭幅3.4 残高5.6	⑥ 正置（後頭部降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1975『昭和49年度平城概報』p. 10～16、奈文研1975『1975年度年報』p. 16～18			⑧ PL. 11 Ph. 30
	⑨ 中実の頭部。全面ヘラケズリ整形、嘴部に沈線。目は外径0.7cmの竹管文押捺。『概報』等に出土の記載無し。			
226	① 99次	② 東院庭園地区 6ALF HE59 761204	③ 井戸 青灰砂質土	SE8454
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径18.0 硯面径11.2 残高3.5	⑥ 倒置（硯部内面・突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）不掲載、奈文研1977『1977年度年報』p. 24～28			⑧ PL. 11 Ph. 30
	⑨ 長方形透孔。復原脚数18。外堤と細い突帯の貼り付け明確。外堤外面まで墨痕。硯部内面に付着物。遺構は奈良時代後半。			
227	① 99次	② 東院庭園地区 6ALF HB56 761111	③ 暗褐色砂土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径約23 残高4.4	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1977『昭和51年度平城概報』p. 12～21、奈文研1977『1977年度年報』p. 24～28			⑧ Ph. 30
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24。脚端外肥厚。透孔下に段状突帯1条。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。陶器窯産？			
228	① 99次	② 東院庭園地区 6ALF JE72 761101	③ 灰黒砂質土	SG5800B
	④ 鳳字硯（黒色土器B類）	⑤ 残存長10.4 残存幅8.3 残高3.4	⑥	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）PL. 92-818、奈文研1977『1977年度年報』p. 24～28			⑧ PL. 12 Ph. 30
	⑨ 硯尻右半部。8角柱脚1本残存。外縁内沿いに沈線。硯面表裏とも中央横方向、周縁縦方向のヘラミガキ。平安時代初期。			
229	① 99次	② 東院庭園地区 6ALF KM56 761203	③ 暗灰粘土	包含層
	④ 鳳字硯（黒色土器B類）	⑤ 残存長6.6 残存幅4.2 残高4.0	⑥	
	⑦ 奈文研1977『昭和51年度平城概報』p. 12～21、奈文研1977『1977年度年報』p. 24～28			⑧ PL. 12 Ph. 30
	⑨ 硯頭左半部片。内外面縦方向ヘラミガキ。SD3236関連の可能性。報告不掲載。平安時代初期。			
230	① 99次	② 東院庭園地区 6ALF KS69 761111	③ 東西畦 黒褐色砂質土	SG5800B
	④ 鳳字硯（黒色土器B類）	⑤ 残存長4.7 残存幅3.3 器厚0.5	⑥	
	⑦ 奈文研1977『昭和51年度平城概報』p. 12～21、奈文研1977『1977年度年報』p. 24～28			⑧ Ph. 30
	⑨ 硯面部片。硯面裏中央縦方向、周縁部横方向ヘラミガキ。硯面磨耗有り。231と同一個体。報告不掲載。平安時代初期。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
231	① 99次	② 東院庭園地区 6ALF KS69 761111	③ 東西畦 黒褐砂質土	SG5800B
	④ 風字硯(黒色土器B類)	⑤ 残存長7.8 残存幅5.1 残高1.7	⑥	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）PL. 92-819、奈文研1977『1977年度年報』p. 24～28		⑧ PL. 12 Ph. 30	
	⑨ 硯尻右半片。格狭間形板状脚 1 本残存。周縁部扁平。硯面横方向、硯面裏縦方向ヘラミガキ。230と同一個体。			
232	① 104次	② 東院西辺地区 6ALR TA46 770812	③ 暗灰粘質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 外堤径28.6 硯面径23.2 残高5.0	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『昭和52年度平城概報』p. 9～18、奈文研1978『1978年度年報』p. 23～25		⑧ PL. 12 Ph. 31	
	⑨ 復原脚数19。脚頭 3 剝離。突帯 2 条。硯面裏ナデのち同心円当具痕。他はロクロナデ。外堤以内に墨痕。硯面覆い焼。			
233	① 104次	② 東院西辺地区 6ALR TQ45 770825	③ 南北溝 黄褐砂	SD3236A
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径18.4 残高5.0	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『昭和52年度平城概報』p. 9～18、奈文研1978『1978年度年報』p. 23～25		⑧ PL. 12 Ph. 31	
	⑨ 復原脚数16。脚柱内面横ケズリ、脚台内下面ロクロナデ。透穴内側面取り。脚台内端突出。平城宮土器V伴出。			
234	① 104次	② 東院西辺地区 6ALR SI41 770823	③ 暗褐バラス	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径25.2 残高3.5	⑥ 正置（海部・突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『昭和52年度平城概報』p. 9～18、奈文研1978『1978年度年報』p. 23～25		⑧ PL. 12 Ph. 31	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数33。透孔上部に小三角形突帯 1 条。外堤外傾気味。内外面ロクロナデ。265と同一個体か。			
235	① 104次	② 東院西辺地区 6ALR SF46 770927	③ 南北溝 暗灰粘質土	SD3236C
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径17.8 残高1.5	⑥ 倒置か（外堤外面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『昭和52年度平城概報』p. 9～18、奈文研1978『1978年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 31	
	⑨ 端部幅広く外肥厚の外堤部片。復原脚数30。透孔両側の切り込みあり。内外面ロクロナデ。平城宮土器V伴出。			
236	① 104次	② 東院西辺地区 6ALR UD46 770907	③ 暗褐バラス	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径6.9 硯面径3.4 残高1.4	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『昭和52年度平城概報』p. 9～18、奈文研1978『1978年度年報』p. 23～25		⑧ PL. 12 Ph. 31	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数21。低い硯面部、幅広い海部。端部内傾面の低い外堤。硯面～海部墨痕。猿投窯産。			
237	① 104次	② 東院西辺地区 6ALR SE46 770902	③ 南北溝	SD3236
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.7	⑥ 倒置（脚柱内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1978『昭和52年度平城概報』p. 9～18、奈文研1978『1978年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 31	
	⑨ 細長方形透孔。脚数不明。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。透孔下端に細沈線 1 条。猿投窯産。			
238	① 104次	② 東院西辺地区 6ALR TQ46 770912	③ 溝 暗灰褐バラス	SD3236B
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径18.8 残高4.3	⑥ 倒置（脚柱内面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『昭和52年度平城概報』p. 9～18、奈文研1978『1978年度年報』p. 23～25		⑧ PL. 12 Ph. 31	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数12。脚柱に縦沈線 2 条、横凹線 4 条。脚端外反肥厚。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。239と同一個体。伴出土器は奈良時代後半～末。			
239	① 104次	② 東院西辺地区 6ALR SC46 771005	③ Cライン畦 SB3236B	SD3236B
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径18.8 残高4.3	⑥ 倒置（脚柱内面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『昭和52年度平城概報』p. 9～18、奈文研1978『1978年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 31	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数12。脚柱に縦沈線 2 条、横凹線 4 条。脚端外反肥厚。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。238と同一個体。伴出土器は奈良時代後半～末。			
240	① 107次	② 佐紀池東辺官衙地区 6ABN WA07 771201	③ 東西溝 灰色砂層	SD8850
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径26.2 残高5.0	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『昭和52年度平城概報』p. 21～22、奈文研1978『1978年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 31	
	⑨ 復原脚数17。脚柱内面横ケズリ。脚台外面ロクロケズリ、下面ナデ、外端突出。透孔内側面切りママ。241と同一個体。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
241	① 107次	② 佐紀池東辺官衙地区 6ABN WA06・07 771201	③ 東西溝 灰色砂層	SD8850
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径26.2 残高5.0	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1978『昭和52年度平城概報』p. 21～22、奈文研1978『1978年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 12 Ph. 31	
	⑨ 復原脚数17。脚柱内面横ケズリ。脚台外面ロクロケズリ、下面ナデ、外端突出。透孔内側面切りママ。240と同一個体。			
242	① 110次	② 東院庭園地区 6ALF IM67 780825	③ 黄褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径25.0 残高5.7	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）PL. 92-517、奈文研1979『1979年度年報』p. 21～23		⑧ PL. 12 Ph. 31	
	⑨ 復原脚数19。脚柱内面ロクロケズリ。脚台下面ロクロナデ、内端突出。脚台上面に貼付時の指頭圧痕。			
243	① 110次	② 東院庭園地区 6ALF IN65 781005	③ 黄褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B？	⑤ 外堤径21.6 硯面径17.5 残高2.4	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）PL. 92-515、奈文研1979『1979年度年報』p. 21～23		⑧ Ph. 32	
	⑨ 外堤下突帯2条。硯部内面有段ロクロナデ。硯側内面横ケズリ。244と同一個体か。報告では圈足円面硯。			
244	① 110次	② 東院庭園地区 6ALF IN65 781027	③ 灰褐砂質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B？	⑤ 硯面径17.5 残高3.0	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）PL. 92-515、奈文研1979『1979年度年報』p. 21～23		⑧ PL. 12 Ph. 32	
	⑨ 外堤下突帯2条。硯部内面有段ロクロナデ。硯側内面横ケズリ。243と同一個体か。報告では圈足円面硯。			
245	① 110次	② 東院庭園地区 6ALF IK62 780824	③ 灰色バラス	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径16.2 残高1.7	⑥ 正置（脚柱外面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）PL. 92-514、奈文研1979『1979年度年報』p. 21～23		⑧ PL. 12 Ph. 32	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数15。内外面ロクロナデ。脚端外反肥厚。透孔側面切りママ。			
246	① 110次	② 東院庭園地区 6ALF IK66 780725	③ 上土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高6.1	⑥ 倒置（脚部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 3～10、奈文研1979『1979年度年報』p. 21～23		⑧ Ph. 32	
	⑨ 長方形透孔。脚数不明。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。透孔下端に細沈線1条。猿投窯産。			
247	① 110次	② 東院庭園地区 6ALF IH63 780822	③ 灰色バラス	包含層
	④ 圈足円面硯c	⑤ 外堤径15.6 硯面径10.8 残高6.5	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）PL. 92-513、奈文研1979『1979年度年報』p. 21～23		⑧ PL. 12 Ph. 33	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数12。硯部内面ロクロナデ。脚柱中央に縦沈線1条。透孔側面切りママ。249・454と同一。			
248	① 110次	② 東院庭園地区 6ALF IK62 780906	③ 黄褐土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高7.3	⑥ 倒置（脚部内外面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）、奈文研1979『1979年度年報』p. 21～23		⑧ Ph. 33	
	⑨ 長方形透孔。幅広脚柱中央に縦沈線1条。透孔側面切りママ。透孔下端細沈線1条。247と類似、脚高・厚さが異なる。			
249	① 110次	② 東院庭園地区 6ALF IL62 780906	③ 黄褐土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.4	⑥ 倒置（脚部内外面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）PL. 92-513、奈文研1979『1979年度年報』p. 21～23		⑧ Ph. 33	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数12。幅広の脚柱中央に縦沈線1条。透孔側面切りママ。247・454と同一個体。			
250	① 110次	② 東院庭園地区 6ALF IH70 780927	③ 灰褐土	包含層
	④ 形象硯（鳥形硯）	⑤ 復原長25.0 復原幅14.2 復原高14.0	⑥ 正置（尾羽上面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）、奈文研1979『1979年度年報』p. 21～23		⑧ PL. 13 Ph. 32	
	⑨ 左体側～左脚と尾羽部残存。頸部下に突帯で海部を区切る。硯面と丸い体側部外面ヘラミガキ。体部裏縦方向ケズリ。折畳んだ脚の付け根に円孔。68・69のような蓋を被せて焼成。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
251	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABH AQ45 780524	③ 柱穴上面 灰褐粘質土	SB8960柱抜取穴
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径約23 硯面径約18 残高3.3	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 33	
	⑨ 硯部内面有段ロクロナデ、内面下半横ケズリ。外堤下部に突帯1条残存。外堤以内覆い焼。SB8960は奈良時代末の建物。			
252	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABH AS46 780524 6ABG BD46 780524	③ 柱痕跡 黒褐粘質土 暗灰バラス	SB8960 包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径23.2 硯面径18.0 残高4.7	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ PL. 13 Ph. 33	
	⑨ 復原脚数23。硯面ロクロケズリ。硯部内面有段ロクロナデ、内面下半横ケズリ。透孔側面切りママ。253・254と類似。			
253	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABH AR43 780502	③ 暗灰バラス	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径22.6 硯面径17.5 残高5.7	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 33	
	⑨ 復原脚数24。硯部内面有段、ロクロナデ、内面下半横ケズリ。252と類似、硯面高が異なる。254と同一個体。			
254	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABH AQ40 780504	③ 黄褐砂上面	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径22.6 硯面径17.5 残高5.2	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 33	
	⑨ 復原脚数24。硯部内面有段ロクロナデ。下半横ケズリ。252と類似、硯面高が異なる。253と同一個体。			
255	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABH AP42 780502	③ 暗灰バラス	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径24.4 硯面径18.4 残高4.9	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ PL. 13 Ph. 34	
	⑨ 復原脚数21。外堤端面内肥厚。突帯2条。円柱形脚頭。外堤内面まで墨痕。硯部内面有段ロクロナデ、下半横ケズリ。			
256	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABH AP39 780504	③ 黄褐砂上面	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約27 残高5.1	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 34	
	⑨ 復原脚数不明。脚柱内面横ケズリ。脚台下・外面ロクロナデ。脚台内端突出。脚柱外面に貼付時の指頭痕残る。			
257	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABH AQ43 780523	③ 灰褐粘質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約27 残高5.2	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 34	
	⑨ 復原脚数不明。脚柱内面横ケズリ。貼付脚柱飾内面縦ケズリ。脚台下面～外側面ケズリ後ナデ。脚台内端突出気味。脚柱外面はほとんどケズリが及ばない。透孔側面切りママ。			
258	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABH AR45 780501	③ 暗灰バラス	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約27 残高5.4	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 34	
	⑨ 脚柱内面横ケズリ。脚台下面～外側面ケズリ後ナデ。脚台内端突出。透孔側面切りママ。259と同一個体。			
259	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABH AZ 780628	③	
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約28 残高4.8	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 34	
	⑨ 脚柱内面横ケズリ。脚台下面～外側面ケズリ後ナデ。脚台内端突出。透孔側面切りママ。258と同一個体。			
260	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABH AS36 780620	③ 大土坑	SK8948
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚内端径23.8 残高5.2	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ PL. 13 Ph. 34	
	⑨ 復原脚数21。脚柱内面横ケズリ。脚台内端突出、下面ロクロナデ。脚柱外面削り残しの指頭痕。透孔側面切りママ。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
261	① 111次	② 中央区朝堂院東地区 6ABU AJ54 780413	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径約21 残高3.5	⑥ 正置（海部～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1979『昭和53年度平城概報』p. 11～16、奈文研1979『1979年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 34	
	⑨ 4弁花形透孔か。復原透孔数不明。外堤端部内肥厚。肉厚の脚部に細い受け口状突帯1条。硯部内面ロクロナデ後不定方向ナデ。296と同一個体か。348・360・435と形状類似、焼成法異なる。			
262	① 122次	② 壬生門・二条大路地区 6AAY CP15 800526	③ SD1250 暗灰砂	SD1250
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径約27 残高2.9	⑥ 倒置（脚台下面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 3～10、奈文研1981『1981年度年報』p. 14～16		⑧ PL. 13 Ph. 34	
	⑨ 復原脚数24？ 幅広脚台と円柱状脚柱。脚台内面ケズリのちナデ。脚柱側面縦ケズリ。平城宮土器Ⅱ～Ⅲ。			
263	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QF33 810126	③ 暗褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径約32 残高4.6	⑥ 正置（脚台上・外面降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ Ph. 35	
	⑨ 復原脚数24。逆台形肉厚脚台、内端突出。脚台外面ロクロケズリ。脚台下面～脚柱内面ロクロナデ。脚柱外面削り残し。			
264	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QH36 810221	③ SD3109 砂層	SD3109
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径13.3 硯面径9.4 残高2.4	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ PL. 13 Ph. 35	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数19。外堤端部内傾、内側に肥厚。硯面・硯部内面ロクロナデ。透孔上端は折り取り。猿投窯産。SD3109は奈良時代後半の東院西限築地東雨落溝であるとともに基幹水路、砂層は廃絶時。			
265	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QA32 810122	③ 黄褐バラス	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 突帯径21.2 残高3.4	⑥ 正置（海部～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ Ph. 35	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数36。脚柱狭いが234と同一個体か。外傾気味外堤。凹線2条による突帯1条。内外面ロクロナデ。			
266	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QP38 810323	③ 乱流 粗バラス	SD13 (SD9688)
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径12.2 残高0.9	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ PL. 13 Ph. 35	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数11。脚部外反、端部は蓋口縁状に垂下。内外面ロクロナデ。平城宮土器Ⅲ・Ⅳ伴出。			
267	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QV27 810602	③ 土坑④	SK9608 ?
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高8.1	⑥ 倒置（硯部内面、突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ PL. 13 Ph. 35	
	⑨ 長方形透孔。脚内端に重焼痕。突帯1条。内外面ロクロナデ。透孔内外側面取り。268・269と同一。278・279と類似。			
268	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QV27 810602	③ 土坑④	SK9608 ?
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高6.8	⑥ 倒置（硯部内面、突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ Ph. 35	
	⑨ 長方形透孔。突帯1条。内外面ロクロナデ。透孔内外側面取り。胎土精良。267・269と同一個体。278・279と類似。			
269	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QV27 810602	③ 土坑⑧	SK9608 ?
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高2.2	⑥ 倒置（硯部内面、突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ Ph. 35	
	⑨ 長方形透孔。透孔下に突帯1条。内外面ロクロナデ。透孔内外側面取り。胎土精良。267・268と同一。278・279と類似。			
270	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QS38 810319	③ 南北大溝 砂層	SD13 (SD9688)
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高2.8	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ Ph. 35	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数48？ 脚端肥厚。内外面ロクロナデ。透孔内側面取り。271と同一。平城宮土器Ⅲ・Ⅳ伴出。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
271	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QQ37 810213	③ 暗褐土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径約30 残高7.6	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ Ph. 35	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数48？ 脚端内外肥厚。内外面ロクロナデ。透孔内側面取り。270と同一個体。			
272	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QF39 810126	③ 灰色砂	包含層
	④ 蹄脚円面硯A？	⑤ 脚部径約30 残高2.5	⑥ 倒置（脚台下面わずかに降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ Ph. 35	
	⑨ 内寄りに脚柱を貼付けた薄い脚台部片。上下面ともケズリのちナデ。外側面ナデ。			
273	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QU35・36 810122	③ 土坑 東西焼土上	SD35 (SD9604) 上
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径14.8 残高3.3	⑥ 倒置（脚部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ PL. 13 Ph. 35	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数23。脚端外反、上下肥厚。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。猿投窯産。最上層に相当。			
274	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QK35 810209	③ 焼土溝	SD30 (SD9649)
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.8	⑥ 倒置（内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ Ph. 35	
	⑨ 内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。白土入り緻密な胎土。SD9649は築地雨落溝SD3109に流入する溝。			
275	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QU32 810204	③ 東西石組溝	SD35 (SD9604)
	④ 円形硯？	⑤ 長径6.0 短径4.5 厚さ0.7	⑥ 倒置（硯部裏面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ Ph. 35	
	⑨ 硯面部片。硯面ロクロナデの縦横のミガキ。硯面の調整・硯部裏面の降灰が輪状高台円形硯177と酷似。猿投窯産。			
276	① 128次	② 東院西辺地区 6ALR QO37～39 810210	③ 排水溝	包含層
	④ 円形硯（輪状高台）	⑤ 復原外堤径26.1 長径18.2 短径10.1 残高1.4	⑥ 倒置（外側面降灰）	
	⑦ 奈文研1981『昭和55年度平城概報』p. 15～24、奈文研1981『1981年度年報』p. 17～22		⑧ PL. 14 Ph. 36	
	⑨ 高台側剝離。硯面外周沿いの幅2.8cmの浅い溝が海部。硯面ナデのちミガキ。側面ケズリのちナデ。硯面外周重焼痕。280と酷似。断面図は両者を合成して作成。			
277	① 129次	② 内裏北方官衙東北隅地区 6AAA GN42 810502	③ 大土坑 黄褐粘土	SK9880
	④ 円面硯	⑤ 硯面径19.0 残高1.2	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 3～9、奈文研1982『1982年度年報』p. 32～34		⑧ Ph. 36	
	⑨ 大型硯面部片。内面ロクロナデ後ナデ。硯面ロクロナデ、火膨れ。遺構は天平宝字年間～奈良時代末の皇后宮職に関連。			
278	① 129次	② 内裏北方官衙東北隅地区 6AAA GF33 810526	③ 南北大溝 褐色バラス	SD2700B
	④ 圈足円面硯a	⑤ 脚部径24.5 残高5.6	⑥ 倒置（脚部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 3～9、奈文研1982『1982年度年報』p. 32～34		⑧ Ph. 36	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。復原脚数21。透孔下に突帯1条。279と同一個体。267・268と類似、脚外面の面取りが異なる。			
279	① 129次	② 内裏北方官衙東北隅地区 6AAA GF33 810525 6AAA GD34 810529	③ 南北溝 褐色砂質土 南北大溝 暗褐砂質土	SD2700B SD2700B
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径18.2 硯面径14.9 脚部径24.5 器高10.8	⑥ 倒置（脚部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 3～9、奈文研1982『1982年度年報』p. 32～34		⑧ PL. 13 Ph. 36	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数21。透孔上下に突帯各1条。透孔側面外側面取り。278と同一個体。267・268と類似。			
280	① 129次	② 内裏北方官衙東北隅地区 6AAA GN34 810527	③ 灰褐砂質土	(SD2700)
	④ 円形硯（輪状高台）	⑤ 外堤径26.0 脚部径22.4 残高2.6	⑥ 倒置（硯部裏面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 3～9、奈文研1982『1982年度年報』p. 32～34		⑧ PL. 14 Ph. 36	
	⑨ 硯面側剝離。側面ケズリ後ミガキ。底面ロクロナデ。高台端内傾面。高台内重焼痕（径18cm）。276と酷似、断面図合成。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
281	① 133次	② 南面西門（若犬養門）地区 6ACU ER47 811211	③ 東西大溝 灰色砂	SD1250
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径15.2 残高1.5	⑥ 倒置（内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 23～28、奈文研1982『1982年度年報』p. 9～10		⑧ Ph. 36	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24。透孔下端に沈線1条。脚端外反肥厚。内外面ロクロナデ。猿投窯産。			
282	① 136・140次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AP47 821013	③ SD3715 埋土	SD3715
		6ABI・6ABJ BH49・BC51・AU51 820309・820316・820316	東西溝 最上層・南北溝	SD10707・10325B
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径25.5 硯面径20.1 脚部径30.8 残高10.0	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 14 Ph. 37	
	⑨ 復原脚数26。硯部内面無段。外傾する外堤。短い脚柱内面横ケズリ、内側面取り。脚台内端突出。284・286とは別個体。			
283	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AQ50 820225	③ 北東柱穴	
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 硯面径22.0 残高4.2	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ Ph. 37	
	⑨ 硯面ケズリ後ナデ。内面ロクロナデ。外堤下に凹線による突帯2条。硯部内面の横ケズリ等から蹄脚円面硯Bと推定。			
284	① 136・171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AU47 820311 6ABJ AT45 860122	③ SD3715溝上層 黄灰粘質土	SD3715
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径27.5 硯面径21.5 残高5.9	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1982・1986『昭和56・60年度平城概報』、奈文研1982・1986『1982・1986年度年報』		⑧ Ph. 37	
	⑨ 復原脚数21。硯面裏ロクロナデ、同心円圧痕。282は類似、別個体。286と同一個体か。図は286と合成。			
285	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AL47・AJ47 821227	③ 堰状施設周辺	SX10703
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径31.0 残高5.4	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 14 Ph. 37	
	⑨ 復原脚数25。脚柱内面横ケズリ。外面削り残し。脚台底・外面ケズリのちナデ。304・305・318等と類似。			
286	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AP46 820422 6ABJ AQ46・AQ47 820304・820329	③ SD3715 木屑溜り SD3715 埋土・排水溝	SD3715 SD3715
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径27.5 硯面径21.6 脚部径27.9 器高11.1	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 14 Ph. 37	
	⑨ 復原脚数21。外傾外堤下突帯2条。脚柱内面横ケズリ、内側面取り。282は別個体。284と同一個体か。図は284と合成。			
287	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AU51 820316	③ 南北大溝 上層	SD10325
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径23.0 硯面径17.2 残高5.2	⑥ 正置（脚頭上面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 15 Ph. 38	
	⑨ 脚頭大粒。復原脚数22。薄手の外傾外堤。硯部内面無段ロクロナデ。凹線による突帯3条。硯面に細かなキズと墨痕。平城宮土器Ⅳ～Ⅴ、須恵器蓋内面使用朱墨転用硯伴出。308と接合。321と同一個体。			
288	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AQ47 820329	③ SD3715 埋土	SD3715
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約25 残高5.5	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ Ph. 38	
	⑨ 復原脚数21か。脚柱内面横ケズリ。透孔内側面取り。脚台外底面ケズリ。脚柱飾剥離面縦ケズリ。286・284と同一か。			
289	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AR47 820311	③ 斜行溝	SD10325
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約28 残高5.4	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ Ph. 38	
	⑨ 脚柱内面横ケズリ後ロクロナデ。脚台内・底・外面ロクロナデ。内端突出。透孔内側面取り。脚柱外面削り残しあり。			
290	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABV BH69 820219	③ 南北溝	SD10400
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約28 残高4.6	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ Ph. 38	
	⑨ 復原脚数24。脚柱内面～脚台外面ロクロナデ。透孔内側面取り。脚柱の稜を削り残す。平城宮土器Ⅳ～Ⅴ伴出。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
291	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AT51 820316	③ 南北大溝 埋土	SD3715
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径28.6 残高3.8	⑥ 正置 (脚台上外面降灰)	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 14 Ph. 38	
	⑨ 復原脚数26。薄板状脚台に幅広三角形脚柱を斜めに貼り付ける。脚柱内面縦ナデ。脚台内外面ロクロナデ。透孔側面はケズリ。358・359と同一個体か。図は3者で合成。幅広脚柱は尾北篠岡112号窯に類似。			
292	① 136・140次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AK47 821026 6ABJ BD47 820312	③ SD3715 枠状施設内灰色バラス (SX10703) SD3715 埋土	SD3715
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径29.2 残高5.4	⑥ 正置 (外面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 14 Ph. 38	
	⑨ 復原脚数24。脚柱～脚台外面ロクロケズリ後ナデ。透孔側面切りママ。脚台内端に重焼痕。異次数間接合、距離約21m。			
293	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AS47 820309	③ 暗褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径17.6 硯面径13.8 残高4.8	⑥ 正置 (突帯上面わずかに降灰)	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 15 Ph. 38	
	⑨ 小型蹄脚硯。復原脚数10。直立する外堤端凹線状。硯部内外面ロクロナデ。硯面中央へ凹む。外堤下に太い突帯2条。			
294	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABI BG47 820327	③ SD3715 灰色砂礫	SD3715
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径21.2 硯面径16.8 残高3.0	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 15 Ph. 38	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数48。外堤下突帯3条。透孔は最下突帯に及ぶ。硯面内外面ロクロナデ。295と同一個体。			
295	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABI BA47 820329	③ SD3715 灰色砂礫	SD3715
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 脚部径22.0 残高2.9	⑥ 正置 (脚外面降灰)	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 15 Ph. 38	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数48。内湾する脚部。透孔下突帯1条。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。294と同一個体。			
296	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AU50 820302	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径21.4 残高3.9	⑥ 正置 (外堤・突帯外面降灰)	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 15 Ph. 39	
	⑨ 上端丸い広狭2種、四弁花形か。復原8組か。外堤上端内肥厚。肉厚の脚部上端に受け口状突帯。硯部内面ロクロナデ、中央部不定方向ナデ。261・348・360・435と類似。			
297	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ BB50 820221	③ 暗褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径13.3 硯面径10.0 残高4.2	⑥ 正置 (硯面～外面降灰)	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 15 Ph. 39	
	⑨ 凸字形透孔。復原透孔数4。透孔上端に沈線1条。杯B高台形の低い外堤。外開きの脚部。硯部内面中央肥厚。			
298	① 136次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AR47 820311	③ 斜行溝	SD10325
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径9.4 硯面径6.1 残高2.8	⑥ 正置 (外面降灰・外堤部覆い焼)	
	⑦ 奈文研1982『昭和56年度平城概報』p. 29～33、奈文研1982『1982年度年報』p. 36～37		⑧ PL. 15 Ph. 39	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数16。硯面肉厚。幅広い海部。硯部内面ロクロナデ。細い外堤の上端凹線状内肥厚。			
299	① 139次	② 内裏北方官衙地区・東大溝 6AAA TM43 820526	③ 茶褐土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径12.8 硯面径8.0 残高1.6	⑥ 倒置 (硯部内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 1～7、奈文研1983『1983年度年報』p. 19～20		⑧ PL. 15 Ph. 39	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数23。硯面肉厚。広い海部。外堤剥離。角ばった突帯。内外面ロクロナデ。			
300	① 139次	② 内裏北方官衙地区・東大溝 6AAA FR35 820701	③ 木樋下 灰砂	SX10560
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高5.3	⑥ 正置 (脚外面降灰)	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 1～7、奈文研1983『1983年度年報』p. 19～20		⑧ Ph. 40	
	⑨ 脚柱1本。復原脚数不明。脚台内端突出。脚柱内面横ケズリのちロクロナデ。301・302とは別個体。遺構は奈良時代中頃。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
301	① 139・172次	② 内裏北方官衙地区・東大溝 6AAB SL35 820612 6AAC JN27 861001	③ SD2700 灰砂② SD2700 灰白バラス	SD2700 SD2700
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径27.6 残高7.5	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 1～7、奈文研1983『1983年度年報』p. 19～20		⑧ Ph. 40	
	⑨ 異次数2片接合。復原脚数24。脚内面横ケズリ。脚台下・外面ロクロナデ平坦。透孔側面切りママ。302と同一個体。			
302	① 139次	② 内裏北方官衙地区・東大溝 6AAB SO35 820615	③ SD2700 灰砂②	SD2700
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径24.6 残高5.6	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 1～7、奈文研1983『1983年度年報』p. 19～20		⑧ PL. 15 Ph. 40	
	⑨ 脚柱5本残存。復原脚数24。脚内面横ケズリ。脚台下・外面ロクロナデ平坦。透孔側面切りママ。301と同一個体。			
303	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AL46 821020	③ 暗灰整地層	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径23.0 硯面径18.0 脚部径27.0 器高10.0	⑥ 正置（外堤以下の外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 15 Ph. 40	
	⑨ 復原脚数22。脚柱内面横ケズリ。脚台部ロクロナデ。硯部内面ロクロナデ、有段。304等と酷似。282より高い脚柱。			
304	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AJ47 821020 6ABI AK47 8210025ほか	③ 明灰整地層 SD3715 暗灰バラス	包含層 SD3715
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径24.2 硯面径19.2 脚部径28.4 器高10.0	⑥ 正置（脚台上外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 15 Ph. 40	
	⑨ 復原脚数24。脚柱内面横ケズリ、脚台外側面ケズリ後ナデ。硯部内面ロクロナデ有段。315・285も同一個体か。			
305	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AK47・AL47 821026 6ABI BI47 821026	③ 枠状施設内灰褐バラス SD3715 暗灰砂	SD3715 SD3715
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径24.2 硯面径19.2 脚部径28.4 器高10.0	⑥ 正置（脚台上外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 40	
	⑨ 復原脚数24。脚内面横ケズリ、脚台下・外面横ケズリのちナデ。硯部内面ロクロナデ有段。304等と同一個体。			
306	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AU49 821115	③ 大土坑暗灰褐バラス	SK10713
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 突帯径約23 残高5.1	⑥ 正置（外堤外面・突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 41	
	⑨ 復原脚数22。薄い外堤の端部丸い。硯側部外面凹線2条で突帯3条。硯部内面横ケズリ。			
307	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AJ47 821020	③ 明灰整地層	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 突帯径約24 残高4.2	⑥ 正置（外堤～外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 41	
	⑨ 脚頭2個。硯側部のみ。復原脚数24。硯部内面有段。硯側内面横ケズリ。外面細突帯と沈線。海部ナデ調整。			
308	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABU AM56 821109	③ 床土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高4.6	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 41	
	⑨ 復原脚数22。外傾する薄い外堤。肉厚硯側部内面ロクロナデ。無段。凹線による突帯3条。287と接合。321と同一個体。			
309	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AM48・AM49 821016	③ 東西溝A最上層黒灰褐砂質土	SD10705
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径23.8 残高4.0	⑥ 倒置？（脚台下面～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 41	
	⑨ 復原脚数16。脚柱内面縦ケズリ。脚台ロクロナデ。外面上部に細沈線。310と同一。脚台下面に重焼痕。平城宮土器Ⅲ下限。			
310	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AL49 821022	③ 南北溝Dバラス層	SD10706
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径23.4 残高3.7	⑥ 倒置？（脚台下面～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 15 Ph. 41	
	⑨ 復原脚数16。脚柱外面縦ケズリ。脚柱内面縦ケズリのち脚台内外ロクロナデ。外面上部に細沈線。309と同一個体。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
311	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AI47 821026	③ SD3715 暗灰砂	SD3715
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高5.0	⑥ 正置（脚部外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 41	
	⑨ 脚柱1本。復原脚数不明。脚柱内面横ケズリ、脚台外面ケズリのち脚台内外下面ロクロナデ。			
312	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI BH48 821022	③ 東西溝 C 紫灰褐粘質土	
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径27.0 残高5.1	⑥ 正置（脚台外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 41	
	⑨ 復原脚数21。脚柱扁平。側面シャープな削り。脚柱内面～脚台ロクロナデ。脚台内肥厚。314・313と同一個体。			
313	① 140・136次	② 中央区朝堂院地区 6ABI BH47 821020 6ABJ AS47 820330	③ 明灰整地層 SD3715 暗灰砂溜	包含層 SD3715
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径27.0 残高5.4	⑥ 正置（脚台外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 15 Ph. 41	
	⑨ 復原脚数21。脚柱扁平。脚柱内面～脚台ロクロナデ。脚台内肥厚。312・314と同一個体。			
314	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI BH47 821020	③ 明灰整地層	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径約27 残高4.6	⑥ 正置（脚台外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 41	
	⑨ 復原脚数21。扁平な脚柱。脚柱内面～脚台ロクロナデ。脚台内肥厚。312・313と同一個体。SD3715中層より新。			
315	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AH47 821117	③ SD3715C	SD3715C
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径約27 残高6.1	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 41	
	⑨ 脚数不明。脚柱内面横ケズリ、脚台外面ケズリのち脚台内外下面ロクロナデ。脚柱飾り貼付明瞭。304等と類似。			
316	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AR51 821012	③ 南北溝 最下層	SD10325B
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径22.0 硯面径17.4 残高5.0	⑥ 正置（海部～外側面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 16 Ph. 41	
	⑨ 復原脚数24。薄く短い外堤の上端凹線状。硯側面細突帯2条。硯側内面横ケズリ後ナデ。平城宮土器Ⅴ伴出。			
317	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AM50 820918	③ 東西溝下層粗砂	SD10705A
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径約27 残高4.9	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 41	
	⑨ 復原脚数24。外傾外堤。脚頭に細い突帯2条。硯部内面無段、ロクロナデか。284と類似。平城宮土器Ⅲが下限。			
318	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AJ47 821018	③ 東西溝 B 埋土	SD10712
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径21.5 残高4.5	⑥ 正置（脚頭上面・外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 16 Ph. 41	
	⑨ 復原脚数22。硯部内面有段ロクロナデ。硯側内面横ケズリ。低い外堤端部外肥厚。細突帯2条。水平で広い海部。			
319	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AK47 821025	③ 枠状施設内灰褐パラス	SD3715
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径26.7 硯面径20.6 脚部径30.4 器高9.7	⑥ 正置（外面降灰、外堤以内覆い焼）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 16 Ph. 42	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数29。外傾外堤と裾開き脚部。硯部内面有段ロクロナデ。透孔上下に突帯各2条。透孔内側面取り。			
320	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AR47・AO47 821016・821008	③ SD3715C 埋土・礫層	SD3715C
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 突帯径約23 残高3.8	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 16 Ph. 42	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数32。外傾外堤と裾開き脚部。硯部内面有段ロクロナデ。透孔上に凹線突帯3条。透孔内側面取り。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
321	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AL52 820717	③ 南北溝 上層	SD10325
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 硯面径17.2 残高3.1	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ Ph. 42	
	⑨ 脚数不明。硯面に細かな擦痕。硯部内面ロクロナデ。287・308と同一個体。奈良時代末の土器伴出。			
322	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABH AF47 821117	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径37.0 残高4.3	⑥ 正置（脚部外面降灰、脚内面火襷）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 16 Ph. 42	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数22。透孔下突帯1条。脚端ロクロナデ、内面不定ナデ、外面は縦方向ナデ。透孔内側面取り。342・350・431等と形態、胎土が類似。			
323	① 140次	② 中央区朝堂院地区 6ABI AL48 821021 6ABI AJ49 821921	③ 東西溝灰褐砂質土 南北溝明茶褐粘質土	SD10705A SD10706
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径27.8 硯面径22.0 脚部径35.0 器高7.8	⑥ 正置（硯面～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度平城概報』p. 12～28、奈文研1983『1983年度年報』p. 21～22		⑧ PL. 16 Ph. 42	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数41。脚部肉厚で裾開き。透孔上下に突帯各1条。硯部内面不定方向ナデ。他はロクロナデ。			
324	① 146次	② 中央区朝堂院南方地区 6ABW AQ51 830124	③ 黄褐粘土	包含層
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径20.1 残高2.2	⑥ 正置（外堤上端～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度概報』p. 29～35、奈文研1983『1983年度年報』p. 24		⑧ PL. 16 Ph. 42	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24？ 硯部内面不定方向ナデ。硯面外周に爪形痕。硯面中央部隆起気味、海部の広い圈足円面硯 a か。			
325	① 146次	② 中央区朝堂院南方地区 6ABW BI54 830216	③ 南北大溝暗灰粘土Ⅱ	SD3765
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径27.0 残高5.5	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1983『昭和57年度概報』p. 29～35、奈文研1983『1983年度年報』p. 24		⑧ PL. 16 Ph. 42	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数28。脚幅広狭あり。透孔内側面取り。脚端内湾内肥厚。脚上に突帯1条。内外面ロクロナデ。広い脚柱に小字形ヘラガキ文様。362と同一文様、同一個体。SD3765は平城宮土器Ⅰ～Ⅱ。			
326	① 153次	② 第二次大極殿院地区・東面回廊 6AAR EJ02 840125	③ 積土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径約28 残高2.8	⑥ 倒置（脚台下面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 5～26、奈文研1984『1984年度年報』p. 22～25		⑧ Ph. 43	
	⑨ 円柱状脚柱2本残存。復原脚数24？ 脚台外・下面ケズリのちナデ、上・内面ナデ。			
327	① 153次	② 第二次大極殿院地区・東面回廊 6AAR FF08 831208	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 硯面径19.0 残高3.8	⑥ 正置（硯面降灰）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 5～26、奈文研1984『1984年度年報』p. 22～25		⑧ PL. 16 Ph. 43	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数32。脚部肉厚。硯面外周に小突帯。海部・外堤・突帯が一連剝離。貼付前は凹線状ロクロナデ。			
328	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD FF27 840301	③ SD2700 灰砂	SD2700上層
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 残高3.7	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ Ph. 43	
	⑨ 脚柱部片。内面縦ケズリ。下面ケズリ。外面シャープな縦ケズリ。側面小さく面取り。42・121・372と類似。			
329	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD GF07 840313	③ SD3410 西肩地山食込	SD3410
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 外堤径21.8 残高6.7	⑥ 倒置（硯部内面・外堤外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ PL. 16 Ph. 43	
	⑨ 復原脚数22。高い外堤の外面上下に2条一組の凹線。内外面ロクロナデ。猿投窯産。脚部330と同一個体か。			
330	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD CE15 840215	③ 暗黄褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高3.5	⑥ 倒置（脚台下面全面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ Ph. 43	
	⑨ 脚裾を外反、上に細身の脚柱飾りを貼付け、間を挟み透孔とする。内面ロクロナデ。硯部329と同一個体か。猿投窯産。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
331	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD CE19 840128	③ 茶灰土	包含層
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径11.6 硯面径7.8 残高2.1	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ PL. 16 Ph. 43	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数18。外堤上端は内傾する幅広い面。硯部内面ロクロナデ、中央部ナデ。硯面ロクロナデ。			
332	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD FF28 840128	③ 暗灰砂	包含層
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径10.8 残高4.5	⑥ 正置（外面・突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ PL. 16 Ph. 43	
	⑨ 頂部の丸い長方形透孔。復原透孔数8。外堤上端内傾面外肥厚。幅広脚柱にヘラ描き文。内外面ロクロナデ。			
333	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD FI27 840221 6AAD FJ28 840221	③ SD2700 黒灰粘土	SD2700最上層
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径14.0 残高4.7	⑥ 正置（外堤外端・突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ PL. 16 Ph. 43	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数4。幅広脚柱中央にヘラ描き樹木状文。外堤下に三角形突帯。透孔下凹線1条。内外ロクロナデ。			
334	① 154・259次	② 内裏東方官衙地区 6AAD CH05 840314 6AAD CB15 950829	③ 東西溝灰色バラス 東西大溝灰褐粗砂	SD3410 SD11600
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径11.5 硯面径9.2 残高1.6	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ PL. 16 Ph. 44	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数32。硯部肉厚裏面平坦。低い外堤上端外肥厚。幅広突帯。硯面に火襷き。異次数の2片接合、距離30m。下流の96（29次）と同一個体。彼我の距離約360m。			
335	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD CH05 840314	③ SD3410 灰色バラス	SD3410
	④ 圈足円面硯a	⑤ 突帯外径13.2 硯面径8.0 残高1.9	⑥ 倒置（硯部内面・突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ PL. 16 Ph. 44	
	⑨ 細長方形透孔。脚数25。硯面のみ肉厚。硯面外周に凹線。外堤剝離。硯部内面ロクロナデ。			
336	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD FG28 840228	③ SD2700 木屑層	SD2700
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径約21 残高3.7	⑥ 倒置（突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ Ph. 44	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24。透孔下部に三角形突帯1条。脚下面外肥厚。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			
337	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD FG27 840227	③ SD2700 褐粗砂	SD2700
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径26.8 残高4.8	⑥ 正置（脚柱外面降灰）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ PL. 17 Ph. 44	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数20。脚柱上・中に沈線各2条、下に凹線1条。脚端外反。透孔側面切りママ。393と同一個体？			
338	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD CH06 840314	③ SD3410 灰色バラス	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径21.4 残高3.2	⑥ 倒置（脚端内面降灰）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ PL. 17 Ph. 44	
	⑨ 長方形と宝珠形透孔。復原透孔数12？ 外曲脚部端上下肥厚。透孔下部に細沈線1条。内外ロクロナデ。58・62に類似。			
339	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD FI27 840204	③ SD2700 褐砂	SD2700
	④ 中空円面硯	⑤ 硯部最大径14.2 硯面径12.4 残高2.4	⑥ 倒置？（外側面降灰）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ PL. 17 Ph. 44	
	⑨ 硯面ロクロケズリ。硯部内面ロクロナデ、壺内側状に中央が凹む。硯部外側面は弧を描く。硯面外周に重焼痕。			
340	① 154次	② 内裏東方官衙地区 6AAD CH07 840313	③ SD3410 西岸灰褐粘土	SD3410
	④ 形象硯（鳥形硯蓋）	⑤ 残存長11.5 残存幅9.2 器厚0.9	⑥ 正置（上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1984『昭和58年度概報』p. 27～33、奈文研1984『1984年度年報』p. 26		⑧ PL. 17 Ph. 44	
	⑨ 上面に篋描き波状文で羽毛を表現。側縁・挟り部ヘラケズリ。内面縦方向ヘラケズリ、中央ナデ。猿投窯産。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
341	① 155次	② 壬生門東方・南面大垣東端地区 6AAI DH51 840518	③ SD3410 哇 褐色粘土	SD3410
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径27.8 残高5.5	⑥ 正置（脚台上面・外面降灰）	
	⑦ 奈文研1985『昭和59年度平城概報』p. 3～12、奈文研1985『1985年度年報』p. 21～22			⑧ PL. 17 Ph. 44
	⑨ 復原脚数20。長めの脚柱内面横ケズリ。脚台下・外面ケズリのちナデ。透孔側面切りママ。			
342	① 155次	② 壬生門東方・南面大垣東端地区 6AAI 東南区 840409	③ 灰褐粘質土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径約29 残高4.4	⑥ 正置（外面・突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1985『昭和59年度平城概報』p. 3～12、奈文研1985『1985年度年報』p. 21～22			⑧ Ph. 44
	⑨ 長方形透孔。透孔下に突帯1条。脚端ロクロナデ、内面不定ナデ、外面は縦方向ナデ。透孔内側面取り。322等と類似。			
343	① 155次	② 壬生門東方・南面大垣東端地区 6AAI DJ32 840511	③ SD9481 中層灰褐砂質土	SD4100B
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径24.2 硯面径18.3 脚部径28.6 器高9.4	⑥ 正置（外堤外面以下降灰）	
	⑦ 奈文研1985『昭和59年度平城概報』p. 3～12、奈文研1985『1985年度年報』p. 21～22			⑧ PL. 17 Ph. 45
	⑨ 復原脚数21。肉厚外堤下に三角突帯1条。硯部内面・脚柱内面ロクロナデ。脚台内・下面横ケズリ、外面横ケズリ後ナデ。折り曲げた脚裾上に飾りを貼り付け、ケズリで整える。外堤外面に覆い焼痕（口径25cmの蓋か）。奈良時代中頃。			
344	① 161次	② 東区朝堂院地区・東第一堂 6AAS AT08 841102	③ 床土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約28 残高5.2	⑥ 正置（脚柱外面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 20～38、奈文研1985『1985年度年報』p. 24～26			⑧ Ph. 45
	⑨ 復原脚数24？ 外曲脚台に飾りを貼付。脚台外端突出。脚柱内面～脚台外面ロクロケズリ後ナデ。脚柱外面削り残し。			
345	① 165次	② 壬生門東方南面大垣・式部省地区 6AAY BC18 850509	③ 灰褐砂質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径26.0 硯面径20.5 残高4.9	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 3～13、奈文研1986『1986年度年報』p. 15～17			⑧ PL. 17 Ph. 45
	⑨ 復原脚数26。外傾外堤の端部凹線状。硯面裏不定方向ナデ。内面ロクロナデ+横ケズリ。346と同一個体。			
346	① 165次	② 壬生門東方南面大垣・式部省地区 6AAI DM92 850518	③ 下瓦層	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径約25 硯面径20.5 残高4.1	⑥ 正置（外面・突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 3～13、奈文研1986『1986年度年報』p. 15～17			⑧ Ph. 45
	⑨ 復原脚数26。硯面裏不定方向ナデ。硯部内面ロクロナデ+横ケズリ。下部に突帯2条。硯面平滑。345と同一個体。			
347	① 165次	② 壬生門東方南面大垣・式部省地区 6AAY BC23 850515	③ 東西溝（新）	SD4100
	④ 円面硯	⑤ 硯面径12.3 残高2.7	⑥ 正置（硯面上・側面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 3～13、奈文研1986『1986年度年報』p. 15～17			⑧ PL. 17 Ph. 45
	⑨ 硯面のみで脚型式不明。極めて厚い硯面部が特徴的。硯部内面ロクロナデ、平滑なのは後の使用によるものか？			
348	① 165・220次	② 壬生門東方南面大垣・式部省地区 6AAI DK95 850523 6AAY GS28 910306	③ 東西溝（古） 灰褐整地土	SD1250
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径21.6 硯面径16.2 残高3.3	⑥ 倒置（硯部内面、突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 3～13、奈文研1986『1986年度年報』p. 15～17			⑧ PL. 17 Ph. 45
	⑨ 上端が丸い広狭2種の透孔。四弁花形か。復原8組。外堤上端内肥厚。肉厚脚部上端に受け口状突帯。硯部内面ロクロナデ。中央部不定方向ナデ。硯面に火膨れ。261・296・360と類似。435と同一個体か。			
349	① 165次	② 壬生門東方南面大垣・式部省地区 6AAY CM33 850405	③ 黄褐土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径25.0 硯面径19.4 残高3.3	⑥ 正置（外堤～外面降灰、硯面覆い焼）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 3～13、奈文研1986『1986年度年報』p. 15～17			⑧ PL. 17 Ph. 45
	⑨ 長方形透孔。復原脚数36。脚部肉厚。低く頑丈な外堤の端部凹線状。硯面外周に凹線と突帯。透孔上部に三角形突帯。			
350	① 165次	② 壬生門東方南面大垣・式部省地区 6AAI DL94 850521 6AAY 850706	③ 下瓦層	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 脚部径約28 残高6.9	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 3～13、奈文研1986『1986年度年報』p. 15～17			⑧ Ph. 46
	⑨ 長方形透孔。復原脚数22。透孔下突帯1条。脚端ロクロナデ、内面ナデ。透孔内側面取り。322・342・431等と胎土が類似。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
351	① 167次	② 壬生門西方南面大垣・兵部省地区 6AAY EB35 850821	③ 黄褐バラス	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径17.3 硯面径12.6 残高4.9	⑥ 倒置（硯部内面・外堤外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 14～24、奈文研1986『1986年度年報』p. 15～17		⑧ PL. 17 Ph. 46	
	⑨ 硯面外周高い突帯。外堤端部内傾面。外堤下に突帯1条。硯部下半内湾、凹線1条。内外面ロクロナデ。猿投窯産。			
352	① 167次	② 壬生門西方南面大垣・兵部省地区 6AAY FC35 850913	③ 暗灰粘土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径20.2 残高2.2（二条大路南側溝SD4006に近い）	⑥ 倒置（脚部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 14～24、奈文研1986『1986年度年報』p. 15～17		⑧ PL. 17 Ph. 46	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数27。脚端外反上肥厚。内外面ロクロナデ。透孔下部に細沈線。透孔側面切りママ。猿投窯産。			
353	① 169次	② 東区朝堂院朝庭地区 6AAT AT24 851111	③ 柱穴3掘形	SB12300
	④ 円面硯	⑤ 突帯径約24 硯面径約23 残高3.4	⑥ 正置？（突帯上面降灰？）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 25～44、奈文研1986『1986年度年報』p. 18～20		⑧ Ph. 46	
	⑨ 外傾する薄い外堤。外堤下部に凹線による突帯2条。内面ロクロナデ。199に類似、蹄脚円面硯Bか。奈良時代後半。			
354	① 169次	② 東区朝堂院朝庭地区 6AAT AF17 851025	③ 暗黄褐土	整地土
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約25 残高4.5	⑥ 正置？（脚台上面降灰？）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 25～44、奈文研1986『1986年度年報』p. 18～20		⑧ Ph. 46	
	⑨ 復原脚数24？ 脚柱内面横ケズリ。脚台内面・下面・外面ロクロナデ。脚柱内側幅広く面取り。			
355	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AN47・AH47 860222・860328等	③ SD3715 ③・④層、暗灰砂、灰砂	SD3715
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径23.8 硯面径17.1 脚部径27.4 器高9.9	⑥ 正置（外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ PL. 18 Ph. 46	
	⑨ 復原脚数26。凹線による突帯2条。硯部内面有段。脚柱内面横ケズリ。脚台内端突出。透孔側面切りママ。			
356	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AP37 860111	③ 黄灰粘質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径28.0 残高8.0	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ PL. 18 Ph. 46	
	⑨ 復原脚数24。高い脚柱、大型脚頭。脚柱内面横ケズリ。脚台下面ロクロナデ平滑。透孔側面切りママ。			
357	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AQ36・AQ36 860113・860124	③ 黄灰粘質土・東西溝2	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径28.0 残高5.5	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ PL. 18 Ph. 46	
	⑨ 2片接合。復原脚数24。脚柱内面横ケズリのちロクロナデ。脚台下面ロクロナデ。内端突出。脚柱内側面取り。			
358	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABW ZZ 860304	③	
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 脚部径約29 残高4.8	⑥ 倒置（脚台下・内面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ Ph. 47	
	⑨ 復原脚数26？ 細身の脚柱内外面ナデ。板状脚台側面ケズリのちナデ。内側に補強粘土。291・359と同一個体か。			
359	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ ZZ 860417	③	
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 脚部径約29 残高3.8	⑥ 倒置（脚台下・内面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ Ph. 47	
	⑨ 復原脚数26？ 細身の脚柱内外面ナデ。板状脚台側面ケズリのちナデ。内側に補強粘土。291・358と同一個体か。			
360	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ BQ48 860220	③ 暗灰砂質土	包含層
	④ 圈足円面硯b	⑤ 突帯径約22 残高4.3	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ Ph. 47	
	⑨ 四弁花形透孔か。肉厚脚部に受け口状突帯1条。外堤は剝離。261・296と類似。焼成法が異なる。348・435とも類似。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	⑧ PL, Ph
	⑦ 概報・報告			
	⑨ 備 考			
361	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AS42・AS45 860120・860123	③ 東西溝灰色バラス・砂混灰色粘土	
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径30.8 残高5.3	⑥ 正置（突帯上面降灰）	SD12540
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ PL. 18 Ph. 47	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数36。透孔下突帯1条。脚柱外面カキメ。内面ロクロナデ。透孔内側面取り。胎土は350等と類似。			
362	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ BJ49 860207	③ 黄褐粘土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径26.0 残高4.9	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ Ph. 47	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数32。脚端内湾内肥厚、肩に突帯1条。透孔内側面取り。脚柱に小字形ヘラ描き文様。325と同一文様。			
363	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AQ34 860124	③ 大土坑黄灰粘土	SK12530
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.7	⑥ 倒置（脚柱内面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ Ph. 47	
	⑨ 長方形透孔。脚柱内外面ロクロナデ。脚柱四隅面取り。151など圈足円面硯aの脚部か。平城宮土器Ⅰ伴出。写真の天地逆。			
364	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AS36 860120	③ 東西溝 黄灰粘土	SD12540
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径31.6 残高2.7	⑥ 倒置（脚台内面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ PL. 18 Ph. 47	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数16。脚下半が幅広く外反。端部丸い。内外面ロクロナデ。365と同一個体。奈良時代末の土器伴出。			
365	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AJ39 860125	③ 東西溝	SD12540
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径31.6 残高2.6	⑥ 倒置（脚台内面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ Ph. 47	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数16。脚下半が幅広く外反。端部丸い。内外面ロクロナデ。364と同一個体。奈良時代末の土器伴出。			
366	① 171次	② 中央区朝堂院地区 6ABJ AN47 860224	③ SD3715 ③層	SD3715
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高6.3	⑥ 倒置（内面降灰）	
	⑦ 奈文研1986『昭和60年度平城概報』p. 45～54、奈文研1986『1986年度年報』p. 20～25		⑧ Ph. 47	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。脚柱基部肉厚。脚端薄手、小さく外反し下肥厚。透孔下部に細沈線1条。透孔側面切りママ。			
367	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD ES27 860621 6AAC JN27 860930	③ SD2700 灰砂 SD2700 灰白バラス①	SD2700上層 SD2700下層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径29.0 残高4.9	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28		⑧ PL. 18 Ph. 47	
	⑨ 復原脚数22。脚柱内面横ケズリ。小型の脚台下・外面ケズリのちナデ。脚台内寄りが接地し磨耗。			
368	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAC JN28 861022	③ SD2700 畦瓦溜	SD2700
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 硯面径18.8 残高4.9	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28		⑧ PL. 18 Ph. 48	
	⑨ 復原脚数24。硯部内面有段、横ケズリ。薄手で外傾する外堤。突帯2条。海部まで墨痕。			
369	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD JF27 860925	③ SD2700 木屑層①	SD2700下層上半
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径23.8 残高6.3	⑥ 正置（外堤～外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28		⑧ Ph. 48	
	⑨ 復原脚数16。平坦で広い海部。外傾気味で丸い外堤端部。脚頭上部に細い突帯3条。硯側部内面横ケズリ。			
370	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EK27 860618	③ SD2700 灰白バラス	SD2700下層
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 残高3.6	⑥ 正置（脚節上面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28		⑧ PL. 18 Ph. 48	
	⑨ 細い脚柱1本のみ。脚節の上下面に木目痕。脚柱外面ナデ、内面縦方向ナデ。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
371	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EN28 860613	③ SD2700 暗青灰色粗砂	SD2700最下層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径26.0 残高5.5	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ Ph. 48
	⑨ 復原脚数24。脚柱内面横ケズリ。脚台下面ロクロナデ、内端突出。透孔側面切りママ。373～375と同一個体。			
372	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD JG27 860910	③ SD2700 黒粘土	SD2700最上層
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 残高4.4	⑥ 正置（脚台上面～外面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 18 Ph. 48
	⑨ 復原脚数24？ 幅広扁平な脚柱。脚柱内面縦ケズリ。脚台内・下面ロクロケズリ。42・121・328と類似。			
373	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD JE27 860924	③ SD2700 瓦溜り	SD2700
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径26.0 残高5.1	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ Ph. 48
	⑨ 復原脚数24。脚柱内面横ケズリ。脚台下面ロクロナデ、内端突出。透孔側面切りママ。371・375等と同一個体。			
374	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EO27 860703	③ SD2700 灰白パラス直下	SD2700下層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径26.0 残高5.0	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ Ph. 48
	⑨ 復原脚数24。脚柱内面横ケズリ。脚台下面ロクロナデ、内端突出。透孔側面切りママ。371・375等と同一個体。			
375	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EN28 860613	③ SD2700 暗青灰色粗砂	SD2700最下層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径26.0 残高5.2	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 18 Ph. 48
	⑨ 復原脚数24。脚柱内面横ケズリ。脚台下面ロクロナデ、内端突出。透孔側面切りママ。371・373等と同一個体。			
376	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EB28 860527	③ SD2700 黒粘土	SD2700最上層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.8	⑥ 正置（脚部外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ Ph. 48
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数不明。脚端部外反。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。猿投窯産。377と同一個体。			
377	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EB27 860529	③ SD2700 灰砂	SD2700上層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.2	⑥ 正置（脚部外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ Ph. 48
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数不明。脚端部外反。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。猿投窯産。376と同一個体。			
378	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD ED27 860528	③ SD2700 灰褐粗砂	SD2700
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.8	⑥ 倒置（脚端内面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ Ph. 48
	⑨ 長方形透孔。復原脚数不明。脚柱幅広め。脚端小さく外屈し、下肥厚。透孔側面切りママ。猿投窯産。			
379	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD JG27 860910	③ SD2700 灰褐粗砂	SD2700
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径11.9 硯面径7.4 残高2.6	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 18 Ph. 49
	⑨ 長方形透孔。復原脚数19。硯面外縁傾斜、肉厚。内面ロクロナデ。外堤上端幅広外肥厚。外堤基部の貼付痕。猿投窯産。			
380	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EI27 860529	③ SD2700 灰褐粗砂・東岸南北細溝	SD2700
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径13.0 硯面径10.4 残高2.6	⑥ 正置（硯面～突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 18 Ph. 49
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数16。外傾する外堤端部丸い。硯面ロクロナデ不整。硯部内面不定方向ナデ。硯部内面に墨書。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
381	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EI27 860603	③ SD2700 灰褐粗砂	SD2700
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径29.9 残高4.0	⑥ 倒置（脚部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 18 Ph. 49
	⑨ 長方形透孔。復原脚数23。脚裾外湾内外に大きく肥厚。透孔下部に細突帯1条。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			
382	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EG28・ED27 860603・860702 6AAC JK27・JJ27 860929・861002	③ SD2700 木屑層・灰白バラス・灰白砂 SD2700 灰白バラス・木屑層	SD2700
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径20.5 硯面径15.8 脚部径24.1 器高6.1	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 19 Ph. 49
	⑨ 長方形透孔。復原脚数26。外堤端部が内傾面内肥厚。脚部裾が外反、端部上肥厚。脚端の対向位置に2つの耳（幅8.8cm）が付き、一方の耳の前の脚柱は削り取る。			
383	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EQ27 860619	③ SD2700 灰褐粗砂	SD2700
	④ 円形硯（輪状高台）	⑤ 外堤径27.0 高台径21.8 器高3.2	⑥ 倒置（硯部裏面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 19 Ph. 50
	⑨ 端部に内傾面をもつ輪状高台。硯面中央寄りに凹部を設けて海部とする。杯蓋端部に似た玉縁状の外堤。硯面に墨痕。			
384	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EB27 860604	③ SD2700 灰白砂	SD2700下層下半
	④ 円形硯（輪状高台）	⑤ 外堤径21.0 高台径14.7 器高2.8	⑥ 倒置か（硯部外面わずかに降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 19 Ph. 50
	⑨ 蓋端部に似た外堤に内接する台形凹みを海部とする。外傾する高台の端部丸い。硯部裏面ロクロケズリのちロクロナデ。硯面ロクロナデ。表裏両面ともミガキで平滑。墨痕付着。高台内に重焼痕。			
385	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EQ27 860619	③ SD2700 灰褐粗砂	SD2700
	④ 円形硯（輪状高台）	⑤ 外堤径約19 高台径12.0 残高2.1	⑥ 倒置（硯部外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 19 Ph. 50
	⑨ 外堤に内接する突帯で海部（幅約5.7）を作る。脚は杯B高台と類似。硯面ナデ。硯面裏ロクロケズリのちナデ。			
386	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EE27 860606	③ SD2700 灰白バラス	SD2700下層下半
	④ 円形硯（輪状高台）	⑤ 外堤径18.4 高台径12.7 器高2.0	⑥ 倒置（外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ Ph. 50
	⑨ 蓋端部に似た外堤、杯高台似の脚部。硯部内面ロクロナデ。外面ロクロケズリ。硯面墨痕。387と類似。			
387	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EC27 860606	③ SD2700 灰白バラス	SD2700下層下半
	④ 円形硯（輪状高台）	⑤ 外堤径18.4 高台径12.7 器高2.1	⑥ 倒置（外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 19 Ph. 50
	⑨ 蓋端部に似た外堤に内接する凹部を海部とする。杯高台形脚部。硯部内面ロクロナデ。外面ロクロケズリ。386と類似。			
388	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EI27 860430	③ SD2700 黒灰粘土	SD2700最上層
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径14.4 硯面径9.1 残高2.6	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 19 Ph. 51
	⑨ 長方形透孔？ 外堤端部内傾面。硯部内面不定方向ナデ。他はロクロナデ。硯部内面火彫れ。硯面に重焼痕。猿投窯産。			
389	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EG27 860510	③ SD2700 灰褐粗砂	SD2700
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径14.9 硯面径9.2 残高2.1	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 19 Ph. 51
	⑨ 長方形透孔。復原脚数16。太三角突帯。硯面ロクロナデのちナデ。硯部内面ナデ。内外面火彫れ。外堤上面に重焼痕。			
390	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD JA27 860912	③ SD2700 灰褐粗砂	SD2700
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径11.6 硯面径7.6 残高1.5	⑥ 倒置（硯部内面降灰、重焼痕）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28			⑧ PL. 19 Ph. 51
	⑨ 長方形透孔？ 硯面平坦中央凹み。外堤端内傾面、剝離明瞭。硯部内面ロクロナデ。硯面ロクロケズリ。猿投窯産。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
391	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD ET27 860619	③ SD2700 灰褐粗砂	SD2700
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.7	⑥ 倒置？（脚柱内面かすかに降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28		⑧ Ph. 51	
	⑨ 長方形透孔。脚端外反。透孔下に突帯。内外面ロクロナデ。脚柱外面縦ケズリ。透孔側面切りママ。			
392	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EI27 860529	③ SD2700 東岸南北細溝	SD2700
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高2.9	⑥ 正置？（脚柱外面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28		⑧ Ph. 51	
	⑨ 長方形透孔。脚数不明。内外面ロクロナデ。透孔際の外面を小さく削る。透孔側面切りママ。			
393	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD ET27 860529	③ SD2700 灰褐粗砂	SD2700
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.9	⑥ 正置？（脚柱外面かすかに降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28		⑧ Ph. 51	
	⑨ 長方形透孔。幅広脚柱の外面中程に2条1組の横凹線2組。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。337と同一個体か。			
394	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD EZ27 860613	③ SD2700 木屑層	SD2700下層上半
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径8.4 残高2.8	⑥ 倒置（脚部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28		⑧ PL. 19 Ph. 51	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数12。脚下部外曲端部下肥厚。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			
395	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD ES27 860619	③ SD2700 灰褐砂	SD2700
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.2	⑥ 正置（脚柱外面降灰顕著）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28		⑧ Ph. 51	
	⑨ 細長方形透孔。脚数不明。内外面ロクロナデ。脚柱外側面取り。			
396	① 172次	② 内裏東方・東大溝地区 6AAD JE27 860910	③ SD2700 黒粘土	SD2700最上層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径19.2 残高2.8	⑥ 正置（脚部外面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 11～26、奈文研1987『1987年度年報』p. 26～28		⑧ PL. 19 Ph. 51	
	⑨ 長方形透孔。透孔下部に凹線1条。脚部外反、端部が上下肥厚し凹面をなす。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			
397	① 173次	② 東区朝堂院地区・東第二堂 6AAT AT13 860805	③ 明褐土	包含層
	④ 圈足円面硯c	⑤ 外堤径17.8 硯面径15.8 残高2.3	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 3～10、奈文研1987『1987年度年報』p. 24～25		⑧ PL. 19 Ph. 51	
	⑨ 長方形透孔か。復原脚数16。細い外傾外堤欠損。突帯2条。脚頭剝離。硯部内側面横ケズリ。奈良時代中頃。			
398	① 173次	② 東区朝堂院地区・東第二堂 6AAT AI11 860719	③ 基壇盛土 茶褐土	SB12920（上層）
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径約27 残高3.6	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 3～10、奈文研1987『1987年度年報』p. 24～25		⑧ Ph. 51	
	⑨ 復原脚数24？ 幅広く平坦な海部。細い外傾外堤欠損。突帯2条。脚頭剝離。硯部内側面横ケズリ。奈良時代中頃。			
399	① 175次	② 南辺官衙・兵部省地区 6ABL AD20 870525	③ 黄褐バラス	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径約30 残高3.4	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研2005『平城報告XVI』（学報70）PL. 133-450、奈文研1988『昭和62年度平城概報』p. 10～14		⑧ Ph. 51	
	⑨ 報告本文では圈足円面硯(444)とするが脚頭剝離痕あり。復原脚数32。突帯1条。硯部内面有段ロクロナデ、下半横ケズリ。			
400	① 177次	② 佐紀池南方地区 6ACC DN27 861030	③ 茶褐木屑層	整地土
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径17.4 残高2.9	⑥ 倒置（脚部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1987『昭和61年度平城概報』p. 35～41、奈文研1987『1987年度年報』p. 29		⑧ PL. 19 Ph. 51	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数16。脚部外反、端部下肥厚。内外面ロクロナデ。透孔外側面取り、内側切りママ。養老6年頃。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
401	① 182次	② 内裏東方官衙・造酒司地区 6ALP GP24 871023	③ 大土坑	SK13245
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径約12 残高2.1	⑥ 倒置 (硯部内面・突帯下面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1988『昭和62年度平城概報』p. 15～22、奈文研1988『1988年度年報』p. 22		⑧ Ph. 51	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数24。内傾面をもつ外堤。細突帯1条。内外面ロクロナデ。猿投窯産。平城宮土器Ⅳ～Ⅴ。			
402	① 182次	② 内裏東方官衙・造酒司地区 6ALP GT24 871029	③ 大土坑	SK13245
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径13.2 残高2.9	⑥ 正置 (脚部外面・突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1988『昭和62年度平城概報』p. 15～22、奈文研1988『1988年度年報』p. 22		⑧ PL. 19 Ph. 51	
	⑨ 幅広縦長方形透孔。復原脚数12。脚部外反、端部上肥厚。内外面ロクロナデ。透孔上部突帯1条。透孔下部細沈線1条。脚柱全面に沈線各5条で斜格子文。猿投窯産。平城宮土器Ⅳ～Ⅴ伴出。			
403	① 185次	② 南辺官衙・兵部省地区 6ABL AP87 870803	③ 暗褐土	包含層
	④ 圈足円面硯b	⑤ 脚部径23.0 残高2.5	⑥ 倒置 (脚部内面降灰)	
	⑦ 奈文研2005『平城報告XVI』(学報70) PL. 133-448、奈文研1988『1988年度年報』p. 21		⑧ PL. 19 Ph. 51	
	⑨ 四弁花形透孔。復原透孔数17。脚部外反、下肥厚する端部に凹線2条。内外面ロクロナデ。報告本文では450とする。296 (136次)、348 (165次)、435 (235次) などの脚部であろう。			
404	① 188次	② 東区朝堂院地区・朝庭域 6AAU BJ21 880714	③ 黄褐粘質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 突帯径約29 残高3.3	⑥ 倒置 (硯部内面・突帯下面降灰)	
	⑦ 奈文研1989『昭和63年度平城概報』p. 3～10、奈文研1989『1989年度年報』p. 22～24		⑧ Ph. 52	
	⑨ 復原脚数32。縦長気味の脚頭。端部に凹線をもつ突帯1条。硯部内外面ロクロナデ。猿投窯産？			
405	① 203次	② 東区朝堂院地区・東第三堂 6AAU AP13・AQ13 890918・890920	③ 雨落溝上層	SD13664
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径26.8 脚部径25.4 残高9.2	⑥ 正置 (脚台上面降灰、外堤以内覆い焼)	
	⑦ 奈文研1990『1989年度平城概報』p. 17～24、奈文研1990『1990年度年報』p. 20～23		⑧ PL. 20 Ph. 52	
	⑨ 復原脚数21。端部の丸い外堤。脚裾を外曲し下方へ折り曲げた脚台に脚頭・脚柱を貼付け。低い脚柱。脚台外端突出。硯部下半～脚柱内面横ケズリ。脚台ロクロナデ。406と同一個体。遺構は上層朝堂院東門の雨落溝で奈良時代後半～末。			
406	① 203次	② 東区朝堂院地区・東第三堂 6AAU AQ13 890920	③ 雨落溝上層	SD13664
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径25.4 残高5.4	⑥ 正置 (脚台上面降灰)	
	⑦ 奈文研1990『1989年度平城概報』p. 17～24、奈文研1990『1990年度年報』p. 20～23		⑧ Ph. 52	
	⑨ 復原脚数21。脚裾を折り曲げ脚台外端突出。低い脚柱。硯部下半～脚柱内面横ケズリ。脚台ロクロナデ。405と同一個体。			
407	① 203次	② 東区朝堂院地区・東第三堂 6AAU AO16 891102	③ 下層雨落溝	
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径26.4 残高7.0	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1990『1989年度平城概報』p. 17～24、奈文研1990『1990年度年報』p. 20～23		⑧ PL. 20 Ph. 52	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数26。透孔下突帯2条。脚部内外面ロクロナデ。透孔内側面取り。下層の東第三堂雨落溝。			
408	① 205次	② 南辺官衙・兵部省地区 6ABL CQ16 900316	③ 灰褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約30 残高4.0	⑥ 正置 (脚台上面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研2005『平城報告XVI』(学報70) PL. 133-452、奈文研1991『1990年度平城概報』p. 3～15		⑧ Ph. 52	
	⑨ 脚数不明。脚柱～脚台上半内面横ケズリ。脚台下面ケズリのちナデ。透孔側面切りママ。脚柱外面削り残し。			
409	① 205次	② 南辺官衙・兵部省地区 6ABL CP24 900417	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径14.6 硯面径11.0 残高2.3	⑥ 正置 (突帯上面降灰、海部内覆い焼)	
	⑦ 奈文研2005『平城報告XVI』(学報70) PL. 133-445、奈文研1991『1991年度年報』p. 22～24		⑧ PL. 20 Ph. 52	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数40。硯面部肉厚。内外面ロクロナデ。外堤端部内傾面。太い三角形突帯1条。報告は尾張産。			
410	① 206次	② 南辺官衙・兵部省地区 6AAY HH55 891213	③ 不整形土坑	SK13790
	④ 円面硯	⑤ 硯面径20.6 残高2.1	⑥ 正置 (内面に降灰無し)	
	⑦ 奈文研1990『1989年度平城概報』p. 25～33、奈文研2003『墨書土器集成Ⅲ』(史料59)		⑧ Ph. 52	
	⑨ 硯面のみの破片。硯面部が高く、内面有段の蹄脚円面硯の可能性大。硯面ロクロナデ。硯面裏に同心円当具痕あり。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
411	① 206次	② 南辺官衙・兵部省地区 6AAY HL54 891213	③ 灰褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 残高5.3	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1990『1989年度平城概報』p. 25～33、奈文研1990『1990年度年報』p. 23～25		⑧ Ph. 52	
	⑨ 復原脚数不明。脚柱内面横ケズリ。脚台内・下・外面ケズリのちナデ。脚台内端突出。長い脚柱外面削り残しあり。			
412	① 206次	② 南辺官衙・兵部省地区 6AAY GR54-GT54 900125-900330	③ 瓦溜・片庇西雨落溝	SD13736
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径15.2 硯面径11.2 残高3.0	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研2005『平城報告XVI』（学報70）PL. 133-446、奈文研1990『1989年度平城概報』p. 25～33		⑧ PL. 20 Ph. 52	
	⑨ 細長方形透孔。透孔数26。透孔幅不揃い。隆起する硯面外周に細突帯、ロクロナデ。硯部内面不定方向ナデ。太い外堤端部外肥厚。透孔上部に角形突帯1条。SD13736は兵部省東面築地の片庇廊西雨落溝。奈良時代中期以降の遺構。			
413	① 213次	② 東区朝堂院地区・東第四堂 6AAV MK15 911021	③ 黄褐礫土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径約26 残高5.8	⑥ 倒置（突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1992『1991年度平城概報』p. 3～19、奈文研1992『1992年度年報』p. 18～22		⑧ Ph. 53	
	⑨ 復原脚数24？ 外傾外堤の外面カキメのちナデ。突帯2条の上が細い。硯部内面ロクロナデ無段、下半横ケズリ？			
414	① 213次	② 東区朝堂院地区・東第四堂 6AAV MF14 911105	③ 暗褐粘質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径23.8 残高4.3	⑥ 正置（脚台上面かすかに降灰）	
	⑦ 奈文研1992『1991年度平城概報』p. 3～19、奈文研1992『1992年度年報』p. 18～22		⑧ PL. 20 Ph. 53	
	⑨ 復原脚数19。脚柱内面横ケズリ。脚台内外面ケズリのちロクロナデ。脚台内端突出。脚柱内側面大きく面取り。			
415	① 213次	② 東区朝堂院地区・東第四堂 6AAV NR21 911101	③ 暗褐粘質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径約27 残高2.9	⑥ 正置（突帯上面降灰、硯面覆い焼）	
	⑦ 奈文研1992『1991年度平城概報』p. 3～19、奈文研1992『1992年度年報』p. 18～22		⑧ Ph. 53	
	⑨ 直立気味の外堤下部に深い凹線による突帯2条。硯部内面を横ケズリのちナデ調整することから、蹄脚円面硯Bと推定。			
416	① 213次	② 東区朝堂院地区・東第四堂 6AAV MT22 911030	③ 黄褐粘質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約28 残高5.3	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1992『1991年度平城概報』p. 3～19、奈文研1992『1992年度年報』p. 18～22		⑧ Ph. 53	
	⑨ 復原脚数23？ 外曲脚部に脚柱飾りを貼付。脚台外端突出。脚柱内面横ケズリ。脚台下面ロクロナデ。透孔内側面取り。			
417	① 213次	② 東区朝堂院地区・東第四堂 6AAV MT21 911030	③ 暗褐粘質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約30 残高5.3	⑥ 正置（脚柱外面、脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1992『1991年度平城概報』p. 3～19、奈文研1992『1992年度年報』p. 18～22		⑧ Ph. 53	
	⑨ 復原脚数26？ 外曲する脚部に脚柱飾りを貼付。脚台外端突出。脚柱内面横方向ナデ。脚台内面削ぎ落とし。脚部肉厚。			
418	① 213次	② 東区朝堂院地区・東第四堂 6AAV MF22 911113	③ 南北瓦溜？	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径30.8 残高5.7	⑥ 正置（脚部外面降灰）	
	⑦ 奈文研1992『1991年度平城概報』p. 3～19、奈文研1992『1992年度年報』p. 18～22		⑧ PL. 20 Ph. 53	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24。脚幅広狭あり。透孔下太突帯1条。脚端外肥厚。透孔側面切りママ。323・350等と形態類似。			
419	① 213次	② 東区朝堂院地区・東第四堂 6AAV MG17 911205	③ 上層基壇土	SB15040
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径22.5 硯面径17.4 残高1.9	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状、溶着物あり）	
	⑦ 奈文研1992『1991年度平城概報』p. 3～19、奈文研1992『1992年度年報』p. 18～22		⑧ PL. 20 Ph. 53	
	⑨ 透孔不明。水平幅広の海部と一段高い硯面。硯面ロクロケズリ。直立気味の外堤端部丸い。硯部内面ロクロナデ。			
420	① 214次	② 南辺官衙・兵部省地区 6AAY HT58 900502	③ 灰褐粘質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径22.4 硯面径17.0 残高4.2	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研2005『平城報告XVI』（学報70）PL. 133-447、奈文研1991『1990年度平城概報』p. 16～27		⑧ PL. 20 Ph. 53	
	⑨ 復原脚数19。外傾気味外堤。突帯2条。脚頭剥離痕あり。硯面裏ロクロナデ、同心円圧痕。硯部内面下半横ケズリ。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
421	① 216次	② 南辺官衙・式部省西地区 6AAY GO31 901016	③ 床土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径約26 残高3.8	⑥ 正置（脚柱外面降灰）	
	⑦ 奈文研2005『平城報告XVI』（学報70）PL. 133-451、奈文研1991『1990年度平城概報』p. 28～35		⑧ Ph. 54	
	⑨ 脚柱内面縦ケズリ。脚台内面ロクロナデ。下面～外面ロクロケズリ。下面内側ロクロナデ。42・328・372と類似。			
422	① 216次	② 南辺官衙・式部省西地区 6AAY GO29 910307	③ 灰褐整地土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高6.0	⑥ 正置（脚外面降灰）	
	⑦ 奈文研1991『1990年度平城概報』p. 28～35、奈文研1991『1991年度年報』p. 26～27		⑧ Ph. 54	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。内外面ロクロナデ。透孔下に細沈線2条。423、424と同一個体。奈良時代末の土器など共伴。			
423	① 216次	② 南辺官衙・式部省西地区 6AAY GO31 910123	③ 大土坑	SK14445
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.8	⑥ 正置（脚外面降灰）	
	⑦ 奈文研1991『1990年度平城概報』p. 28～35、奈文研1991『1991年度年報』p. 26～27		⑧ Ph. 54	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。内外面ロクロナデ。422・424と同一個体。奈良時代末の土器など共伴。遺構は概報等に不載。			
424	① 216次	② 南辺官衙・式部省西地区 6AAY GO31 910123	③ 大土坑	SK14445
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径30.4 残高6.1	⑥ 正置（脚外面降灰）	
	⑦ 奈文研2005『平城報告XVI』（学報70）PL. 133-449、奈文研1991『1990年度平城概報』p. 36～43		⑧ PL. 20 Ph. 54	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数25。透孔下に細沈線。脚部外反折り返し。内外面ロクロナデ。422・423と同一。433等と類似。			
425	① 220次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAY GT19 910118	③ 暗褐砂質土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径13.1 残高3.1	⑥ 正置（海部～突帯上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研2005『平城報告XVI』（学報70）PL. 133-444、奈文研1991『1990年度平城概報』p. 36～43		⑧ Ph. 54	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数9。低い外堤。太い三角形の突帯。脚端外反。内外面ロクロナデ。報告は175次出土とする。内裏東南隅（第73次）SK7659出土の208と接合。彼我の距離直線620m。			
426	① 220次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAY GN18 910117	③ 165次埋土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 外堤径12.8 残高5.0	⑥ 倒置（内面・突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研1991『1990年度平城概報』p. 36～43、奈文研1991『1991年度年報』p. 27～29		⑧ PL. 20 Ph. 54	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数9。硯面部欠損。上面平坦で外肥厚の高台形外堤。細長い突帯1条。内外面ロクロナデ。			
427	① 220次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAY GR25 910312	③ 暗灰バラス	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径23.5 残高1.5	⑥ 倒置（脚端内面降灰）	
	⑦ 奈文研1991『1990年度平城概報』p. 36～43、奈文研1991『1991年度年報』p. 27～29		⑧ PL. 20 Ph. 54	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数28。脚裾外反、端部折り返して幅広い面をつくる。内外面ロクロナデ。透孔下に細沈線2条。			
428	① 220・165次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAY GO28-GR28 910306-910307 6AAY BE32 850516	③ 瓦溜・大土坑 下瓦層	SK12050 包含層
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径21.0 硯面径15.3 残高3.3	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1991『1990年度平城概報』p. 36～43、奈文研1991『1991年度年報』p. 27～29		⑧ PL. 20 Ph. 54	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数20。硯面外周に細突帯。幅広い海部。直立する外堤。硯部内面不定方向ナデ。他はロクロナデ。422・423・424・433と類似。猿投窯産。SK12050は式部省築地西外方の土坑。下瓦層は南外方。			
429	① 220次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAY GS25 910312	③ 南土坑	
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径29.6 残高6.3	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1991『1990年度平城概報』p. 36～43、奈文研1991『1991年度年報』p. 27～29		⑧ PL. 21 Ph. 55	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数22。透孔下部に突帯1条。脚端内外肥厚。脚柱内面ロクロナデ。外面縦ケズリ。透孔内側面取り。脚台下内面に火樨き。342・350・431と類似。式部省築地内片底内側の土坑。			
430	① 220次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAY HC24 910118	③ 暗褐砂質土	包含層
	④ 風字硯（平頭）	⑤ 長径5.8 短径5.4 厚さ0.7	⑥ 正置倒置不明	
	⑦ 奈文研1991『1990年度平城概報』p. 36～43、奈文研1991『1991年度年報』p. 27～29		⑧ PL. 21 Ph. 55	
	⑨ 鈍角に開く2辺残存。多角形脚柱剥離。外堤上面ヘラケズリ。硯面平滑、外周沿いにナデ。硯部裏面ケズリ。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
431	① 165・222次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAI DK98 850523 6AAI AL57 910605	③ 東西溝（古） 南北大溝 最下層	SD4100A SD11620
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径27.4 残高6.0	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1992『1991年度平城概報』p. 20～38、奈文研1992『1992年度年報』p. 23～25		⑧ PL. 21 Ph. 55	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数22。脚柱幅に広狭。透孔下に突帯1条。透孔内側面取り。脚台下内面に火襷き。342・429と類似。SD4100Aは南面築地内側溝で平城宮土器Ⅲ。SD11620は式部省東官衙西側溝。須恵器杯蓋内面使用の朱墨転用硯伴出。			
432	① 229次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAY HQ22 920527	③ 灰褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径24.0 硯面径20.4 残高4.5	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 3～23、奈文研1993『1993年度年報』p. 23～26		⑧ PL. 21 Ph. 55	
	⑨ 復原脚数24。丸みのある硯面肩。薄く外傾する外堤。先端欠。外堤下に細突帯2条。台形状脚頭。硯部内面有段ロクロナデ。			
433	① 229次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAY HK11 920603	③ 小穴①	
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.2	⑥ 倒置（脚内面降灰）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 3～23、奈文研1993『1993年度年報』p. 23～26		⑧ Ph. 55	
	⑨ 長方形透孔。脚数不明。透孔下細沈線1条。内外面ロクロナデ。硯部428と同一個体。脚部422～424は類似する別個体。			
434	① 235次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAY BL59 920904	③ 土坑	
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 残高5.2	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 3～23、奈文研1993『1993年度年報』p. 23～26		⑧ Ph. 55	
	⑨ 脚数不明。脚柱・脚台内面横ケズリ。下・外面ロクロケズリのちロクロナデ。付着物あり。脚柱外面削り残しあり。			
435	① 235次	② 南辺官衙・式部省地区 6AAI BN67 920920	③ 土坑①	
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径21.9 硯面径16.0 残高4.5	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 3～23、奈文研1993『1993年度年報』p. 23～26		⑧ Ph. 55	
	⑨ 上端が丸い広狭2種の透孔、四弁花形透孔か。復原透孔数8組。外堤上端内肥厚。肉厚の脚部上端に受け口状の突帯。硯部内面ロクロナデ、中央部不定方向ナデ。261・296・360と類似。348と同一個体か。			
436	① 236次	② 南辺官衙・式部省東官衙 6AAI BP58 921028	③ 瓦入りくぼみ	包含層
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 脚部径26.6 残高5.0	⑥ 倒置（脚台下面降灰）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 24～38、奈文研1993『1993年度年報』p. 27～29		⑧ PL. 21 Ph. 56	
	⑨ 復原脚数19。細棒状脚柱。脚柱内面一部縦ケズリ。肉厚脚台の上面ナデ、他面はケズリのちナデ。531と同一個体か。			
437	① 236次	② 南辺官衙・式部省東官衙地区 6AAI BP58 921028	③ 瓦入りくぼみ	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 残高5.8	⑥ 正置（外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 24～38、奈文研1993『1993年度年報』p. 27～29		⑧ Ph. 56	
	⑨ 脚数不明。脚柱～脚台内面横ケズリ。脚台下面外面ロクロナデ。脚台内端突出。透孔側面切りママ。脚柱飾り貼付痕。			
438	① 236次	② 南辺官衙・式部省東官衙 6AAI BN53 921021	③ 黄褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径26.8 硯面径21.3 残高4.5	⑥ 正置（脚頭上面降灰）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 24～38、奈文研1993『1993年度年報』p. 27～29		⑧ PL. 21 Ph. 56	
	⑨ 復原脚数21。硯部内面有段ロクロナデ。硯部内面下半横ケズリ。平滑で薄い硯面。直立気味外堤下に突帯2条。			
439	① 236次	② 南辺官衙・式部省東官衙 6AAH DC47 920916	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 硯面径9.6 残高2.6	⑥ 正置倒置不明	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 24～38、奈文研1993『1993年度年報』p. 27～29		⑧ PL. 21 Ph. 56	
	⑨ 長方形透孔？ 脚数不明。硯部・脚部共に肉厚。硯面平滑。硯部内面凹凸あり。表層のみ黒色で瓦質。摩滅。			
440	① 236次	② 南辺官衙・式部省東官衙 6AAH DC41 921015	③ 炭土坑 灰色土	SK15427
	④ 圈足円面硯a	⑤ 突帯径約28 残高3.4	⑥ 正置か（突帯上面僅かに降灰）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 24～38、奈文研1993『1993年度年報』p. 27～29		⑧ Ph. 56	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24。外傾する肉厚な外堤。端部外肥厚。外堤下部に高い突帯1条。脚柱厚手。硯部内面ナデ。硯部外面ロクロナデ。349などと胎土形態類似。平城宮土器Ⅱ伴出。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
441	① 238次	② 東区朝堂院地区・東第五堂 6AAV MQ36 930120	③ 床土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径約25 残高5.8	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 39～48、奈文研1993『1993年度年報』p. 29～30		⑧ Ph. 56	
	⑨ 脚数不明。外傾外堤下に突帯2条。外堤・硯部外面カキメ後ナデ。硯部内面ロクロナデ。脚柱内面横ケズリ。			
442	① 238次	② 東区朝堂院地区・東第五堂 6AAV MS27 930121	③ 混礫暗灰砂	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 残高5.4	⑥ 正置（外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 39～48、奈文研1993『1993年度年報』p. 29～30		⑧ Ph. 56	
	⑨ 脚柱内面横ケズリ。透孔側面切りママ。脚柱飾りを貼り付ける以前に目印の沈線2条。			
443	① 238次	② 東区朝堂院地区・東第五堂 6AAV 930308	③ 基壇北土管溝断割	
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径28.8 残高1.9	⑥ 倒置（脚部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1993『1992年度平城概報』p. 39～48、奈文研1993『1993年度年報』p. 29～30		⑧ PL. 21 Ph. 56	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数40。外曲する脚裾端部下肥厚。内外面ロクロナデ。奈良時代後半の東第五堂基壇に関わる。			
444	① 241次	② 内裏東方官衙・造酒司地区 6ALP KI43 930427	③ 暗褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径22.6 残高4.6	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1994『1993年度平城概報』p. 11～23、奈文研1994『1994年度年報』p. 15～17		⑧ Ph. 57	
	⑨ 復原脚数24。脚柱脚台内面横ケズリ。下面ロクロナデ。内端突出。脚柱貼付け痕。透孔側面切りママ。445と同一個体。			
445	① 241次	② 内裏東方官衙・造酒司地区 6ALP KF42 930521	③ 暗灰礫土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 残高5.9	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1994『1993年度平城概報』p. 11～23、奈文研1994『1994年度年報』p. 15～17		⑧ Ph. 57	
	⑨ 復原脚数24。脚柱・脚台内面横ケズリ。下面ロクロナデ。内端突出。透孔側面切りママ。脚柱貼付け痕。444と同一個体。			
446	① 241次	② 内裏東方官衙・造酒司地区 6AAD PI11 930518	③ 暗灰礫土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約29 残高5.4	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1994『1993年度平城概報』p. 11～23、奈文研1994『1994年度年報』p. 15～17		⑧ Ph. 57	
	⑨ 復原脚数24？ 脚柱脚台内面ロクロナデ。脚台下面折り返して外端突出、ロクロナデ。脚柱外面削り残しあり。			
447	① 241次	② 内裏東方官衙・造酒司地区 6ALP・6AAD ZZ 930624	③ 排土	
	④ 圈足円面硯	⑤ 突帯径約24 残高3.9	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1994『1993年度平城概報』p. 11～23、奈文研1994『1994年度年報』p. 15～17		⑧ Ph. 57	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数36？ 外堤欠損。低い突帯1条。硯部内面ナデ。106等と胎土形態類似。456と同一個体か。			
448	① 243次	② 東院南辺地区 6ALF AN49 931018	③ 灰褐砂質土	包含層
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 脚部径33.5 残高2.4	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1994『1993年度平城概報』p. 24～41、奈文研1994『1994年度年報』p. 17～19		⑧ Ph. 57	
	⑨ 復原脚数20。薄板状脚台。脚台内面ロクロケズリ。幅広三角形の脚柱剝離。外面はナデ調整。182など焼成色調類似。			
449	① 243次	② 東院南辺地区 6ALS DE30 930706	③ 瓦集積	SK16275
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径14.8 硯面径10.6 残高3.3	⑥ 倒置（硯部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1994『1993年度平城概報』p. 24～41、奈文研1994『1994年度年報』p. 17～19		⑧ PL. 21 Ph. 57	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数16。硯部内外面ロクロナデ。太い突帯1条。脚柱中央に縦沈線1条。透孔上部に凹線1条。			
450	① 243次	② 東院南辺地区 6ALS DF17 930615	③ 黄褐土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径25.0 硯面径18.8 残高3.2	⑥ 正置（突帯上面降灰、外堤に重焼痕）	
	⑦ 奈文研1994『1993年度平城概報』p. 24～41、奈文研1994『1994年度年報』p. 17～19		⑧ PL. 21 Ph. 57	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数30。硯面肩丸く、広い海部。突帯が太く外堤が複合口縁状をなす。硯部内面有段ロクロナデ。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
451	① 245-2次	② 東院庭園地区・東面大垣 6ALF BN15 940207	③ 南北溝	SX16305
	④ 円面硯	⑤ 硯面径23.0 残高2.5	⑥ 倒置?（硯部内面降灰?）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）PL. 92-516、奈文研1994『1993年度平城概報』p. 51~57		⑧ Ph. 58	
	⑨ 硯面部のみ。硯部内面有段ロクロナデ。硯面平滑ロクロナデ。外縁わずかに上肥厚。蹄脚円面硯? 池SG5800への導水路。			
452	① 245-2次	② 東院庭園地区・東面大垣 6ALF BN16 940207	③ バラス土	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 残高4.6	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）PL. 92-516、奈文研1994『1993年度平城概報』p. 51~57		⑧ Ph. 58	
	⑨ 脚柱内面横・斜ケズリ。逆台形脚台、下面・外面ロクロナデ。脚台内端突出。脚柱飾り接合明瞭。透孔側面切りママ。			
453	① 245-1次	② 東院南辺地区 6ALF AF56 940204	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径12.0 硯面径9.2 残高2.8	⑥ 正置（硯面・外堤上面降灰）	
	⑦ 奈文研1994『1993年度平城概報』p. 24~41、奈文研1994『1994年度年報』p. 17~19		⑧ PL. 21 Ph. 58	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数14。硯面の肩丸く、外周の凹圏線で区切る。硯部内面ロクロナデのちナデ。外堤上端凹線状。側面に三角形突帯1条。透孔側面切りママ。猿投窯産。			
454	① 245-2次	② 東院庭園地区・東面大垣 6ALF CD18 940120	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高3.4	⑥ 倒置?（内外面降灰）	
	⑦ 奈文研2003『平城報告XV』（学報69）不掲載、奈文研1994『1993年度平城概報』p. 51~57		⑧ Ph. 58	
	⑨ 幅広脚柱中央縦沈線1条。透孔下細凹線1条。透孔側面切りママ。内外面ロクロナデ。247と類似。248・249と同一か。			
455	① 256次	② 南辺官衙・式部省東官衙地区 6AAI AO48 950513	③ ピット	
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高6.4	⑥ 正置（外面下半降灰）	
	⑦ 奈文研1995『1994年度平城概報』p. 15~17、奈文研1995『1995年度年報』p. 76~77		⑧ Ph. 58	
	⑨ 脚柱1本。細長方形透孔。内外面ロクロナデ。透孔外面側面小さく面取り。279に類似。			
456	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6AAD OS14 950601	③ 黒灰バラス	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 突帯径約24 残高3.9	⑥ 正置（突帯上面・海部降灰）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ Ph. 58	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数36。剝離した外堤下に低い突帯1条。硯部内面ナデ。106等と胎土形態類似。447と同一個体か。			
457	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6ALQ JB36 950822	③ 東西大溝灰褐砂	SD11600
	④ 圈足円面硯c	⑤ 外堤径5.6 硯面径4.4 残高1.3	⑥ 倒置（硯部内面降灰、釉状顕著）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ PL. 21 Ph. 58	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数18。硯面ロクロナデ、中央に指痕。低い外堤の下部に細突帯1条。肉厚の硯部に薄い脚部。			
458	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6AAD OK11 950721	③ 橙色バラス	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 硯面径4.6 残高1.4	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ PL. 21 Ph. 58	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数19。外堤欠損。硯部内外面ロクロナデ。猿投窯産。			
459	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6AAD OA16 950828	③ 東西大溝褐色粗砂	SD11600
	④ 圈足円面硯b	⑤ 外堤径17.7 硯面径11.8 残高2.9	⑥ 倒置（硯部内面降灰、付着物あり）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ PL. 21 Ph. 58	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数16。脚柱中央に縦沈線1条。太い突帯1条。硯面傾斜面ロクロナデ。硯部内面不定ナデ。			
460	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6ALQ JB38 950821	③ 東西大溝木屑層	SD11600
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径15.2 残高2.0	⑥ 倒置（脚端内面降灰）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ PL. 21 Ph. 58	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数24。脚端外反下肥厚。脚端外面に透孔切込みの傷。猿投窯産。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
461	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6ALQ JB42 950818	③ 東西大溝灰褐粗砂	SD11600最下層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径19.0 残高0.9	⑥ 倒置 (脚端内面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ PL. 21 Ph. 58	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数36。脚端上肥厚。内外面ロクロナデ。猿投窯産。			
462	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6ALQ JA39 950927・950817	③ 東西大溝橙褐礫砂・床土	SD11600
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径15.9 残高5.1	⑥ 倒置 (内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ PL. 21 Ph. 58	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数22。脚端外反上肥厚。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。463・467と同一個体。猿投窯産。			
463	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6ALQ JA37 950818	③ 東西大溝上層暗灰粘質土	SD11600
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径15.9 残高3.9	⑥ 倒置 (内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ Ph. 58	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数22。脚端外反上肥厚。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。462・467と同一個体。猿投窯産。			
464	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6AAD OC16 950831	③ 灰褐バラス	SD11600
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 硯面径10.3 残高1.5	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ Ph. 59	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数36? 硯部内面ロクロナデ。傾斜海部との境に突線。外堤剥離。外堤下に突帯1条。摩滅顕著。			
465	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6AAD OC16 950901	③ 灰褐バラス	SD11600
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高6.0	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ Ph. 59	
	⑨ 長方形透孔。脚柱基部肉厚。脚端外反。内外面ロクロナデ。透孔下に細沈線1条。透孔側面切りママ。466と同一個体。			
466	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6AAD OA13 950820	③ 東西大溝灰褐粗砂	SD11600最下層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高6.3	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ Ph. 59	
	⑨ 長方形透孔。脚柱基部肉厚。脚端外反。内外面ロクロナデ。透孔下に細沈線1条。透孔側面切りママ。465と同一個体。			
467	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6ALQ JA39 950817	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.1	⑥ 倒置 (内面降灰釉状)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ Ph. 59	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数22。脚端外反上肥厚。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。463・462と同一個体。猿投窯産。			
468	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6ALQ JT39 950817	③ 床土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.2	⑥ 倒置 (脚台内面わずかに降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ Ph. 59	
	⑨ 脚柱1本。透孔切り込み斜め、正逆三角形か台形透孔か。脚数不明。脚端外反、下肥厚。内外面ロクロナデ。			
469	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6ALQ JA42 950818	③ 東西大溝 木屑層	SD11600
	④ 形象硯 (鳥形硯)	⑤ 長径18.9 短径11.7 残高9.3	⑥ 正置 (上面降灰、硯面部覆い焼)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21 図7-1、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ PL. 22 Ph. 59	
	⑨ 頭・尾・脚端部欠損。頭部寄りにく字形突帯で海部と硯面とを区分。頸部に首輪のヘラ描きと墨書による羽毛を表現。墨書「道」。硯部下面に折り曲げた鳥の脚2本貼り付け。両脚間に布目圧痕。			
470	① 259次	② 内裏東方官衙・造酒司地区南辺 6ALQ JB38 950802	③ 床土	包含層
	④ 形象硯 (亀形硯蓋)	⑤ 長径6.3 短径4.5 残高0.8	⑥ 正置 (上面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 4~21 図7-2、奈文研1996『1996年度年報』p. 12~14		⑧ PL. 22 Ph. 59	
	⑨ 頸部側の破片。表面頸部側に房状、体部中央に亀甲文のヘラ描き。外周ヘラケズリの後ヘラミガキ。内面に針描き×文。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成 (窯痕跡)	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
471	① 261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MM36 951006	③ 暗褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 突帯径約24 残高5.8	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 22～29、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 60	
	⑨ 復原脚数24? 肉薄で外傾する外堤の端部が丸い。外堤下に突帯2条。硯部下半内面横ケズリ。			
472	① 261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MJ35 951009	③ 暗褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高4.4	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 22～29、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 60	
	⑨ 肉厚幅広の脚柱1本。脚柱内面縦ケズリ、外面の縦ケズリは弧を描く。脚柱飾り接合痕明瞭。			
473	① 261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MN37 951005	③ 暗褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径20.4 残高4.2	⑥ 正置 (脚台上面薄く降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 22～29、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 60	
	⑨ 復原脚数24。脚柱内面口ロナデ。脚台下外面口ロナデ。内端突出。透孔内側面取り。脚柱外面削り残しあり。			
474	① 261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MO36 951006	③ 暗褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高4.2	⑥ 正置 (外面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 22～29、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 60	
	⑨ 低い脚柱。脚柱内面横ケズリ。脚台下外面口ロナデ。脚台外端突出。209・344・406など類似。			
475	① 261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MH30 960110	③ 柱穴①抜取	SB16800
	④ 円面硯	⑤ 硯面径19.0 残高2.0	⑥ 正置 (海部かすかに降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 22～29、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 60	
	⑨ 硯部内面有段口ロナデのち不定方向ナデ。硯面中央部垂下。幅狭平坦な海部。蹄脚円面硯Bか。奈良前半の東第六堂。			
476	① 261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MM31 951017	③ 暗褐土	包含層
	④ 円面硯	⑤ 長径5.2 短径3.0 厚さ0.6	⑥ 倒置 (内面薄く降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 22～29、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 60	
	⑨ 薄手の硯面中央部片。硯面裏口ロナデ。硯面摩滅。硯面重ね焼痕。蹄脚円面硯か。			
477	① 261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MK30・ML31 951215・951215	③ 上層基壇土・北東抜取穴	SB16850
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径28.2 残高1.8	⑥ 倒置 (脚部内面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 22～29、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ PL. 22 Ph. 60	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数38。脚部下半外曲、端部下肥厚。透孔内側面取り。479・478と同一。奈良時代後半の東第六堂基壇土。			
478	① 261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MK30 951215	③ 上層基壇土	SB16850基壇土
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.6	⑥ 倒置 (内面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 22～29、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 60	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数38。477・479と同一個体の脚柱。透孔内側面取り。奈良時代後半の東第六堂基壇土。			
479	① 261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MK30 951215	③ 上層基壇土	SB16850基壇土
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.0	⑥ 倒置 (内面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 22～29、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 60	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数38。477・478と同一個体の脚柱。透孔内側面取り。奈良時代後半の東第六堂の基壇土。			
480	① 261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MH33 951227	③ 南壁沿い断割	
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径29.6 残高2.1	⑥ 正置 (突帯上面降灰)	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 22～29、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 60	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数44。脚台に凹線による突帯2条。脚台内・下・外面口ロナデ。481・493と同一個体。			

番号	① 次数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
481	① 265・261次	② 東区朝堂院地区・東第六堂 6AAV MB48・MH30 960219・960111	③ 橙褐色・柱穴①抜取	SB16800
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 硯面径21.3 脚部径29.6 器高9.2	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 31～38、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ PL. 22 Ph. 60	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数44。肉厚。透孔の上下に突帯各2条。脚柱内面横ケズリ。硯部内面ロクロナデ、中央部ナデ。透孔側面切りママ。硯面に墨痕。480と同一個体。267次の493と接合。SB16800は奈良時代前半の東第六堂。			
482	① 265次	② 東区朝堂院地区・南門（会昌門） 6AAV MD31 960130	③ 茶褐色	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径約30 残高5.4	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 31～38、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 61	
	⑨ 復原脚数24？ 脚柱内側幅広い面取り。脚台内外面ロクロナデ。脚台内端突出。494に類似。			
483	① 265次	② 東区朝堂院地区・南門（会昌門） 6AAV MB46 960215	③ 橙褐色	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高5.3	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 31～38、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 61	
	⑨ 脚柱1本。脚柱内面横ケズリのちナデ。脚柱外面削り残しあり。脚台内端小さく突出。484と同一個体か。			
484	① 265次	② 東区朝堂院地区・南門（会昌門） 6AAV MD36 960214	③ 土坑①	
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 残高6.8	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 31～38、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 61	
	⑨ 脚柱内面横ケズリ後ナデ。脚柱外面削り残し。台形脚台の下・外面ロクロケズリ後ナデ。483と同一個体か。			
485	① 265次	② 東区朝堂院地区・南門（会昌門） 6AAV ME33 960213	③ 穴②	
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径約30 残高6.0	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 31～38、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 61	
	⑨ 脚柱内面横・斜めケズリ。外面削り残し。脚台下・外面ロクロケズリ後ナデ。内端突出。脚部491、硯部492と同一個体。			
486	① 265次	② 東区朝堂院地区・南門（会昌門） 6AAV MC33 960131	③ 茶褐色	包含層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 脚部径28.8 残高2.1	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 31～38、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ PL. 22 Ph. 61	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数30。透孔下に突帯1条。外傾脚端部上肥厚。342・350・431などと胎土・形態類似。			
487	① 265次	② 東区朝堂院地区・南門（会昌門） 6AAW LD35 960223	③ 築地南面崩壊土	
	④ 圈足円面硯 b	⑤ 外堤径14.0 硯面径10.0 残高2.6	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 31～38、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ PL. 22 Ph. 61	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数15。硯部内面不定方向ナデ。他はロクロナデ。薄手の外堤端部凹線状。外堤下に長い突帯1条。硯面覆い焼。奈良時代後半の朝堂院を囲む築地の崩壊土。			
488	① 265次	② 東区朝堂院地区・南門（会昌門） 6AAW LE46 960220	③ 築地北雨落溝	SD17011
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.4	⑥ 正置（脚柱外面降灰）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 31～38、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 61	
	⑨ 細長方形透孔。脚柱内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。SD17011は奈良時代後半の朝堂院南面築地北雨落溝。			
489	① 265次	② 東区朝堂院地区・南門（会昌門） 6AAV MD31 960130	③ 茶褐色	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.8	⑥ 倒置（内面降灰）	
	⑦ 奈文研1996『1995年度平城概報』p. 31～38、奈文研1996『1996年度年報』p. 14～16		⑧ Ph. 61	
	⑨ 細長方形透孔。脚数不明。脚柱内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			
490	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW LE23 960607	③ 築地雨落溝	SD17011
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径約30 残高5.4	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ Ph. 61	
	⑨ 脚柱・脚台内面横ケズリ。脚台内端突出。透孔側面切りママ。脚柱外面削り残しあり。奈良時代後半の築地北雨落溝。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
491	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAV MD25 960507	③ 茶褐バラス	包含層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約30 残高6.1	⑥ 正置（脚台上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ Ph. 61	
	⑨ 脚柱内面横ケズリ。脚柱外面削り残し。脚台下外面ロクロケズリのちナデ。脚台内端突出。485・492と同一個体。			
492	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW LE25・LE27 960606・960606	③ 瓦堆積・瓦堆積	SD17011上層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径25.3 硯面径20.4 残高5.4	⑥ 正置（外堤内側まで降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ PL. 23 Ph. 61	
	⑨ 球形脚頭剝離。復原脚数24。海部傾斜面。外堤下に凹線による突帯2条。硯部内面無段ロクロナデ。下半横ケズリ。奈良時代後半の南面築地北雨落溝SD17011の上層。脚部485・491と同一個体。			
493	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAV ME36 960308	③ 橙褐土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径29.6 残高3.0	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ Ph. 61	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数44。脚台に凹線2条による突帯2条。脚台内・下・外面ロクロナデ。480と同一個体。481と接合。			
494	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW LE28 960513	③ 雨落溝	SD17011
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径27.2 残高5.6	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ PL. 23 Ph. 62	
	⑨ 復原脚数24。脚柱内面横ケズリ。透孔内側面広く面取り。台形脚台、内外面ロクロケズリ後ロクロナデ。内端突出。			
495	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW LC27 960607	③ 黄褐土	SD16940の上
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径27.6 残高6.3	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ PL. 23 Ph. 62	
	⑨ 復原脚数22。脚柱脚台内面横ケズリ後ナデ。脚台内端突出。透孔内側面小さく面取り。496と同一個体。築地築造時？			
496	① 267・32次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW LB27 960410 6AAI ZZ 660000	③ 黄褐土	SD16940の上
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径27.6 残高6.2	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ Ph. 62	
	⑨ 異地点接合。復原脚数22。脚柱脚台内面横ケズリのちナデ。脚台内端突出。透孔内側小さく面取り。495と同一個体。			
497	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW KR14 960530	③ 南北溝 下層	SD17351
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 脚部径32.2 残高2.5	⑥ 倒置（脚台下面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ PL. 23 Ph. 62	
	⑨ 復原脚数45。板状脚台中央に細棒状脚柱。脚台内外面ロクロナデ、下面板状圧痕。溝は上層築地造営時、奈良時代前半。			
498	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW KT14 960529	③ 南北溝	SD17351
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 外堤径23.7 硯面径18.6 残高4.0	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ PL. 23 Ph. 62	
	⑨ 復原脚数24。硯部内面有段ロクロナデ。硯部下半横ケズリ。外堤下突帯2条。溝は上層築地造営時、奈良時代前半。			
499	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW KR11 960703	③ 東西大溝 中層	SD17352
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径26.1 残高4.8	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ PL. 23 Ph. 63	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24。複合口縁状の外堤。内外面ロクロナデ。503と同一個体。溝は上層築地造営時。			
500	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW KQ21 960523	③ 黄灰土	包含層
	④ 圈足円面硯a	⑤ 外堤径27.3 残高4.0	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ PL. 23 Ph. 63	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24。肉厚外堤。硯部内面無段ロクロナデ。透孔上部に三角形突帯1条。456などに形状胎土類似。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
501	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW LC14 960524	③ 茶褐バラス	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.2	⑥ 正置（突帯上面・外面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ Ph. 63	
	⑨ 長方形透孔。脚数不明。脚柱肉厚。脚端内傾面に火襷き。透孔下に突帯1条。内外面ロクロナデ。			
502	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW LE28 960415	③ 茶色粘質土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径約33 残高4.2	⑥ 正置（外面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ Ph. 63	
	⑨ 長方形透孔。透孔数不明。透孔下に三角形突帯1条。429などと形態・胎土が類似。			
503	① 267次	② 東区朝堂院地区・南面築地 6AAW KR11 960703	③ 東西大溝 下層	SD17352
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径28.2 残高3.6	⑥ 倒置（脚部内面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 4～13		⑧ PL. 23 Ph. 63	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数24。外曲する脚部。脚柱外側面取り。透孔下に細沈線1条。複合口縁形外堤の499と同一個体か。			
504	① 273次	② 南辺官衙・式部省東官衙地区 6AAI BR28 961030	③ 灰褐土	包含層
	④ 蹄脚円面硯A	⑤ 脚部径26.5 残高2.0	⑥ 倒置（脚台下面降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 31～40		⑧ PL. 23 Ph. 63	
	⑨ 復原脚数18。扁平な板状脚台上面に5角柱形棒状脚柱、内側に補強粘土。脚台内外面ロクロケズリ。下面ケズリ。			
505	① 273次	② 南辺官衙・式部省東官衙地区 6AAI BR33 961112	③ 東西溝①	SD17515
	④ 円面硯（無脚）	⑤ 外堤径17.8 硯面径13.8 器高1.3	⑥ 倒置（底部外面降灰、外堤以内重焼）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 31～40		⑧ PL. 24 Ph. 63	
	⑨ 硯部内面有段ロクロナデ。海部裏ロクロケズリ。硯面外縁明確な稜。獣脚の可能性あり。奈良時代末の官衙北築地雨落溝。			
506	① 273次	② 南辺官衙・式部省東官衙地区 6AAI BO25 961028	③ 灰褐土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.4	⑥ 正置？（外面にわずかな降灰）	
	⑦ 奈文研1997『年報1997-Ⅲ』p. 31～40		⑧ Ph. 63	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。内外面ロクロナデ。透孔外側面かすかに面取り。胎土・色調から507と同一個体か。			
507	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BQ20 970423	③ 溝 木屑層	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高7.3	⑥ 正置？（外面にわずかな降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ Ph. 63	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。脚幅1.6cm。透孔下端に沈線1条。大きさ・胎土・色調から506と同一個体か			
508	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BC14 970424	③ 西側溝 茶灰土	SD4951最上層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径24.8 硯面径20.0 残高5.6	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ Ph. 64	
	⑨ 復原脚数24。外傾気味の外堤剝離。突帯2条。脚頭3個剝離。硯部内面ロクロナデ。510と同一個体。奈良時代後半以降。			
509	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BE14 970430	③ 西側溝 茶灰土	SD4951最上層
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 脚部径約31 残高4.3	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ Ph. 64	
	⑨ 脚柱2本。復原脚数24。脚柱内面・脚台下面横ケズリ。脚台内外面ナデ。透孔内側面切りママ。脚柱貼付法明瞭。			
510	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BC14 970411	③ 灰白土	SD4951氾濫土
	④ 蹄脚円面硯B	⑤ 突帯径24.8 硯面径20.0 残高3.6	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ PL. 24 Ph. 64	
	⑨ 復原脚数24。外傾気味の外堤剝離。突帯2条。脚頭3個剝離。硯部内面ロクロナデ。508と同一個体。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
511	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BD13 970507	③ 西側溝 木屑層	SD4951最下層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径27.8 硯面径21.7 残高4.1	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ PL. 24 Ph. 64	
	⑨ 細長方形透孔。復原脚数36。器壁肉厚。直立する外堤端部内傾面。外堤下突帯2条。硯部内面ナデ。481と形状類似。			
512	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BR21 970617	③ 東西溝 砂礫層	SD17515
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径23.2 硯面径17.3 残高4.4	⑥ 倒置（突帯下面・内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ PL. 24 Ph. 64	
	⑨ 十字形透孔。復原透孔数15。硯面より低い外堤。端部平坦。長い突帯1条。内外面ロクロナデ。硯面に細かな擦痕。			
513	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BJ19 970602	③ 南北大溝①砂礫層	SD3410最下層
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径14.4 硯面径8.4 残高2.4	⑥ 倒置（硯部内面降灰釉状・溶着物）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15 図9-79		⑧ PL. 24 Ph. 64	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数20。硯面外周に小突帯。傾斜する広い海部。内外面ロクロナデ。外堤以内に墨痕。			
514	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI B014 970610	③ 西側溝 木屑層	SD4951最下層
	④ 風字硯	⑤ 残存長12.9 残存幅10.5 残高1.5	⑥ 倒置（硯部裏面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15 図9-78		⑧ PL. 24 Ph. 65	
	⑨ 眉形突帯で海部を区分。硯面は型作り。硯頭～側縁に外堤。硯尻は直線。硯尻隅の円形脚剥離。側縁削り。猿投窯産。			
515	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI B019 970619	③ 南北大溝①砂礫層	SD3410
	④ 円形硯(輪状高台)	⑤ 外堤径21.2 高台径18.1 器高3.6	⑥ 倒置（硯部裏面降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15 図9-80		⑧ PL. 24 Ph. 65	
	⑨ 皿状の硯部に内傾面をもつ高い高台が付く。内外面ロクロナデ。硯面中央部不定方向の擦痕。奈良時代後半の堆積層。			
516	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BB13 970501	③ 西側溝 黒灰粘土	SD4951上層
	④ 形象硯	⑤ 残存長5.7 残存幅7.8 残高2.4	⑥ 倒置（硯部裏面降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15 図9-81		⑧ PL. 24 Ph. 65	
	⑨ 截頭形の硯頭。双弧形の海部。周縁底面ともケズリ。裏に六角形脚剥離痕2個。硯頭部に方形剥離痕。517と同一個体。			
517	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BD14 970506	③ 西側溝 灰褐砂	SD4951中層
	④ 形象硯	⑤ 残存朝6.5 残存幅2.3 残高2.4	⑥ 倒置（硯部裏面降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15 図9-81		⑧ PL. 24 Ph. 65	
	⑨ 弧状の外縁に突帯状外堤。周縁ケズリ。裏面不定方向ケズリ、六角形脚剥離痕1個。516と同一個体。報告では宝珠硯。			
518	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BL20 970611	③ 南北大溝①砂礫層	SD3410
	④ 蹄脚円面硯?	⑤ 硯面径21.0 残高2.1	⑥ 正置（硯面一部降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ Ph. 66	
	⑨ 大型硯面部のみ。硯部内面有段ロクロナデ後ナデ・当具痕? 硯面ロクロナデのち不定方向ナデ。奈良時代後半の堆積層。			
519	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BN14 970611	③ 西側溝 木屑層	SD4951最下層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径12.0 残高3.8	⑥ 倒置（内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ PL. 24 Ph. 66	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数12。玉縁形脚部の肩に細突帯、下端は内外肥厚。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			
520	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BC13 970506	③ 西側溝 灰褐砂	SD4951
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径25.0 残高6.7	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ PL. 24 Ph. 66	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数26。脚台上半に突帯3条。脚台下面内端突出。内外面ロクロナデ。透孔側面切りママ。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告		⑧ PL, Ph	
	⑨ 備 考			
521	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BN14 970611	③ 西側溝 木屑層	SD4951最下層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高5.6	⑥ 倒置（脚柱内外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ Ph. 66	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。内外面ロクロナデ、内面のロクロ目顕著。透孔側面切りママ。猿投窯産。			
522	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BK20 970611	③ 南北大溝①砂礫層	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高8.2	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ Ph. 66	
	⑨ 長方形透孔。透孔上部に三角形突帯1条。透孔下に細沈線1条。透孔側面4隅面取り。奈良時代後半の堆積層。			
523	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BQ19 970616	③ 南北大溝①砂礫層	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高6.1	⑥ 倒置（脚柱内面降灰）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ Ph. 66	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。脚上部肉厚。外面縦方向ケズリか。内面ロクロナデ。奈良時代後半の堆積層。			
524	① 274次	② 式部省東・東面大垣地区 6AAI BJ19 970602	③ 南北大溝①砂礫層	SD3410
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.6	⑥ 倒置（脚柱内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1998『年報1998-Ⅲ』p. 4～15		⑧ Ph. 66	
	⑨ 脚柱1本。長方形透孔。透孔下部に細沈線1条。内外面ロクロナデ、内面ロクロ目顕著。透孔側面切りママ。猿投窯産。			
525	① 292次	② 東院西辺地区 6ALR FP26 980520	③ 黄灰土	包含層
	④ 圈足円面硯 c	⑤ 外堤径12.5 硯面径9.0 残高1.5	⑥ 倒置（内面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研1999『年報1999-Ⅲ』p. 36～45		⑧ PL. 24 Ph. 66	
	⑨ 幅広長方形透孔。復原脚数6。外傾する低い外堤。突帯より下の脚部が内湾。硯面外縁に小突帯、中央に重焼痕（径6cm）。			
526	① 296次	② 第一次大極殿院地区・西南隅 6ABR ED65 981127	③ 赤褐バラス	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 脚部径約30 残高5.2	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研1999『年報1999-Ⅲ』p. 17～23		⑧ Ph. 66	
	⑨ 脚柱1本。脚柱内面横ケズリ。脚柱外面に削り残しあり。透孔側面小さく面取り。脚台下外面ロクロナデ、外端突出。			
527	① 305次	② 第一次大極殿院地区・西面築地回廊 6ABP IE68 990825	③ 灰色炭混土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径17.7 残高3.0	⑥ 倒置（突帯下面降灰）	
	⑦ 奈文研2000『年報2000-Ⅲ』p. 14～23		⑧ PL. 24 Ph. 67	
	⑨ 長方形（十字形？）透孔。復原脚数8。脚柱幅広。透孔下に突帯1条。脚端下面に同径の重焼痕。内外面ロクロナデ。透孔外側面取り。灰色炭混土はⅡ期の築地SC14280の崩壊土。伴出土器も奈良時代末。			
528	① 305次	② 第一次大極殿院地区・西面築地回廊 6ABP ID72 990818	③ 灰色粘土	包含層
	④ 圈足円面硯	⑤ 残高4.2	⑥ 倒置（脚端内面降灰？）	
	⑦ 奈文研2000『年報2000-Ⅲ』p. 14～23		⑧ Ph. 67	
	⑨ 長方形透孔。復原透孔数8？ 幅広脚柱に縦沈線6条以上。脚端外反。内外面ロクロナデ。近現代遺物を含む。			
529	① 315次	② 第一次大極殿院地区西方 6ACC LI18 20000605	③ SD3825 暗黒粘土	SD3825
	④ 圈足円面硯 a	⑤ 外堤径8.3 硯面径5.4 残高2.2	⑥ 正置（脚柱外面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研2001『紀要2001』p. 92～97		⑧ PL. 24 Ph. 67	
	⑨ 長方形透孔。復原脚数10。海部傾斜。外堤側面櫛描き波状文。内外面ロクロナデ。外堤上の重焼痕に墨痕。猿投窯産。			
530	① 315次	② 第一次大極殿院地区西方 6ACC LI18 20000605	③ SD3825 灰色砂	SD3825
	④ 圈足円面硯	⑤ 脚部径8.7 残高3.1	⑥ 倒置（脚端内面降灰）	
	⑦ 奈文研2001『紀要2001』p. 92～97		⑧ PL. 24 Ph. 67	
	⑨ 長方形と縦長十字形透孔。復原脚数16。外曲する脚部端上下肥厚。内外面ロクロナデ。猿投窯産？ 奈良時代後半の溝。			

番号	① 次 数	② 出土地点	③ 遺構・層序	遺構番号
	④ 陶硯の種類	⑤ 法 量	⑥ 焼成（窯痕跡）	
	⑦ 概報・報告			⑧ PL, Ph
	⑨ 備 考			
531	① 346次	② 朝集殿院東地区 6AAH DG65 20030314	③ 瓦溜り	SD11990
	④ 蹄脚円面硯 A	⑤ 脚部径26.2 残高6.3	⑥ 正置（脚台上面降灰）	
	⑦ 奈文研2004『紀要2004』p. 128～135 図144-2			⑧ PL. 24 Ph. 67
	⑨ 厚い脚台に細棒状脚柱。復原脚数19。脚台上面ナデ、他はロクロケズリ。436と同一個体か。遺構は奈良時代前半。			
532	① 355次	② 朝集殿院地区内庭 6AAX IP16 20030415	③ 茶灰土	包含層
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 突帯径25.7 硯面径19.8 残高4.4	⑥ 正置（突帯上面降灰釉状）	
	⑦ 奈文研2004『紀要2004』p. 128～135 図144-1			⑧ PL. 24 Ph. 67
	⑨ 復原脚数24？ 外堤下に突帯2条。大粒脚頭。硯部内面有段ロクロナデ、海部裏に沈線1条。外堤以内は覆い焼。			
533	① 000次	② 宮内省東南方 6AAD ?? 980599	③ 表採	
	④ 蹄脚円面硯 B	⑤ 硯面径20.8 残高4.8	⑥ 正置（突帯上面降灰）	
	⑦			⑧ PL. 24 Ph. 67
	⑨ 復原脚数21。円柱形で高い脚頭。硯部内面有段ロクロナデ、中央部に圧痕。硯面ミガキ状平滑。			